

第 51 回 日本生態学会大会プログラム

会期 2004 年 8 月 25 日 (水) – 8 月 29 日 (日)
会場 釧路市観光国際交流センター・釧路プリンスホテル

[目次]

● 大会会場へのアクセス (交通案内)	2
● 地図	3
● 注意事項	4
● 託児の案内	5
● 大会日程の概略	6
● 会場案内	7
● 大会日程表	8
● 「宮地賞」「論文賞」授賞式・受賞記念講演	10
● 第 7 回 日本生態学会 公開講演会	10
● シンポジウムと自由集会	11
● 一般講演 (ポスター・口頭発表)	34
● 参加者名簿	56
● 第 52 回日本生態学会大会 (2005 年 3 月 大阪) のご案内	72
● [要旨] 第 8 回宮地賞受賞者・受賞記念講演	73
● [要旨] シンポジウム	77
● [要旨] 一般講演・ポスター発表	109
● [要旨] 一般講演・口頭発表	299

大会本部 (8 月 25 日 – 8 月 29 日)

〒 085-0017 釧路市幸町釧路市観光国際交流センター・釧路プリンスホテル

大会会長: 神田房行 / 実行委員長: 齊藤 隆

電話: 0154-31-1993

ファクシミリ: 0154-31-1994

電子メール: jes51@ees.hokudai.ac.jp

大会公式ホームページ: <http://jes.ees.hokudai.ac.jp/>

<http://jes.ees.hokudai.ac.jp/i/> (携帯電話用 web)

● 大会会場へのアクセス (交通案内)

釧路空港から (阿寒バス <http://www.akanbus.co.jp/>)

釧路空港 → 釧路駅バスターミナル → MOO → 釧路プリンスホテル
(始点) 50分 5分 2分 (終点)

* MOO (ムー) は釧路市内にある「フィッシャーマンズワーフ」でバスターミナルがあります

釧路空港へ (阿寒バス)

MOO → 釧路プリンスホテル → 釧路駅バスターミナル → 釧路空港
(始点) 2分 5分 50分 (終点)

- バス料金は釧路空港から各停留所まで一律 910 円です。
- バスは飛行機が到着する時や出発する時間に合わせて運行されています。従って一日の本数は限られています。
- タクシーだと、釧路空港から JR 釧路駅までは約 30 分で料金は 5,300 円です。

JR 釧路駅から

徒歩 釧路プリンスホテルまで 10 分、釧路観光国際交流センターまで 13 分です。

タクシー 釧路プリンスホテル、釧路国際交流センターまで 5 分、料金は 470 円です。

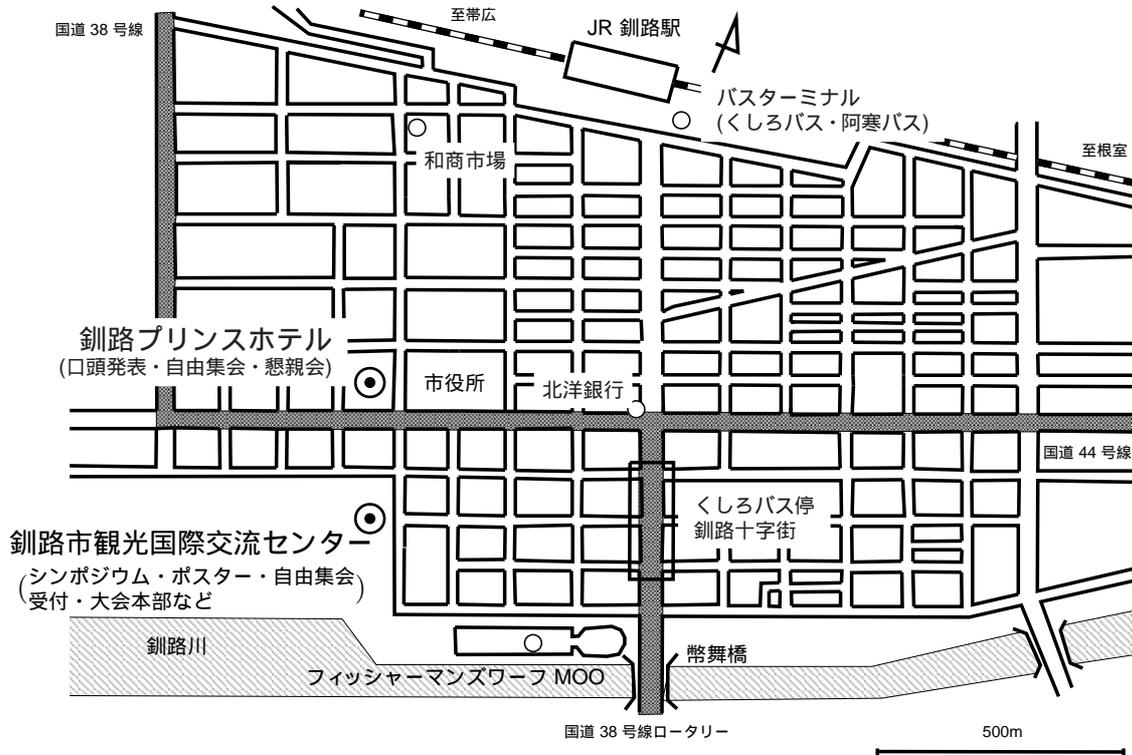
バス バスターミナルからくしろバスで 5 分、会場に最も近いバス停は釧路十字街です。

バスターミナル発のバスの殆どは釧路十字街を通ります。バス料金は 200 円です。バスに乗る際は念のため釧路十字街を通るかどうか運転手に確認してください。バスターミナルから釧路十字街を通るバスの番号は: ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯

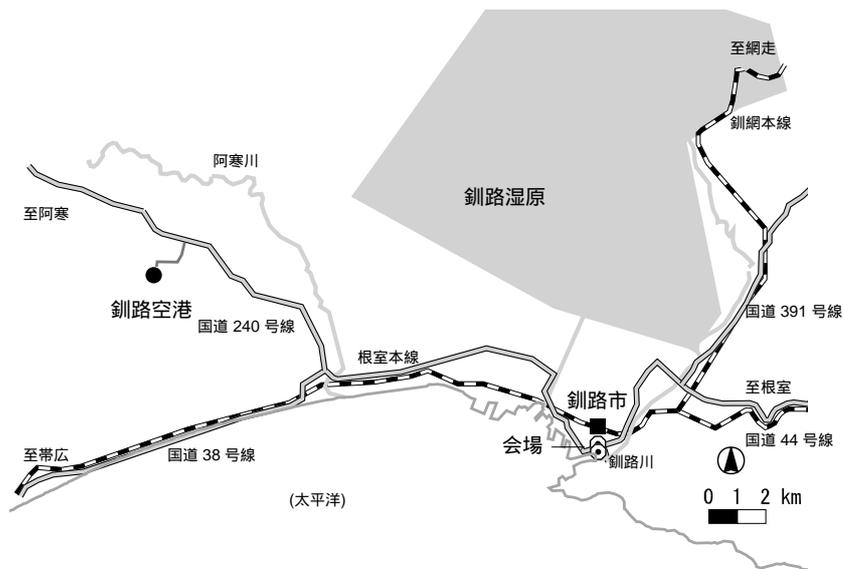
クルリクン 都市循環バス。JR 釧路駅や釧路十字街、MOO (ムー) などを循環しているバスです。ただし営業時間は 10:00 から 18:00 まで。時間帯によりますがおよそ 20 ないし 30 分毎に循環しています。料金は一律 100 円です。

● 地図

釧路市内 (大会会場周辺)



釧路市近郊の地図



● 注意事項

駐車場

- 会場には駐車スペースはありません。車で来られる方は、市内の駐車場を利用してください。

受付

- 8月25日(水)13時から受付を開始します。当日受付も可能です(一般・学生とも6,000円)。
- 会場では必ず名札を付けてください。
- 一般講演が始まる8月26日(木)朝は受付の混乱が予想されます。当日受付の方はお早めにお越しになることをお勧めします。この日は8:45から受付を始めます。

一般講演(口頭発表)

- 口頭発表で使用できる機器はOHPのみです。スライドは使用できません。OHPは発表者自身で操作してください。
- 講演時間は発表12分・質疑応答3分の合計15分です。一鈴10分、二鈴12分、三鈴14分30秒です。時間は厳守してください。
- 座長:各講演者が次の講演の座長をお願いします。午前と午後の最初の座長は、大会実行委員会で対応します。
- 進行に関しては、座長の指示に従ってください。

一般講演(ポスター発表)

- ポスター発表は12:30までに展示を完了し、当日17:30までに撤去してください。
- 展示場所は、ポスター会場(C会場)の展示ボードに講演番号で指示されています。
- ポスター展示ボードの大きさは一人180cm×90cm(縦長)です。塗装していないベニヤ板です。
- ポスター貼付用のピンや画鋏は、なるべく各自で用意ください。セロハンテープは使用できません。
- ポスターセッションの時間帯は12:30-14:30です。発表者はポスターの前で説明してください。

シンポジウム(実行委員会企画・公募)

- シンポジウムでの発表には液晶プロジェクターが使えます。液晶プロジェクターに接続するコンピューターはシンポジウム企画者の責任で準備してください。詳しくは実行委員会からメールで連絡します。

自由集会

- 自由集会で使用できる機器はOHPのみです。スライドは使用できません。OHPの操作は企画者の責任でお願いします。
- 液晶プロジェクターの使用する場合は、企画者の責任で液晶プロジェクターとそれに接続するコンピューターを準備ください。
- 自由集会には会場係がつきません。問題ありましたら大会本部まで御連絡ください。

懇親会

- 懇親会は8月27日(金)午後6時半から「釧路プリンスホテル」で開かれます。
- 「釧路プリンスホテル」はメイン会場の「釧路市観光国際交流センター」から徒歩3分です。
- 当日参加の場合、学生割引はありません(一般、学生とも7,000円)。
- 会場はあまり大きくなくたくさんの人は入れないので、当日参加をお断りすることがあります。

要旨集

- 大会に参加できない方で講演要旨をご希望の方は、大会実行委員会へお申し込みください。一冊3000円(送料込)で承ります。代金は郵便振替で下記に振り込みください。大会終了後に郵送します。

口座番号: 02750-1-62431

口座名称: JES51

● 託児の案内

大会参加者が同伴されるお子さんの託児を行います。ただし、事前に申し込みをされた方に限りです。託児を希望される方は、申込書と同意書に必要事項を記入し、捺印のうえ、大会事務局まで郵送してください。申込書は下記のWebサイトからプリントアウトするか、大会事務局までご請求ください。

<http://homepage3.nifty.com/heroforkids/>

対象年齢: 0歳から小学校低学年まで(ご相談に応じます)

託児時間: 2004年8月26日(木)–28日(土)の9:00–17:30

託児場所: 釧路観光国際交流センター G会場(3F; 和室)

利用料金: お子さん1人につき1時間800円

(ただし兄弟でお預かりする場合は2人目から半額)

申込締切: 8月16日(月)

● 大会日程の概略

(すべて 2004 年 8 月です)

25 日 (水): 各種委員会 (釧路市観光国際交流センター)

将来計画専門委員会	9:30-12:00	B 会場
保全生態学研究編集委員会	13:00-15:30	B 会場
外来種問題検討作業部会	9:30-11:00	D 会場
自然保護専門委員会	11:00-13:30	D 会場
生態系管理専門委員会	9:30-11:00	E 会場
Ecological Research 編集委員会	13:00-15:30	E 会場
生態学教育専門委員会	13:00-15:30	F 会場
大規模長期生態学専門委員会	9:30-12:00	I 会場
日本生態学会誌編集委員会	13:00-15:30	I 会場
全国委員会	16:00-18:30	D 会場

27 日 (金) 14:30 より: 総会・受賞記念講演会 (釧路市観光国際交流センター A 会場)

宮地賞授賞式 / 論文賞授賞式
 宮地賞受賞記念講演
 総会

25 日 (水)–28 日 (土): シンポジウム・ポスター発表・自由集会

[釧路市観光国際交流センター]

	25 日 (水)	26 日 (木)	27 日 (金)	28 日 (土)
シンポジウム (企画・公募)		ABDE 会場	ABDE 会場	ABDE 会場
ポスター発表		C 会場	C 会場	C 会場
自由集会		ABDEI 会場		ABDEI 会場

[釧路プリンスホテル]

	25 日 (水)	26 日 (木)	27 日 (金)	28 日 (土)
自由集会	U 会場			
課題別口頭発表		U-Z 会場	U-Z 会場	

27 日 (金) 18:30–20:30: 懇親会 (釧路プリンスホテル)

29 日 (日) 9:30–12:30: 第 7 回 公開講演会 (釧路市観光国際交流センター A 会場)

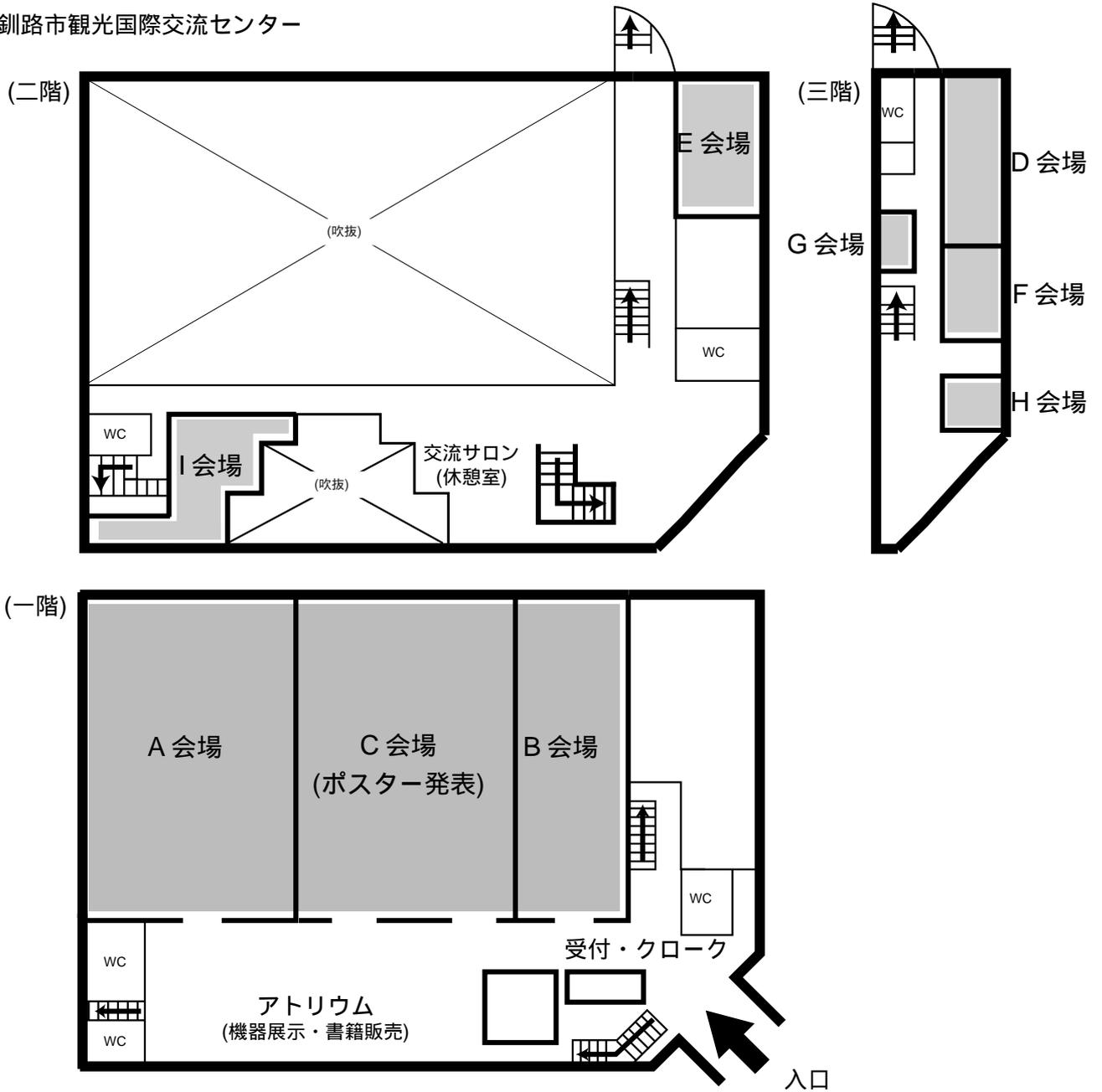
テーマ: 「湿原の自然再生」
 企画者: 神田房行 (北海道教育大釧路校)・中村太士 (北海道大学)

25 日 (水): エコカップ

ついにエコカップが日本フットサル発祥の地、北海道にやってきました。今年は、2004 年 8 月 25 日 (水) に釧路市コミュニティ体育館鳥取ドームで開催されます。遠隔地の狭い会場での開催となりご不便をおかけしますが、前回までと同様に熱い戦いが繰り広げられることを期待しています。詳しくは、エコカップ・ホームページ (<http://cse.ffpri.affrc.go.jp/nagamit/ecocup2004.html>) をご覧ください。

● 会場案内

釧路市観光国際交流センター



釧路プリンスホテル (二階)



● 大会日程表

8月25日(水)

	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	
釧路市観光国際交流センター													
入口付近						受付 (13:00-17:00)							
A 会場									自由集会 G14 外来種新法				
B 会場	将来計画専門委員会			保全生態学研究編集委員会			G1 生物地理学的歴史						
C 会場													
D 会場	外来種問題検討作業部会		自然保護専門委員会			全国委員会							
E 会場	生態系管理専門委員会					Ecological Research 編集委員会			G5 知床を探る				
F 会場						生態学教育専門委員会							
G 会場													
H 会場	大会本部												
I 会場	大規模長期生態学専門委員会			日本生態学会誌編集委員会						G7 炭素フラックス			
アトリウム	機器・書籍展示												
交流サロン													
釧路プリンスホテル													
U 会場											G10 数理的手法・保全		
エコカップ 2004 (釧路市コミュニティ体育館鳥取ドーム)													

8月26日(木)

	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	
釧路市観光国際交流センター													
入口付近						受付 (08:45-17:00)							
A 会場	企画・公募シンポジウム L1 日本生態学会のめざすところ					S3 シカ管理			自由集会 G21 ニホンジカ管理				
B 会場	S8 湿地湿原再生						S6 空間スケール			G9 保全生態学研究			
C 会場	(ポスターはりつけ)			ポスター発表									
D 会場	S5 流域生態系保全						S10 北川生態学術研究			G22 アグロエコロジー			
E 会場	S9 東アジア保全管理						S2 大規模長期生態学			G8 二酸化炭素吸収			
F 会場	大会本部 (08:45-18:00)												
G 会場	託児所 (09:00-17:30)												
H 会場													
I 会場											G2 小笠原自然再生		
アトリウム	機器・書籍展示												
交流サロン	休憩室												
釧路プリンスホテル													
U 会場	口頭発表 物質生産・物質循環			口頭発表 物質生産・物質循環									
V 会場	植物群落			植物群落									
W 会場	動物植物相互作用			動植物相互作用			群集生態						
X 会場	保全・管理			保全・管理									
Y 会場	個体群生態			個体群生態									
Z 会場	生理生態			生理生態			繁殖・生活史						
休憩室	休憩室												

8月27日(金)

	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
釧路市観光国際交流センター												
入口付近	受付											
A会場	企画・公募シンポジウム L2 北からの視点				受賞講演・総会							
B会場	S11 要望書のききめ											
C会場	(ポスターはりつけ)				ポスター発表							
D会場	S12 自然再生											
E会場	S4 アポイ岳高山植物											
F会場	大会本部											
G会場	託児所 (09:00-17:30)											
H会場												
I会場												
アトリウム	機器・書籍展示											
交流サロン	休憩室											
釧路プリンスホテル												
U会場	行動・社会生態								懇親会			
V会場	景観生態											
W会場	群集生態											
X会場	保全・管理											
Y会場	個体群生態											
Z会場	繁殖・生活史											
休憩室	休憩室											

8月28日(土)

	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
釧路市観光国際交流センター												
入口付近	受付											
A会場	企画・公募シンポジウム, 自由集会 L3 北海道からカムチャッカ				自由集会 G15 生態系エンジニア				自由集会 G20 自然再生 GIS			
B会場	S7 サクラソウ遺伝学				G3 エコツアーリズム				G16 データ解析・統計			
C会場	(ポスターはりつけ)				ポスター発表							
D会場	S1 ブナ・ミズナラ				G6 生物多様性科学				G19 陸水低湿地保全			
E会場	G4 空間構造と食物網				G18 植生地理学				G17 街に出よ			
F会場	大会本部											
G会場	託児所 (09:00-17:30)											
H会場												
I会場	G11 マネーのとらまる				G13 植物の生理生態				G12 タンチョウ保全			
アトリウム	機器・書籍展示											
交流サロン	休憩室											
G23 フェノロジー研究会 (19:30-22:00; 会場外)												

8月29日(日)

	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
釧路市観光国際交流センター												
A会場	企画シンポジウム・公開講演会 L4 湿原の自然再生											
F会場	大会本部											
アトリウム	機器・書籍展示											
エクスカージョン												

● 「宮地賞」「論文賞」授賞式・受賞記念講演

8月27日(金) 14:30より 釧路市観光国際交流センター A会場

第8回宮地賞受賞者・受賞記念講演演題

松浦 健二 (ハーバード大学・進化生物)

「シロアリ進化生態学: その社会の総合的解明に向けて」

近藤 倫生 (龍谷大学理工学部)

「複雑な種間相互作用が生物多様性を維持する: 『柔軟な食物網』仮説の提案」

● 第7回 日本生態学会 公開講演会

8月29日(日) 09:30-12:30 釧路市観光国際交流センター A会場

L4 湿原の自然再生

企画責任者: 神田房行 (北海道教育大釧路校)・中村太士 (北海道大学)

釧路湿原はこの20年あまり急速に変化してきています。その原因はいろいろ考えられますが、はっきりしていることの1つは湿原に流入する河川改修が行われた結果、土砂流入が非常に多くなっているということです。また、湿原周辺の農地開発もおこわれており開発地域からの土砂、糞尿、肥料などの流入も考えられます。そのような中で、湿原環境の復元を目指して1999年には「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」が設けられこれまで様々な検討がなされてきました。また、2003年1月には「自然再生推進法」が施行され、推進法に基づいた「自然再生協議会」が発足して釧路湿原をモデルケースとして自然再生の活動が開始されています。しかし一方では自然再生事業についての疑問や反対の意見を持つ人も少なくありません。シンポジウムでは釧路湿原を舞台とした自然再生予定の現場での調査結果、蛇行河川復元計画などをもとに湿原の自然再生についての考え方や自然保護の観点からの意見などもいろいろと出していただいで活発な議論をおこなえたらと思っています。

挨拶・趣旨説明: 神田房行 (日本生態学会釧路大会会長)

中村太士 (北海道大学)

「釧路湿原流域の現状と課題、そして再生の考え方」

星野一昭 (環境省)

「釧路湿原の保全と再生 - 釧路方式がめざすもの」

平井康幸 (国土交通省)

「釧路湿原再生における河川管理者の取り組み」

中村隆俊 (北海道教育大学釧路校)

「釧路湿原再生のための現地調査報告」

村上興正 (日本生態学会自然保護専門委員会)

「自然再生を考える - 自然保護の立場から」

コメンテーター: 鷲谷いづみ (日本生態学会会長)

● シンポジウムと自由集会

L: 企画シンポジウム; S: 公募シンポジウム; G: 自由集会

8月25日(水)

夜(18:00-20:30)

- [G1] 日本列島の生物地理学的歴史
- [G5] 地の涯・知床を探る
- [G7] MAFES 「炭素フラックスの時空間変動」
- [G10] 生態学における数理的手法 — 野外生物集団の保全(18:30-21:00)
- [G14] 環境省『外来種新法』とセイヨウオオマルハナバチ

8月26日(木)

午前(09:30-12:30)

- [L1] 日本生態学会のめざすところ— 純粋科学, 基礎科学, 応用科学のはざままで
- [S5] 流域生態系の保全・修復戦略 — 生態学的ツールとその適用
- [S8] 日本のウェットランドの自然再生は可能か — 故きを温ねて新しきを知る湿地生態学 —
- [S9] Conservation and management of national parks and other protected areas in Europe and East Asia

午後(14:30-17:30)

- [S2] 大規模長期生態学研究とは何か?
- [S3] Ecosystem management としてのシカ管理
- [S6] 生態学と空間スケール: Multiple spatial scale approaches in ecology
- [S10] 北川で得られた河川生態学術研究の成果

夜(18:00-20:30)

- [G2] 小笠原諸島の自然再生と利用に研究者はどう関われるのか?
- [G8] 北海道の森林によるCO₂吸収 — フラックス観測サイトからの報告 —
- [G9] 保全生態学研究会自由集会 — 保全生態学における外来種対策と市民との協働 —
- [G21] 自然植生保全とニホンジカ管理 — 保全生態学の挑戦 —
- [G22] アグロエコロジー研究会: 農村生態系の再生: 「風土の記憶」をどう読み込むか?

8月27日(金)

午前(09:30-12:30)

- [L2] 生態学への北からの視点
- [S4] 北海道アポイ岳の高山植物群落
- [S11] 大規模開発につける薬 — 生態学会要望書の「ききめ」を検証する
- [S12] 自然再生事業を生態学に活かす

8月28日(土)

午前(09:30-12:30)

- [L3] 北海道からカムチャッカへ
- [S1] プナ VS ミズナラ
- [S7] サクラソウの生態学と集団遺伝学 — エコゲノムプロジェクトの展開
- [G4] 河川生態系の空間構造と食物網の関係(09:30-12:00)
- [G11] マネーのとらまる(09:30-12:00)

午後(14:30-17:00)

- [G3] 日本におけるエコツーリズムの現状と研究者の役割
- [G6] 生物多様性科学の統合をめざして
- [G13] 植物の生理生態: 生理生態学に有効な非破壊的測定技術
- [G15] 生態系エンジニアとしての大型動物 - 環境変化を介した相互作用とその影響 -
- [G18] 第9回植生地理学の視点: 上部温帯林再考

夜(18:00-20:30)

- [G12] これからのタンチョウの保全管理に向けて
- [G16] データ解析で出会う統計的問題 — 多重検定と多重比較をめぐって
- [G17] 生態学者よ、街に出よ!
- [G19] 陸水低湿地における生物多様性保全研究の現状と方向性
- [G20] 自然再生事業で生態系保全をどう図るか? — GISによる環境把握の重要性と活用手法 —
- [G23] フェノロジー研究会「分布限界形成にかかわるフェノロジー」(19:30-22:00)

企画シンポジウム

8月26日(木) 09:30-12:30 A会場

L1 日本生態学会のめざすところ — 純粋科学，基礎科学，応用科学のは ざままで

企画責任者: 嶋田正和(東京大学)・工藤慎一(鳴門教育大学)・甲山隆司(北海道大学)

近年，生物多様性保全や生態系管理など，自然科学と社会の接点に位置し生態学に関連するとされる課題に社会の目が向けられている。

それに伴って，日本生態学会の中でも，保全生態分野は毎年の大会で多くの講演を集める主要なセッションの一つとなっている。これを受けて当学会は，保全生態学研究会の雑誌「保全生態学研究」を日本生態学会の第二和文誌として取り込み，さらには学会内に新たに生態系管理委員会を設置し，さまざまな環境政策に対して学会としての方針を検討し要望書を出していく体制を，今までにも増して強化しつつある。

しかし，このような形で社会と積極的に関わろうとする日本生態学会の姿勢は，本当に学会を構成する個々に広く受け入れられているのだろうか？会員個々からの異議申し立ての機会，その是非を時間をかけて議論する場は，これまで明確には用意されなかったように思われる。日本生態学会は構成員に開かれた組織である。組織運営に構成員の多様な意見を積極的に吸い上げる努力を惜しむべきではないだろう。

日本生態学会はどこへ向かうのか？そして，日本生態学会，ひいては自然科学の学術団体の社会的意義，求められている社会的責任とは何か？参加者各人にとって，これらを自分自身の問題として考える機会になれば幸いである。

司会: 甲山隆司(北海道大学)

趣旨説明: 嶋田正和(東京大学)

パネリスト:

巖佐 庸(九州大学)，松田裕之(横浜国立大学)，粕谷英一(九州大学)，

工藤慎一(鳴門教育大学)，平川浩文(森林総研・北海道)，

岡本裕一郎(玉川大学)

企画シンポジウム

8月27日(金) 09:30-12:30 A会場

L2 生態学への北からの視点

企画責任者: 齊藤隆(北海道大学・フィールド科学センター)

北海道はいうまでもなく日本のもっとも北に位置する．その気候はアジアモンスーン帯というよりはむしろヨーロッパ型の寒冷・乾燥気候に近い．そしてそこに住む生物の生活やその群集には，日本の他の地域と違う独特のパターンが見て取れる．一例を上げれば，寒冷地では，少数の種が多数の個体数で生息する，といった特徴が見られる．このシンポジウムでは，そのような「北」に共通してみられる要素が，どのような力学系の上に成立しているのかを，いくつかのトピックについて分析した結果を紹介し，最近注目されてきた「南北差」にもとづく多様な生態学的パターンについて理解を深めたい．

齊藤 隆(北海道大学・フィールド科学センター)

「『南北差』をめぐる最近の動き(趣旨説明に代えて)」

時田 恵一郎(大阪大・サイバーメディアセンター)

「北の一様，南の多様：大規模多種力学系の理論から」

森田健太郎・福若雅章(北水研・釧路)

「増えるも減るもお里次第：北方性魚類の資源変動と気候変動」

石原 道博(大阪女子大学・理学部)

「高緯度ほど強くなる植食性昆虫の寄主選好性：化性-変動仮説の検証」

新妻 靖章 (名城大学・農学部)
「潜水性海鳥の分布と体温維持機構」

企画シンポジウム

8月28日(土) 09:30-12:30 A会場

L3 北海道からカムチャッカへ

企画責任者: 石川幸男 (専修大学北海道)・原登志彦 (北海道大学)・向井 宏 (北海道大学)

北海道に隣接するロシア極東域の千島列島からカムチャッカ半島は、戦前の調査を除いて、1980年代までは日本に知られることが少なかった。1990年以降、依然としてフィールドワークが容易とはいえない状況下とはいえ、往来が部分的に自由化され、国際的な共同研究も進んでいる。生態学会において、海洋の影響が卓越するこの地域のまとまった紹介はこれまでなく、植物、動物を網羅して研究の現状と問題点を紹介する。温帯から亜寒帯への推移領域に位置するこの地域は、島嶼部分が多いこともあって、陸上動植物に対する環境変動の影響の表れ方が大きい可能性がある。また、海洋環境の変動は、いわゆる北方四島の、豊かな海洋生態系に影響する懸念がある。現地で精力的に調査を行ってこられた以下の五氏に現状を報告していただき、環境変動のもたらす問題と今後の課題を考えたい。

- 「国際共同研究による千島列島フロラの特性研究」
高橋英樹 (北海道大学総合博物館)
- 「北海道～カムチャッカの植生分布とその成因」
沖津 進 (千葉大学園芸学部)
- 「カムチャッカにおける植生動態と環境変動」
原登志彦 (北海道大学低温科学研究所)
- 「北方四島の海洋生態系～北方四島調査の概要と課題～」
小林万里 (学術振興会・特別研究員 PD)
- 「オホーツク海の環境変動と生物生産」
中塚 武 (北海道大学低温科学研究所)

公募シンポジウム

8月28日(土) 09:30-12:30 D会場

S1 ブナ VS ミズナラ

企画責任者: 中村幸人 (東京農業大学地域環境科学部)

日本の冷温帯の夏緑広葉樹林を代表する樹種はブナとミズナラである。そして北半球に広げてもブナ属とナラ属の好敵手関係は、例えば欧州や北米でもその地域の夏緑広葉樹林成立の木 (key) となっている。共通して言えることにブナ属は温帯海洋性気候下の保守的な極相種、ナラ属は大陸性気候下の革新的な極相種というくり方ができると思う。保守的なブナ属は恵まれた土地的気候的条件下に成立するが、革新的なナラ属は大陸に広がり、ブナ属のテリトリーにあっては二次林で広がったり、扇状地や岩角地に土地的に出現したり、活発である。この性格の異なる二者の好敵手関係はどのように築かれているのであろうか。北海道にはブナ林の北限があり、ミズナラ林と対当している。その北限がどのような要因によって決まるのか、多くのアイデアが出された場所でもある。「ブナ VS ミズナラ」に異なる切り口で迫ってみたい。シンポジウムの進め方はミクロからマクロの視点でと考える。一つは遺伝子、個体群、種組成、景観という広がり、一つは日本から、極東、アジア、北半球という地理的広がりに沿って進めたい。

1. 戸丸信弘 (名古屋大学大学院生命農学研究科)
日本のブナ属における遺伝的多様性と系統地理
2. Martin Speier (Hannover University, Inst. Geobotany)
Dynamics of Holocene migration and mass expansion of *Fagus sylvatica* (L.) in Central European mountains
3. 小林誠 (立正大学大学院地球環境科学研究科)・渡邊定元 (森林環境研究所)

ブナ分布北限域におけるブナとミズナラ

4. 角張嘉孝・高野正光・横山憲 (静岡大・農), 向井謙 (岐阜大・生), アルトロサンチェス (カナダ・アルバータ大)
苗場山ブナ林における分光反射特性を利用したアップスケーリング
5. 星野義延 (東京農工大学農学部地域生態システム)
ミズナラ林の植生地理
6. Pavel V. Krestov¹, Jong-Suk Song² & Valentina P. Verkholat¹ (¹ Inst. of Biology & Soil Science, Vladivostok/Russia;
² Andong National University, College of Natural Sciences /Korea)
A phytosociological survey of the deciduous temperate forests of mainland Asia
7. 藤原一絵 (横浜国立大学大学院環境情報研究院)
東アジアのナラ林 vs ブナ林-とくに中国と日本の相違性と相似性, どのような環境要因が決め手になるのか?
8. Richard Pott (Hannover University, Inst. Geobotany)
Development of European beech forests in the Holocene

公募シンポジウム

8月26日(木) 14:30-17:30 E会場

S2 大規模長期生態学研究とは何か?

企画責任者: 中静透 (総合地球環境学研究所)

2003年の生態学会において、大規模長期生態学委員会が設けられました。この委員会は、米国や中国などで行われているような大規模で長期にわたる生態学的研究を日本においても推進するために議論を深めることを目的としています。これまで、Eメールにより委員間で議論してきましたが、1) そもそも「大規模長期生態学」とはどんなものを指すのかについて研究者のイメージが異なる、2) これまでの大型プロジェクトや国際的共同研究プログラムなどと若い研究者にとって自ら参加したい研究プロジェクトとの間にギャップがある、などの問題点があることがわかりました。

この委員会では、今後数回にわたって大規模長期生態学に関するシンポジウムを企画していきたいと思っておりますが、今回は初回でもあるので、そもそも「大規模長期生態学とはなにか?」という問題について、大規模あるいは長期の研究を経験した若手研究者の経験話を話してもらい、若い研究者にとっておもしろい大規模長期研究とはどんなものなのか?を議論します。同時に、こうした大規模長期研究の企画が、いかに大型プロジェクトとして国際的共同研究プログラム等と連携して展開できるか、という方向についても今までの経験に基づいて議論し、今後の委員会の議論の方向を定めたいと思っております。

中静透

大規模長期生態学委員会は何をするのか

川村健介

草原生態系の保全と持続的利用 - 衛星モニタリングとGPS/GISの応用 -

小泉逸郎

河川性サケ科魚類のメタ個体群動態: 長期データ解析とモデリング

福島路生

ダムによる流域分断と淡水魚の多様性低下 - 北海道における過去40年のデータから言えること -

正木隆・柴田銃江

数ヘクタールのプロットで挑む樹木群集の解明 - 繁殖から動態まで -

コメント・ディスカッション

国際的共同研究プログラムなどから考える大規模長期研究

大型研究プロジェクトと若手研究者

公募シンポジウム

8月26日(木) 14:30-17:30 A会場

S3 Ecosystem managementとしてのシカ管理

企画責任者: 梶光一 (北海道環境科学研究センター)・常田邦彦 (自然環境研究センター)

知床国立公園は、1964年に国立公園に指定されて以来、原生自然環境保全地域、生態系保護地域、国設鳥獣保護区が相次いで指定されており、我が国でも最も保護の網のかかった国立公園である。さらに、2003年にはユネスコの世界遺産への登録申請が行なわれている。近年、知床ではエゾシカの高密度化にともなう自然植生への被害が健在化したことから、エゾシカの管理計画の作成が求められている。本シンポジウムでは、知床におけるエゾシカ個体群と自然植生の長期モニタリング結果をもとに、「Ecosystem managementとしてのシカ管理」のあり方について議論する。

常田邦彦（自然環境研究センター）

1. はじめに：国立公園におけるニホンジカ問題

宮木雅美（北海道環境科学研究センター）

2. シカが森林動態に与える長期的影響 洞爺湖中島の事例

岡田秀明（知床財団）

3. 知床半島のシカ分布と個体群動態

小平真佐夫（知床財団）

- 4-1. 知床岬の森林植生の変化

石川幸男（専修大学北海道短期大学）・佐藤謙（北海学園大学）

- 4-2. 知床岬の海岸草原植生の変化

梶光一（北海道環境科学研究センター）

5. エゾシカの爆発的増加：natural regulation か control か

松田裕之（横浜国立大学）

- コメント：植物のリスク管理とシカ個体群管理の統合（案）

鳥居敏男（環境省東北北海道地区自然保護事務所）

- コメント：知床国立公園とシカ管理

公募シンポジウム

8月27日（金） 09:30–12:30 E会場

S4 北海道アポイ岳の高山植物群落

企画責任者：渡辺定元（立正大学環境科学部）・増沢武弘（静岡大学理学部）

アポイ岳は、北海道日高山脈の南東部に位置し、標高は約800mであるが、その稜線上には高山植物群落が見られる。この山の母岩はカンラン岩であり、稜線付近はそれらの風化により土壌が生成されている。このカンラン岩由来の土壌・海岸気象条件が、低い標高においても高山植物が残存している理由といわれている。近年、この特殊な高山植物群落が急速に減少しつつある。このような現状において、40年間の植生の記録を基にその変遷、現在の群落の状態、わずかに残ったヒダカソウの個体群の現状について報告を行う。

はじめに

渡辺定元（立正大学環境科学部）

1. アポイ岳における高山植物群落の40年間の変遷

渡辺定元（立正大学環境科学部）

2. アポイ岳・幌満岳の超塩基性岩植生

佐藤謙（北海学園大学工学部）

3. カンラン岩土壌における植物群落の遷移

増沢武弘（静岡大学理学部）

光田準（静岡大学理学部）

名取俊樹（国立環境研究所）

4. ヒダカソウ (*Callianthemum miyabeianum*) 個体群の動態

西川洋子（北海道環境科学研究センター）

宮木雅美（北海道環境科学研究センター）

大原雅（北海道大学大学院地球環境科学研究科）

高田壯則（北海道東海大学国際文化学部）

5. アボイ岳の植生保護に関する現状
田中正人（様似町アボイ岳ビジターセンター）

公募シンポジウム 8月26日(木) 09:30-12:30 D会場

S5 流域生態系の保全・修復戦略 生態学的ツールとその適用

企画責任者: 永田俊(京大大学生態学研究センター)・谷内茂雄(総合地球環境学研究所)

1997年の河川法改正によって、治水・利水に加え、河川環境の整備と保全が河川管理の目的に組み込まれた。また、2001年に改訂された環境基本計画では、流域を単位とした健全な水循環の確保が重要課題として掲げられている。このような背景から、水・物質循環と生態系のダイナミクスを総合的に把握し、流域圏の環境を保全・修復する方法を探ることが重要な課題となっている。本シンポジウムでは、「階層的な流域診断モデルの構築と実践」、「総合的な流域診断ツールとしての安定同位体指標の構築」、「生物群集やその生息場所からみた流域環境評価法の確立」、「理論研究によるマネージメント支援」といった観点から、「生態学的ツール」の有効性や問題点を探り、流域生態系の総合的な保全と管理にかかわる新たな方法論開発の可能性について検討することを目的としている。

座長 原雄一((株)パシフィック・コンサルタンツ)・山村則男(京大生態研)
谷内茂雄(地球研)

流域管理モデルにおける新しい視点—統合化へむけて

陀安一郎(京大生態研)

流域生態圏の環境診断—安定同位体アプローチ

竹門康弘(京大防災研)

河川生態系評価の生息場所-群集アプローチ

加藤元海(京大生態研)

群集動態論に立脚した湖沼生態系マネージメント理論

コメンテーター 矢原徹一(九大院理)・三橋弘宗(兵庫県人と自然博)・高村典子(国環研)

公募シンポジウム 8月26日(木) 14:30-17:30 B会場

S6 生態学と空間スケール: Multiple spatial scale approaches in ecology

企画責任者: 仲岡雅裕(千葉大学大学院自然科学研究科)

「生態学には一般法則はあるのだろうか？」従来の生態学、特に個体群生態学や群集生態学は、主に小スケールでの定量的比較調査や野外操作実験に基づく解析により、この問題にアプローチしていた。しかし、得られた一般的結論は、個体群や群集の動態に影響を与える主要な要因の重要性があまりにも条件依存的に変化するため、統一的な理論の確立にはほど遠いというものであった。この著しい条件依存性が生ずる原因の1つとして、個体群や群集の変動に関与する複数の要因がそれぞれ異なる空間スケールで作用している点が挙げられる。大空間スケールで作用する要因(例えば、気候や地質学的要因)は、小空間スケールで働く要因(例えば、競争や捕食などの種間相互作用)の作用機構に影響を与える。従来の生態学は、この点の認識が不十分であったが、あるいは認識していたにもかかわらず、その解明のための有効なアプローチを提示できなかった。このような状況の中で、生態学の一般理論を構築するためには、まず実際の個体群・群集の構造と空間スケールとの間の法則を探すべきであろう。

本シンポジウムでは、生態学の最後のフロンティアとも言うべき「空間スケール」の問題について、個体群生態学・群集生態学・景観生態学・保全生態学などのさまざまな研究分野、理論・数理モデル・森林生態系・海洋生態系などさまざまな研究システムにおける最新の取り組みを紹介する。複数の空間スケールを階層的に組み合わせたアプローチ、異なる空間スケールを連続的に取り扱うアプローチ等、空間スケールを統合的・横断的に扱う新しい解析方法の有効性、今後の発展可能性を議論したい。

仲岡雅裕（千葉大）

趣旨説明

野田隆史（北大）

階層的空間配置法：局所群集の低予測性と高条件依存性を超えて

高田まゆら・宮下直（東大）

個体数と制限要因の関係性を変える上位階層空間からの相加的、非相加的効果

奥田武弘・野田隆史（北大）・野田隆史・仲岡雅裕・伊藤憲彦（千葉大）・山本智子（鹿児島大）

種多様性の緯度勾配：岩礁潮間帯生物群集のマルチスケールでの変異性

島谷健一郎（統計数理研究所）

環境傾度に沿って変化する樹木の空間パターン

巖佐庸・Schlicht, R.（九大）・佐竹暁子（京大）

空間生態学の展開：[1] スケールフリーを示すべき乗則が出現する機構、[2] 土地利用変化の空間マルコフモデル

夏原由博（大阪府大）

景観スケールでの生態系変化による個体群の絶滅と保全

三橋弘宗（兵庫県博）

生態系保全のためのランドスケープアプローチ

宮下直（東大）司会

総合討論

公募シンポジウム

8月28日（土） 09:30–12:30 B会場

S7 サクラソウの生態学と集団遺伝学 - エコゲノムプロジェクトの展開

企画責任者：大澤良（筑波大学）・竹中明夫（国立環境研）

野生植物の個体群や種の存続性の分析・予測には、個体群の遺伝的多様性を明らかにし、各個体群でどのように遺伝子は受け渡されているのか、環境との相互作用のなかでどのように自然選択がかかっているのか、近交弱勢や遺伝的浮動はどれだけ遺伝構造に影響しているのかなどを把握する必要がある。本エコゲノムプロジェクトは、これまでに多くの研究蓄積がある他殖性の多年生草本サクラソウをモデルとして、生態学と集団遺伝学の協力によりこれらの問題の解明を試みるものである。

本シンポジウムでは、プロジェクトのこれまでの成果を報告し、これらを土台としながら個体群の存続性の予測をするにはどのような手法が有効か、他殖性の多年生草本全般を想定しながら議論したい。

サクラソウ・エコゲノムプロジェクトのめざすもの

鷲谷いづみ（東大院農）

分子生態遺伝学を保全研究に活かす

津村義彦（森林総研）

日本全国のサクラソウ集団の遺伝的多様性

本城正憲（筑波大院生命環境）

サクラソウ野生集団の空間的遺伝構造と遺伝子流動

北本尚子（筑波大院生命環境）

サクラソウ種子の空間的・時間的分散

安島美穂（東大院農）

サクラソウの生活史段階を通じて現れる近交弱勢

永井美穂子（東大院農）

サクラソウにおける有効な花粉流動-血縁構造と近交弱勢の帰結

石濱史子（東大院農）

野生サクラソウの連鎖地図作成と保全への応用

上野真義（森林総研）

総合討論

コメンテーター：矢原徹一（九大院理）

公募シンポジウム

8月26日(木) 09:30-12:30 B会場

S8 日本のウェットランドの自然再生は可能か - 故きを温ねて新しきを知る湿地生態学 -

企画責任者：野原精一・広木幹也（国立環境研究所・生物圏環境研究領域）

日本全国の湿地・湿原の変化の現況を把握し、明治大正時代から現在までの湿地の変化を概観する。全国で始められている湿地再生事業の具体的な研究事例を紹介し、実際に再生研究に取り組んでいる研究者を中心に、自然再生の理念、具体的、技術的な問題点について掘り下げて議論する。最後に、自然が再生したとどのように評価すべきか自然再生事業の評価のあり方について議論を行う。

国土地理院地理調査部環境地理課（中島英敏）

日本にはどのくらい湿地が在ったのか？ -明治・大正時代と現在の湿地面積の比較 -

滋賀県琵琶湖研究所（西野麻知子）

琵琶湖内湖の自然再生

五洋建設（株）土木部門環境事業部（中瀬浩太）

人工干潟の施工事例とその問題点

国立環境研究所生物圏環境研究領域（野原精一）

沿岸における湿地生態系の自然再生事業の評価

コメンテーター：島根大学汽水域研究センター（國井秀伸）

公募シンポジウム

8月26日(木) 09:30-12:30 E会場

S9 Conservation and management of national parks and other protected areas in Europe and East Asia

企画責任者：中越信和（広島大学総合科学部）

Nature conservation systems and protected areas have been established in Europe and East Asia to conserve sound nature and keep the rich biodiversity. In situ landscape and biodiversity conservation are achieved by designating protected areas including national parks. Ecologists have clarified good aspects of protected area designation, however, total preservation could have never been expected in Germany, South Korea and Japan. This outcome of research and review on the protected areas of Europe and East Asia will suggest appropriate management system in these regions where the human impacts are strong. The status quo of landscape and biodiversity conservation in Japanese national parks will be presented. A skillful landscape architecture company will also report the landscape management of national parks in Japan. We hope the information of protected area management will be discussed through knowledge exchanges and enrich our future direction on this issue.

Introduction

Nobukazu Nakagoshi (Hiroshima University)

Nature conservation concepts and management of protected areas and landscape in Europe

Harald Plachter (Philipps University)

Nature conservation systems and protected areas in East Asia

Nobukazu Nakagoshi and Mikio Kamei (Hiroshima University)

National strategy and environmental policy for reserved area of Korea

Sun-Kee Hong (Kookmin University, Seoul) and Yeong-Kook Choi (Korea Research Institute for Human Settlements, Anyang)

Nature conservation systems and management of protected areas in Japan
Tatsuo Sasaoka (Ministry of Environment, Tokyo, Japan)

Landscape architecture in national parks for civilian utilisation and ecotourism
Shintaro Sugio(PREC Institute Inc., Tokyo, Japan)

General Discussion

Chair person: Nobukazu Nakagoshi (Hiroshima University), Mahito Kamada(Tokushima University, Tokushima, Japan)

公募シンポジウム

8月26日(木) 14:30-17:30 D会場

S10 北川で得られた河川生態学術研究の成果

企画責任者: 小野勇一(北九州市立いのちのたび博物館)・矢原徹一(九州大学大学院理学研究院生物科学部門)

生態学と土木工学の研究者が同じ土俵で研究する河川生態学術研究会で取り上げられた北川は、有数の自然度の高い川であること、河川激甚災害対策特別緊急事業により河川改修されたことの両面がある格好の研究対象です。第1フェーズの成果の一端を発表します。

河川生態学術研究会会長 山岸 哲
あいさつ

小野 勇一(いのちのたび博物館)
1. イントロダクション

福島雅紀(国総研)
2. 北川の高水敷再形成プロセスから見た河川管理上の課題
- 高水敷掘削を伴う多摩川の修復との違い -

杉尾 哲(宮崎大・工)
3. 北川本村地区における砂州変化と出水との応答

矢原 徹一(九大・理)
4. 北川河川改修事業地における植生回復

楠田 哲也(九大・工)
5. 北川におけるカワスナガニの生息環境と保全

岩本俊孝(宮崎大・教育文化)
6. 河川敷に棲む中型ほ乳類の土地利用様式と、工事による影響の評価

小野 勇一(いのちのたび博物館)
7. 総括 - 第1フェーズを振り返って -

コメンテーター
玉井 信行(金沢大・工・土木建設工学)
鷲谷 いづみ(東京大・農学生命科学)

公募シンポジウム

8月27日(金) 09:30-12:30 B会場

S11 大規模開発につける薬 生態学会要望書の「ききめ」を検証する

企画責任者: 安溪遊地(山口県立大 国際文化)

生態学会は、大規模開発に対して、総会の決議等の形で活発に要望書を提出してきている。要望書を社会的な意味をもつものにするためのアフターケア活動は、研究や教育と並んで、生態学会会員にとっての重要な課題のひとつである。ここでは、最近の要望書の例から西表島のリゾート、西中国山地・細見谷の大規模林道工事、瀬戸内海の上関原子力発電所などへの要望書提出後の現地の最新の状況を報告する。それぞれの現場での要望書の社会的影響力(ききめ)をアフターケア委員の報告に基づいて検証したい。この国の自然と社会の未来の姿を視野に入れつつ、いま研究者がはたすべき役割などをめぐって、多様な意見の率直な交換をおこないたい。

- 馬場 繁幸（琉球大・西表リゾート要望書アフターケア委員長）
いま西表島で何が起きているのか
- 安溪 遊地（浦内川流域研究会・上関要望書アフターケア委員長）
聞く耳をもたない人々になお語りかける
- 金井塚 務（広島フィールド博物館・細見谷要望書アフターケア委員）
細見谷溪畔林の価値と公共工事への固執
- 河野昭一（日本生物多様性防衛ネットワーク・細見谷要望書アフターケア委員）
「生命の森」の未来を問う
- 高島美登里（長島の自然を守る会・中国四国地区会）
奇跡の海・周防灘からの報告
- 野間 直彦（滋賀県立大・上関要望書アフターケア委員）
生態学が原発新規立地を止める？
- 安溪 貴子（山口大非常勤・上関、細見谷要望書アフターケア委員）
コメント1
- 紺野 康夫（帯広畜産大・日高横断道路要望書アフターケア委員）
コメント2

公募シンポジウム

8月27日(金) 09:30-12:30 D会場

S12 自然再生を生態学に活かす

企画責任者: 西廣淳(東京大学農学生命科学研究科)

自然再生事業（生態系修復事業）を成功に導くためには生態学の知見が不可欠である。一方、生態系修復事業は、生態学的仮説に基づき、それを検証できるデザインで実施することにより、これまで研究者単独では実行が困難だった大規模なスケールの「実験」の機会ともなる。そのような研究の成果は、基礎科学と実践活動の両方の進展に寄与するものとなるだろう。本シンポジウムでは、河川、湖沼、草原生態系を対象に、市民や行政との協働によって進められる生態系修復事業に参画しつつ研究を進めている研究者が、事業への関わり方と研究成果について話題を提供する。それを踏まえ、生態学のフィールドとしての生態系修復事業の魅力・可能性、自然再生事業など保全のための実践活動に対する研究者の関わり方について、参加者とともに議論する。

- 西廣淳・西口有紀・安島美穂・鷲谷いづみ（東京大学）
霞ヶ浦湖岸植生再生事業を活用した土壌シードバンクの研究
- 高川晋一・西廣淳・鷲谷いづみ（東京大学）
個体群再生事業を通じた絶滅危惧種の生態的・遺伝的特性の解明
- 高村典子（国立環境研究所）
湖沼生態系の再生に必要な研究 釧路湿原達古武沼再生への取り組みから
- 安部倉完（京都大学）
自然条件下での外来種除去実験～深泥池における外来魚個体群と群集の変化
- 河口洋一（土木研究所）
標津川自然再生事業で取り組む基礎・応用研究
- 津田智（岐阜大学）・富士田裕子（北海道大学）・安島美穂（東京大学）
小清水原生花園における火入れによる植生再生と管理

自由集会

8月25日(水) 18:00-20:30 B会場

G1 日本列島の生物地理学的歴史 - 主に第四紀・最終氷期以降について

企画責任者: 大舘智氏 (北大低温研)

最近、生態学会では生物地理に関する総合的な集会は少ない。それは、この分野の人気や生態学における重要性の低下が原因というよりも、生物地理に関する各分野の研究の専門化が進んだことが関連しているだろう。特に、最近の分子系統地理学の発展は著しいものがある。しかし、生物地理学は元来、様々な科学分野の知見の統合によって成り立っているため、この分野での発展は細分・専門化だけでなく統合も必要不可欠である。また、本質的に「繰り返し」がおこらない歴史を推定することは方法論、哲学的にハードルが高い問題であるが、この問題はともすれば忘れられがちである。当集会では各分野での最前線の知識を披露し、生物地理学に対する理解を深めることを目標として企画された。

当集会ではまず、化石記録という歴史の直接的情報と系統地理学的方法による生物地理的過程についての研究例を提示する。次に環境変動と生物の分布変遷の関係についての研究例を示す。最後に生物地理的歴史過程を推定する理論、哲学的背景について考える。

1. 趣旨説明 (大舘)
2. 甲能直樹 (国立科博)
第四紀の日本列島の哺乳類相の成立と変遷
3. 大舘智氏 (北大低温研)
北東アジア産トガリネズミ類の分布変遷史の1仮説—バイカルトガリネズミを中心として
4. 小田切顕一 (九大院比文)
東アジアの森林性ミドリシジミ類 (鱗翅目: シジミチョウ科) の分子系統地理
5. 伊藤元己 (東大院総合文化)
日本における植物の系統地理学
6. 高原 光 (京都府大) (佐々木尚子 (京大農) 代理)
氷期・間氷期変動と植生変遷 - 日本列島から極東ロシアにかけて
7. 三中信宏 (農環研)
生物地理学史を推定する理論とその哲学
8. 総合討論・質疑 (司会: 三中)

自由集会

8月26日(木) 18:00-20:30 U会場

G2 小笠原諸島の自然再生と利用に研究者はどう関われるのか?

企画責任者: 堀越和夫 (NPO 法人小笠原自然文化研究所)、大河内 勇 (森林総合研究所)

小笠原では、兄島から始まった一連の飛行場計画が白紙に戻されたあと、公共事業の方向が一転し、小笠原の自然環境の保全と復元を目指して、様々な事業主体 (関連省庁、東京都、NGO) によって保全事業が近年急速に進められている。この変化は、世界自然遺産候補地・自然再生事業の対象地 (環境省) やエコツーリズム推進地 (東京都・小笠原村) として取り上げられたことで、調査研究を含めた保全活動が新たな公共事業として成り立っていることが大きい。しかし、各事業主体による保全事業の計画や利用ルール作りがほとんど連携・公開されず、現地では様々な問題を生みだしている。このような現状で、小笠原研究者は、自身の研究テーマに沿って個別に関わりを持っているが、今後は分野横断的な検討を念頭に置きながら、研究者間の連携を強めて各事業に関わりを持つ必要性が生じている。この集会において、まず今後の連携を図るための論議と、最新情報の共有および問題点の整理を行いたい。

堀越 和夫 (小笠原自然文化研究所)
「小笠原研究の課題点と研究者連携の必要性」

- 大河内 勇（森林総合研究所）
「研究プロジェクトと現実世界との関わりで考える」
- 可知 直毅（都立大学）
「小笠原に研究施設をもつ大学の役割を考える」
- 川窪 伸光（岐阜大学）
「ひとりの野外研究者として小笠原研究を考える」

自由集会 8月28日(土) 14:30-17:00 B会場

G3 日本におけるエコツーリズムの現状と研究者の役割

企画責任者: 奥田夏樹(名桜大学・総合研究所)

エコツーリズムとは、自然・歴史・文化等の地域特性の観光資源化であり、その実施に際してはこれら資源の持続可能な利用と地域経済への貢献を条件とする観光スタイルである。近年エコツーリズムは、日本各地においても急速に導入されているが、その内容については必ずしも上記条件に当てはまらない単なる自然環境の新たな観光資源化にとどまり、むしろ自然環境の破壊を助長することが懸念されるケースも見受けられる。また環境省においても昨年エコツーリズム推進会議が設置されており、エコツーリズムは国家主導で今後一層普及していくものと考えられる。本自由集会では、海外におけるエコツーリズムの事業例、日本における現状と問題点について報告する。またこれらの例に対して生物学的および人文・社会的見地から議論し、日本におけるエコツーリズムがこれからどのような方向を目指すべきかについて考える。さらに、生態学の研究者がエコツーリズムに対してどのような貢献ができるか、どこまで関わるべきかなどについて参加者全体で議論したい。

- 安溪 遊地（山口県立大・国際文化）・安溪 貴子（山口大学非常勤）
「聖なる森を守る人々 東アフリカ 6000 キロの旅から」
- 吉田 正人（江戸川大・環境）
「エコツーリズムにおける保全ガイドラインの重要性」
- 宮川 浩（(財)自然環境研究センター）
「国内外のエコツーリズム導入事例」
- 越智 正樹（京都大・院・農学・農業経済）
「エコツーリズム理念における「文化」とはなにか - 西表島エコツーリズムと共に学ぶ - 」
- 奥田 夏樹（名桜大学・総合研究所）
「沖縄県におけるエコツーリズム フィールドで見たこと感じたこと」

自由集会 8月28日(土) 09:30-12:00 E会場

G4 河川生態系の空間構造と食物網の関係

企画責任者: 土居秀幸(東北大学大学院生命科学研究科)

近年、景観生態学的手法や安定同位体比の測定を取り入れることによって、空間スケール別に食物網や物質循環過程が検討されるようになってきた。特に河川生態系では、流域-流程-蛇行区間-瀬・淵-微生物場所など異なる空間スケールの階層構造が客観的に把握できるために、先行的な研究成果が比較的早く蓄積されている。そこで、本自由集会では、河川生態系を対象として、空間構造の違いが食物網や物質循環に与える影響に関する研究事例を紹介する。そして、階層的な空間構造に対応した食物網・物質循環の違いについて、統一的に理解するための方法論や研究テーマについて議論をしたい。

- Introduction 「河川生態系における空間構造・スケールと食物網」
*土居秀幸（東北大・院・生命科学）・Woodward, G. (University College Cork)
- メタンガス由来の炭素によって駆動する河川食物網
*高津文人（CREST）・岩田智也（山梨大・工）・加藤千佳（北大・院・農学）・岸大弼（北大・院・農学）・村上正志（北大・苫小牧）・中野繁（京大・生態研セ）

瀬・淵スケールにおける食物網構造

土居秀幸（東北大・院・生命科学）

貯水ダム下流域における食物網構造

*竹門康弘（京大・防災研）・波多野圭亮（京大・工）・高津文人（CREST）

都市近郊河川の生物群集代謝：流域炭素フローの人為的変化

高橋哲矢（山梨大・工）・*岩田智也（山梨大・工）

総合討論

コメンテーター：占部城太郎（東北大・院・生命科学）野田隆史（北大・水産）

自由集会

8月25日(水)

18:00–20:30

E会場

G5 地の涯・知床を探る

企画責任者：小平真佐夫（財団法人 知床財団）・石川幸男（専修大学北海道短期大学）

これまで知床半島では植物群落の現況・大型哺乳類の生活史と個体群動態等、多くの調査が行われ、その原生的な生態系の特性がわかりつつある。それらから、最近20数年で急増したシカの採食圧が、この生態系に様々な影響を与えていることが明らかになってきた。一方こうした調査の過程で、個々の調査目的からは外れるものの学術的に興味深く、生態系保全上重要と目される問題や研究課題が数多く指摘されてきた。本自由集会では、これまで同地で行われてきた調査の概要を説明し、現時点での課題を提起する。大会後の現地視察と合わせ、本集会が新しい視点を持つ研究者との活発な議論の場となり、新規研究への呼び水となることを期待する。

1. 知床半島岬地区と幌別地区での植生変化

石川幸男（専修大学北海道短期大学）

2. 知床半島のエゾシカとヒグマ：過去20年の動き（仮題）

未定（知床財団）

3. 研究ステーションとしての知床の可能性

小平真佐夫（知床財団）

コメンテーター

山中正実（知床財団）

岡田秀明（知床財団）

梶光一（北海道環境科学研究センター）

大会後、新規合同調査の可能性を探る現地視察を環境省の協力で実施します。宿泊は斜里町の自炊施設が1泊1000円で利用可、他に民宿・ホテルもあります。交通費は斜里町ウトロまでと各調査地への実費が必要ですが、なるべく安価になるよう企画側で配慮します。知床岬へは陸路がないため船を確保します。なお、許可の必要な地区への立ち入りも含むため、人数制限を設けます。視察希望者は7月2日（金）まで、専門分野と知床で希望する研究課題の概略を添え、小平（snc3@ohotuku26.or.jp）までメールにて連絡ください。滞在期間等は個別に対応可能です。

自由集会

8月28日(土)

14:30–17:00

D会場

G6 生物多様性科学の統合をめざして

企画責任者：山内淳・川端善一郎（京大生態学研究センター）

近年、生物多様性の創出・維持機構の解明への機運が高まっている。生物多様性の創出機構には進化や種分化が関連しており、また維持機構には個体群動態や種間相互作用、物質循環などが重要な意味を持つ。こうした多くの側面を持つ生物多様性の理解には、これまで生態学の各分野で蓄積されてきた様々な視点を総合化するという取り組みが不可欠である。しかし多様な側面の裏返しとして、生物多様性の研究は様々な研究分野に分散して存在し、それらの概念と方法論の共有による理解の深化は

必ずしも効率的になされていると言いがたいのが実情である。それらの分散した生物多様性に関連した取り組みを、「生物多様性科学」として統合することは可能なのだろうか？ また、それが可能だとすればどのような統合の方向性がありえるのか？ 本集会では、一次生産に関する理論、植物と物質循環、昆虫と植物の相互作用という材料も手法も異なる3題の生物多様性への取り組みを紹介し、それらを軸にして様々なアプローチの接点を広範に議論したい。

- 山内淳（京大生態学研究センター）
「一次生産に対する植食圧の役割：Grazing Optimization の理論的解析」
- 清野達之（京大生態学研究センター）
「熱帯林における樹木の多様性とその維持機構」
- 中村誠宏（北大低温研）
「昆虫群集における植物の形質変化を介して生じるプラスの間接効果」
- コメンテーター：嶋田正和（東大広域システム）
「辛口のコメント」

なお、本集会の企画者と講演者の多くは京都大学生態学研究センターに所属しているが、当センターが生物多様性の解明をめざす研究者間の連携において果たしうる役割についても、生態学会員の意見を広くうかがう機会としたい。

自由集会 8月25日(水) 18:00-20:30 W会場

G7 MAFES 「炭素フラックスの時空間変動」

企画責任者：鞠子茂（筑波大学生物科学系）・大塚俊之（茨城大学理学部）

過去十数年間、生態系の炭素フラックスを定量化する研究は著しく増加してきた。それを支える研究分野は生態学だけでなく気象学など様々な分野に渡っており、研究対象とする生態系の種類と数も増えている。しかし、これまでの研究は、調査する生態系を研究者の興味や社会的ニーズによって決め、生態系ごとに、炭素フラックスの時間変動および環境勾配に伴う空間変動について量的に評価してきた。研究の多くはフラックスを測定・観測すること自体に目的が置かれている感がある。そうした研究のあり方は、フラックス研究が炭素循環のコンパートメントモデルに数字を入れるだけの研究と揶揄される原因となっている。本来、炭素フラックスの測定が生態系機能を理解するために行うのであれば、自然界に存在する多様な生態系の機能は炭素フラックスの時空間変動を基本軸とした新たなパラダイムの構築により総合的に理解されるはずである。そうした展開を図らないとすれば、フラックス研究は生態学的な興味に乏しい記載生態学の一研究として評価され続けることになる。今回、講演を予定している3人の研究者はそうした危機意識のもとに研究を行っている方々である。生態系全体の炭素フラックス、土壌と大気間の炭素フラックス、モデルによる炭素フラックスの評価など、異なる視点から種々の生態系における炭素フラックスの時空間変動について思うところを語って頂くことにした。

- 小泉 博（岐阜大学流域圏科学研究センター）
「炭素フラックスからみた生態系の時空間変動」
- 鞠子 茂（筑波大学大学院生命環境科学研究科）
「土壌炭素フラックスの時空間変動」
- 横沢正幸（農業環境技術研究所 地球環境部）
「炭素フラックスの時空間変動 - モデル化の現状と問題点」

自由集会

8月26日(木) 18:00-20:30 E会場

G8 北海道の森林によるCO₂吸収 - フラックス観測サイトからの報告 -

企画責任者: 平野高司 (北海道大学大学院農学研究科)

森林生態系による炭素(CO₂)吸収量に関する高精度のデータを蓄積し、吸収量のダイナミックな変動、および変動要因を明らかにすることなどを目的に、1990年代後半以降、世界各地の様々な森林にタワーを中心としたプラットフォームが建設され、微気象学を応用した方法(渦相関法)によるCO₂吸収量(フラックス)の長期連続観測(モニタリング)が行われるようになった。現在、北海道では苫小牧国有林(苫小牧FRS)、北大苫小牧研究林、北大天塩研究林、および森林総研北海道支所(札幌)の4サイトでCO₂フラックスのモニタリングが継続され、それぞれのサイトでCO₂フラックスや土壌呼吸量、森林構造(葉面積指数など)などを中心としたデータが数年にわたり蓄積されている。本集会では、各サイトの研究者が観測研究の成果を報告し、情報交換を行うとともに今後の研究展開について議論したい。

平野高司(北海道大学農学研究科)

カラマツ人工林(苫小牧FRS)におけるCO₂交換量の季節変化と年次変化

梁乃申(国立環境研究所地球環境研究センター)

マルチ自動開閉チャンバーシステムを用いたカラマツ炭素収支の推定

小熊宏之(国立環境研究所地球環境研究センター)

リモートセンシングを活用した自然生態系の多面的評価

高木健太郎(北海道大学天塩研究林)

森林伐採が針広混交林流域の炭素・水循環に及ぼす影響について

中井裕一郎(森林総合研究所北海道支所)

成熟したシラカンバの優先する落葉広葉樹林の炭素収支 - 森林総研フラックスネット札幌森林気象試験地より -

自由集会

8月26日(木) 18:00-20:30 B会場

G9 保全生態学研究会自由集会 ~ 保全生態学における外来種対策と市民との協働 ~

企画責任者: 松村千鶴(東京大学 農学生命科学研究科 保全生態学研究室)

外来種対策では、市民と協働することが、早期発見や迅速対応、予防などの観点から、もっとも重要な取り組みである。しかし日本の外来種対策は、法整備がされ始めた段階であり、外来種問題への国民の理解も、外来種対策における市民との協働も一部に限られる。外来種対策の先進国のニュージーランドでは、税金で賄われる駆除への投資効果を示すため、外来種の捕獲数を「結果」、駆除効果で在来種が回復したことを「成果」と表現を区別し、成果を納税者に理解できるように数値で示す、処分問題や駆除に不信感を抱く人々に対し、行政が説明会を持ち理解をはかるなど、市民との協働で対策を進める上で必要な努力を行っているという。自由集会では、外来種対策に関する制度の整備状況の現状を確認した上で、日本での市民参加による外来種対策の例を紹介する。次に、ニュージーランドの外来種対策で市民が重要な役割を果たしていることを、それを可能にする社会的背景や仕組みとともに紹介する。集会を、日本での外来種対策における市民との協働の現状や問題点を考え、外国の先進的事例を勉強する場としたい。

鷺谷いづみ(東京大学農学生命科学研究科)

保全生態学と外来種対策

安部倉完(京大大学院理学部)

深泥池における外来生物の影響と市民参加による駆除対策 外来魚個体群抑制と底生動物群集の変化

松村千鶴(東京大学農学生命科学研究科)

市民と研究者によるセイヨウオオマルハナバチの長期モニタリング

小島望（東京大学農学生命科学研究科）

市民ボランティアによるセイヨウオオマルハナバチの除去活動

水野敏明（WWF ジャパン）

市民参加による外来生物早期発見のための社会システム：ニュージーランドを事例として

自由集会

8月25日(水)

18:00-20:30

U会場

G10 生態学における数理的手法 野外生物集団の保全

企画責任者: 横溝裕行 (九州大学理学府生物科学専攻)

希少動植物個体群の保全を効果的に実行するためには、個体群の調査研究は欠かせない。年変動がある中での個体群の増減傾向を知ることや、保護や開発による個体群の絶滅確率への影響を予測するには、数理モデルが大変有効である。また、環境変動や個体数等の不確実性を考慮に入れた最適保全努力量も議論できる。今回の自由集会では、植物、動物と理論の3名の研究者が話題を提供し、野外生物集団の保全における数理的手法の有用性や課題を議論する。

可知直毅（都立大・理）・勝川俊雄（東大・海洋研）

小笠原の固有種オオハマギキョウの個体群動態：年変動を考慮した推移行列モデルによる解析

夏原由博（阪府大・農）

メタ個体群存続可能性分析を用いたカスミサンショウウオの保護シナリオ

横溝裕行（九大・理）

変動環境下における最適保全戦略の数理的研究

コメンテーター: 松田裕之（横国大・環境情報）

自由集会

(この自由集会は中止になりました)

I会場

G11 マネーのとらまる

企画責任者: 真野浩行・中道康文・鈴木ゆかり・徳永幸彦 (筑波大学大学院 生命共存科学専攻)

この自由集会では、みなさまから生態学を用いてお金を稼ぐアイデアを募集し、コンテストを開催します。生態学の社会的な活動は、社会貢献の高さに注目があたる一方で、他の生物学分野のように、ビジネスとして高い収益をもつ事業が乏しいように思われます。生態学を活かした新たなビジネスチャンスはないのでしょうか？ また、生態学のフィールドには、どのくらいアイデアの原石が転がっているのでしょうか？ このコンテストを通して、社会と生態学の新たな関係について気軽に考えてみませんか？。

コンテストの開催にあたり、自由集会でアイデアを発表してくださる方を募集しております。この集会では、現実的な制約に縛られない自由な発想の枠から、現時点では不可能かもしれないが、今後の研究如何では将来的に実現する可能性があり、収益が上げられそうなアイデアを探していきたいと思えます。発表者による10分程度のアイデアの発表と審査員とのディスカッションの後に、そのアイデアについて審査員が評価いたします。なお、今回は、アイデアの評価に重点をおき、実際にこの企画を通して実際に事業を起こすことはいたしません。お気軽にお申し込みください。なお発表の受付、コンテストについての詳しい情報は、下のホームページをご覧ください。

審査員の紹介

足立直樹（株式会社CSR経営研究所）

奥山亮（株式会社エンバイオテック・ラボラトリーズ）

五箇公一（独立行政法人国立環境研究所）

マネーのとらまるホームページ

自由集会

8月28日(土) 18:00-20:30 U会場

G12 これからのタンチョウの保全管理に向けて

企画責任者: 斎藤和範 (北海道立旭川高等看護学院)

元来タンチョウは夏場北海道で繁殖し、冬場本州で越冬した渡り鳥だった。明治時代に絶滅したとみられたが、大正13年釧路湿原北部の湧水域で20羽ほど生残が確認された。その後、給餌など人々の努力により現在では1000羽ほどにまでに回復した。しかし、開発による湿原減少など自然環境の悪化と個体数増加により、繁殖地の環境収容力は飽和状態となっている。その結果、今まで繁殖に不適とされた場所にまで営巣する状況が見られる。現在、石狩川下流域やサロベツ原野などで繁殖期に逗留するなど、新たな繁殖地を求め個体群は分散する傾向が見られる。しかし、越冬期は殆どの個体が阿寒町・鶴居村・音別町など釧路湿原周辺の給餌場に集中している。絶滅に瀕した際にボトルネックによって個体群の遺伝的な多様性は失われたと考えられ、感染症などが発生した際再び絶滅に陥る危険性が指摘されている。給餌場や繁殖地と人間の生活環境が近いため電線事故や交通事故が増加し、人馴れによる危険意識の低下や重金属等の汚染などが内因として考えられる。以上、タンチョウを取り巻く様々な要素で話題提供を頂き、今後の保全管理の方向性や問題点を考えていきたい。

松本文雄 (阿寒町・阿寒国際ツルセンター)
給餌に関わる問題

渡辺ユキ (同上)
タンチョウを取り巻く病気

井上雅子 (釧路市動物園)
タンチョウの事故

長谷川理 (北海道大学・院・地球環境)
遺伝的多様性

大石麻美 (新潟大学・院・自然科学)
繁殖と夏場の餌環境

斎藤和範 (道立旭川高看)
冬場の餌環境

古賀公也 (阿寒町まちづくり推進課)
総合討論

自由集会

8月28日(土) 14:30-17:00 U会場

G13 植物の生理生態：生理生態学に有効な非破壊的測定の技術

企画責任者: 種子田春彦 (東京大学大学院日光植物園), 小林 剛 (香川大学農学部), 村岡 裕由 (岐阜大学流域圏科学研究センター)

植物の生理生態的な特性を見いだすための測定や観察には、植物の活動がそのままの状態では反映されていないことが望ましい。しかし、これを言葉どおり実現することは難しく、植物体の一部を切り取ったり、自然条件とは必ずしも一致しない実験条件の下でデータを収集するを得ないことは多い。植物の機能は攪乱や環境条件に応じてダイナミックに変化するため、破壊的または制御条件の下にある測定から得られる情報には、野外の植物に生じている現実的な側面が損なわれてしまっていることが懸念される。たとえば、樹木の木部を流れる水の動態や、物理的にアクセスしにくい土壌中の根、広範囲に無数にひろがる樹冠内の葉などは、破壊的な手法によってはその全体像を把握しにくい対象であった。今回の自由集会では、こうした器官レベルでの測定に伴う困難さを克服するような手法によって研究を行っている3人の演者の方々に話題を提供していただく。そして、それらの技術の生理生態学をはじめとした多方面へのさらなる応用と発展性について議論したい。

内海 泰弘（九州大学農学部宮崎演習林）

樹幹における木部水分分布の可視化

里村 多香美（京都大学生態学研究センター）

土の中を見ることでわかること - 野外での植物細根動態研究の最前線 -

中路 達郎（環境研地球環境研究センター）

森林リモートセンシングの最近 - 分光反射情報を用いた光合成推定の試み -

この自由集会の web page

<http://ecology.ag.kagawa-u.ac.jp/nondestructive.html>

自由集会

8月25日(水)

18:00-20:30

A会場

G14 環境省『外来種新法』とセイヨウオオマルハナバチ

企画責任者: 五箇公一 (国立環境研究所)

環境省の外来種対策法成立に関わる環境省や生産現場に関わる農水省およびマルハナバチ販売会社、さらにその生態リスク研究を進める生態学会の関係者が一同に会し、マルハナバチ侵入種問題を通して、生物多様性保全と農業生産性という二つの大儀のコンフリクトを如何に解決していくかを議論する。

上杉哲郎（環境省自然環境局）

「外来種新法と環境省の外来種対策」

五箇公一（国立環境研究所）

「外来種新法と輸入昆虫問題」

米田昌浩（アピ株式会社・マルハナバチ普及会）

「外来種新法とセイヨウオオマルハナバチの農業利用－現場でのとりくみと今後の課題－」

横山潤（東北大学）

「外来種新法とセイヨウオオマルハナバチの野生化問題」

岡田正孝（農林水産省生産局野菜課）

「セイヨウオオマルハナバチ利用の実態」

自由集会

8月28日(土)

14:30-17:00

A会場

G15 生態系エンジニアとしての大型動物-環境改変を介した相互作用とその影響-

企画責任者: 亀田佳代子 (琵琶湖博)・堀正和 (東大・農)・野田隆史・上野裕介 (北大・水産)

本集会では、大型で移動能力が高い哺乳類や鳥類を取り上げ、生態系エンジニアとしての特徴や影響について整理し、議論したい。環境を広範囲にわたって大きく改変する大型動物は、群集構造や生態系に多大な影響を与え、時には系全体を丸ごと変えてしまうこともある。これら大型動物の行動が、異なる場においてどのように環境を改変し、その結果として、生物間相互作用や群集構造、食物網などがどのように変化するかを、各生息場所の特性から紹介したい。講演は、場所(藻場、磯、草地、森林)、動物の行動(採食または繁殖)、改変の種類(物理的または化学的改変)、時空間スケール、などをキーワードとして行う予定である。

1. 仲岡雅裕 (千葉大・自然科学)・堀正和 (東大・農)・向井宏 (北大・厚岸臨海)

海草藻場における大型草食動物による環境改変効果と生物群集への影響

2. 堀正和 (東大・農)

磯浜生物群集における移動性動物を介した環境改変効果とその影響

3. 亀田佳代子 (琵琶湖博)・保原達 (環境研)・三阪里美 (東京都東村山市)

カワウの繁殖による森林の物理的変化と化学的変化

4. 上野裕介 (北大・水産)・堀正和 (東大・農)・野田隆史 (北大・水産)
アオサギの繁殖活動が林床の物理環境と生物群集に及ぼす影響
5. 井村 治・時 坤・佐々木寛幸 (畜草研)
牛の grazing は植生の変化を介して草地の節足動物群集に影響を与える
6. 宮下 直 (東大・農・生物多様性)
コメント

自由集会

8月28日(土) 18:00-20:30 B会場

G16 データ解析で出会う統計的問題 - 多重検定と多重比較をめぐって

企画責任者: 粕谷英一 (九州大学理学)・久保拓弥 (北海道大学地球環境)

生態的なデータ解析では、多くの処理や条件の間で比較するときや多くの変数や要因の間での関係を分析するときなど、検定は1回ではなく多くの検定が行われることがよくある。一緒に行われる検定が多くなれば、『どこかで少なくとも1回誤って帰無仮説を捨てて有意であるとする確率』は当然高くなる。この検定の数の効果を補正するのが多重検定や多重比較の問題であり、さまざまな方法が使われてきた。だが、多重検定や多重比較の効果の補正は、不適切な手法を選びやすく、目的に合わない使い方の巣窟であると言えるだろう。まず粕谷の話題提供では、一筋縄ではいかない多重検定や多重比較を、統計的方法の原点から考えて、対応する力を高める機会とするのが目的である。次に久保が統計ソフトウェアRを使った多重比較の簡単な例を示す。同時にやや異なった観点から「統計学的な多重比較するとき常に多重検定は必要か、モデル選択でもっと簡単にならないか」という問題も検討する。

この自由集会では多重比較などに必ずしもくわしくない人の来聴を想定して、初歩的な内容から問題に取り組む予定である。さまざまな分野の人に集まっていたいて、多重比較・多重検定の問題について意見を交換したい。

粕谷英一 (九州大)

多重比較と多重検定の方法選び - どんなときに、何を

久保拓弥 (北海道大)

統計ソフトウェアRでやってみる多重比較

この自由集会の web page

<http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~kubo/ce/2004/>

自由集会

8月28日(土) 18:00-20:30 E会場

G17 生態学者よ、街に出よ！

企画責任者: 石川真一 (群馬大学社会情報学部)・足立直樹 (株式会社 CSR 経営研究所)

現代社会に対して最も大きな影響力を持つ存在である企業が、いま急速に「環境」への対応を変えつつある。90年代以降、先進的な企業は主に企業内部と製品の環境負荷削減に努力してきた。最近では世界的に企業の社会的責任(CSR)が問われていることもあり、例えば生物多様性の保全にまで関与する企業も出てきた。しかしながらこのような動きは、研究者には十分に伝わってはいないし、逆に企業も研究者の研究内容・目的ををほとんど知らない。

生物多様性の保全などをめざした企業の環境活動には、生態学的知見や研究者との協働が今や必須と言える。しかし、現状のように相互理解の足りないままでは、企業の環境活動が誤った方向に進む

ことさえ、ありえないことではない。これが、我々が生態学者に「街に出よ！」と呼びかける理由である。

本集会では、まず企業の担当者から企業の環境対応の現状を紹介していただき、その全体的な動向を把握した上で、今どのような問題で困っているのか、どのような協働を求めているのか、具体的な問題提起をしていただく。また研究者からも、取組例を紹介してもらおう。これらを通じて、研究者と企業の協働により、どのようなことが実現できるものなのか、今後どのように進めるべきなのかを議論してゆく。

足立直樹（株式会社 CSR 経営研究所）

今、なぜ企業と学術研究者の協働が必要なのか？

石川真一（群馬大学社会情報学部）

企業と大学人の協働の一例：サラ地からの大型ピオトープ育成管理

荒井喜章（松下電器産業株式会社・環境本部・環境企画グループ）

企業の環境活動の現場から学術研究に望むこと

自由集会

8月28日(土) 14:30-17:00 E会場

G18 第9回植生地理学の視点：上部温帯林再考

企画責任者：星野義延（東京農工大）・野寄玲児（神戸女学院大）

本州の温帯上部に認められるウラジロモミ、ミズナラなどの自然林は、北海道や東北アジアに広がる汎針広混交林との関連性が指摘されている。今回は上部温帯林の位置づけについて、森林型や気候との関連から議論したい。

野寄玲児（神戸女学院大・人間科学）

上部温帯林概説 - 森林型と植生帯での位置づけ -

「上部温帯林」とは演者が1990年に中間温帯林（下部温帯林）に対峙させて提示した概念であり、本州の冷温帯上部に成立するブナを欠くウラジロモミ林やコメツガ林、ミズナラ林などを含む、相観的・フロラの・温度的にも北海道の針広混交林（北部温帯）との類縁が認められるが、本州に固有な要素も多い。こうした固有性を重視すると、上部温帯林は中間温帯林およびブナ林とともに、水平的には南部温帯に所属し、その上部亜帯に位置づけられる。

高柳絵美子（筑波大・生命環境）・上條隆志（筑波大・農林）・松井哲哉・小川みふゆ（森林総研）

本州に針広混交林はあるのか？ - 気候値からの再検討 -

汎針広混交林は北海道の冷温帯から亜寒帯への移行域として古くから認識されてきた。一方、本州の冷温帯上部にも相観や種組成の類似する林（例：ウラジロモミ林）が存在するが、両者の関係は十分検討されていない。本研究では、(1) 本州に北海道の針広混交林成立域に相当する気候域が存在するかどうか？ (2) もしあるとすれば、ウラジロモミを代表とする冷温帯上部の林が該当するのか？ について、自然環境GISの植生データと3次メッシュ気候値を用いて検討した。

自由集会

8月28日(土) 18:00-20:30 D会場

G19 陸水低湿地における生物多様性保全研究の現状と方向性

企画責任者：西野麻知子・浜端悦治（滋賀県琵琶湖研究所）

「豊葦原瑞穂国」「豊葦原中国」は古事記に記された日本の呼び名です。水辺に葦（ヨシ）が豊かに生い茂り、稲穂たなびく国、それが日本だと古代の人は語っています。わが国の原風景ともいえるヨシ帯を中心とした陸水低湿地の保全のあり方について、水生植物、無脊椎動物、魚類、鳥類等様々な生物群の種多様性や遺伝的多様性、生物の生活や移動様式の視点から検討し、湿地復元の手法や可能性について議論します。

- 演題 1. 立地条件が規定するヨシ群落の遺伝構造 群落の遺伝的多様性維持に関わる小規模水系の機能
井鷲裕司・近藤俊明(広島大学総合科学部)・志賀隆(神戸大学自然科学研究科)・金子有子(滋賀県琵琶湖研究所)
- 演題 2. 琵琶湖岸の残存低湿地の現状と農地からの復元の可能性
浜端悦治(滋賀県琵琶湖研究所)・西川博章・折目真理子((株)ラージ)
- 演題 3. 水田が魚類群集に果たす生態学的役割
細谷和海(近畿大学農学部)
- 演題 4. コウノトリの生息環境としての河川浅場の特性と再生
内藤和明¹・大迫義人¹・池田 啓¹・三橋弘宗²・田中哲夫¹(¹兵庫県立大・自然研,²人と自然の博物館)
- 演題 5. 琵琶湖周辺干拓地の湛水化に伴う生物群集の変化と湿地復元の可能性
西野麻知子(滋賀県琵琶湖研究所) 滋賀県湖北地域振興局田園整備課

自由集会

8月28日(土) 18:00-20:30 A会場

G20 自然再生事業で生態系保全をどう図るか? - GISによる環境把握の重要性と活用手法 -

企画責任者: 小泉武栄(東京学芸大学教育学部地理学教室)・中村太士(北海道大学農学部)

釧路湿原をはじめとする自然再生事業では、様々な参画者の合意形成を得ながら生態系の保全や復元を図ることが必要となります。そのためには、地形や植生などの自然環境に関するデータをはじめ、法規制や土地利用などの社会環境などの様々なデータを地図情報としてまず整備し、その上で地域の動植物の分布や生態系、保全すべき地域等についてGISを用いてわかりやすく解析評価することが有効です。

本集会では、自然再生事業においてGISを活用して地域の自然環境や生態系をどう保管理すべきか、以下の観点から釧路湿原やその他の具体事例をもとに話題提供や議論を行いたいと思います。

- 環境ベースマップ整備の重要性
- 基盤環境の把握や地生態学的な観点の重要性
- 生態系の広域的な把握の必要性
- 生態学からみた保全計画等の事業の優先順位の考え方
- 生態学が寄与すべき情報の共有化
- 多様な主体の参画と合意形成について

中村太士(北海道大学農学部)
小泉武栄(東京学芸大学教育学部/NPO 地域自然情報ネットワーク)
増澤 直(朝日航洋株式会社/NPO 地域自然情報ネットワーク)
中越信和(広島大学総合科学部)
三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館/NPO 地域自然情報ネットワーク)
渡辺 修(株式会社さっぽろ自然調査館)
金子正美(酪農学園大学/NPO Envision 環境保全事務所)
逸見一郎(株式会社地域環境計画/NPO 地域自然情報ネットワーク)

なお、本集会(生態学会)の終了後、NPO法人地域自然情報ネットワーク主催による研究者、実務者向けのGIS講習会を開催します。詳しい内容についてはNPOホームページ<http://www.boreas.dti.ne.jp/~kent/gcn/>(6月より受付)をご覧ください。

G21 屋久島の自然植生保全とニホンジカ管理

企画責任者: 立澤史郎(北大・地域システム)・松田裕之(横国大・環境情報)

高密度化したニホンジカが自然植生へ及ぼす(悪)影響が各地で危惧され、これまで農林業被害対策が主であったシカ個体群管理に対して、自然植生の保全・復元という新たな課題が突きつけられています。これはシカ密度が安定的とされてきた西南日本でも例外でなく、世界遺産・原生自然環境保全地域・国立公園とあらゆる保護の網がかけられている屋久島においても、多くの固有種や希少種を擁する草本層の変容とヤクシカの密度増加が指摘されています。

しかし実際には、農林業被害や自然植生へのインパクトの実態、植生とヤクシカの動態や因果関係など、議論の土台となるべき情報が整理されておらず、また、屋久島における「生態系保全」をどのような目的のもとで行うのか、地域社会における合意形成をどのように進めるかなど、根本的議論もほとんど行われていません。

そこで本集会では、1) まず屋久島における草本相の変容とヤクシカ個体群の動態に関する情報を検討し、2) 因果関係をどう評価するか、3) どのようなシカ管理手法があるか、4) そもそもどのような「生態系保全」(目的や体制のオプション)があるか、という基本的問題点を整理した上で、今後の具体的施策へ向けて、どのようなデータ・議論・体制が必要か議論したいと思います。

なお、公募シンポジウム S3 と本集会は、基本的に同じ問題設定の元、同一会場で開催されます。屋久島フリークはじめ多様な方々の議論参加を期待します。

1. 矢原徹一(九大理学研究院)
「屋久島・南九州の固有植物の分布と減少傾向」
2. 立澤史郎(北大地域システム科学講座)
「南の島のシカ個体群: 大隅諸島における生息状況と管理状況」
3. 揚妻直樹(北大北方生物圏フィールド科学センター)
「自然生態系の構成員として見た植生と草食動物」
4. コメント:
湯本貴和(総合地球環境研)、常田邦彦(自然研)、手塚賢至(屋久島在住; 交渉中)
5. 総合討論
質疑含めて各 30 分 × 3 + コメント・総合討論 50 分

G22 アグロエコロジー研究会 VII: 農村生態系の再生: 「風土の記憶」をどう読み込むか?

企画責任者: 嶺田拓也((独)農業工学研究所)・日鷹一雅(愛媛大・農・附属農場)

故郷(農村)の景観や生態系は、一言で言えば「風土」という言葉に凝縮されるだろう。

「風土」は、自然立地環境のみならず、人との働きかけによって創り出されてきた歴史時間も地域的個性として語るができる。しかし、今や我が国の農村では、ライフスタイルや生産体系を全国画一の水準で統一できるほどの技術イノベーションの結果、先人達の営みの中で培われてきた「風土」感覚が薄れつつあるのではなかろうか。したがって、「風土」の根幹を成し、人間と大地との相互作用系であり、かけがえのない(不可逆的な)農村生態系も現在、急速に失われている現状となっている。今後、自然再生推進法などで農村生態系の再生が指向される中、土地に刻まれた人と自然が織りなす「風土」を呼び覚ますことを意図した取り組みがますます重要になってくると思われる。そこで今回のアグロエコロジー研究会では、日頃、農村の「風土」を意識して農村生態系の研究と保全

活動に現場レベルで携わる研究者に、生態学というツールを用いて農村の「風土」をどのように表現しうるのか、そして農村生態系の再生に向けてどのようにアプローチしていったらよいのかを、実際の取り組み事例の紹介を中心に話題提供してもらい、農村の「風土」を読みとっていく手法を考えてみたい。

嶺田拓也（農業工学研究所）

「趣旨説明：農村の風土 - 人間が大地に刻み込んだ歴史」

鎌田磨人（徳島大・工）

「景観生態学の手法で「風土」を読む」

下田路子（東和科学）

「古文書から何を読み出せるか？」

日鷹一雅（愛媛大・農・農場）

「フィールドワークからの風土の読みとり」

討論司会および総括

日鷹一雅（愛媛大・農・農場）

「村の風土もレッドリスト：消えつつある本来の農村生態系をどう呼び覚ますか」

自由集会

8月28日(土) 19:30-22:00

大和旅館（釧路市黒金町9-1 Tel. 0154-22-6511）

釧路駅より南へ徒歩約5分（市役所斜向；生態学会会場北約300m）

G23 フェノロジー研究会「分布限界形成にかかわるフェノロジー」

企画責任者：大野啓一（千葉県立中央博物館）

種や優占群落の分布限界は、従来、気候などの環境要因（例：WI、最低極温など）との地理的対応に基づいて論じられることが多かった。しかし、なぜその環境変数が分布限界をもたらすのかは、植物側の諸性質を観察し、その生活や更新の成立・破綻から因果的に説明されねばならない。フェノロジー、とりわけ開芽の早さには、他種に先駆けた葉群展開のメリットと晩霜害のリスクという正負両面があり、分布の規定にかかわる性質として重要である。今回は、開芽フェノロジーが分布限界の形成にどのようにかかわるのかを、ブナ（渡島半島や本州内陸での分布限界）などを題材に議論してみたい。

演題：

「フェノロジーからみた植生分布」林 一六（筑波大名誉教授）

「ブナの開葉フェノロジーと晩霜害」丸田恵美子（東邦大・理）

会場での宿泊もできます（二食付き約6000円、但し先着20名まで）。宿泊を御希望の方は下記へFax、E-mailのいずれかにてお申し込みください。研究会会員外の参加も歓迎します。申込期限は7月末日としますが、その後も受け付ける場合もあるのでお問い合わせください。なお、今回は翌日のエクスカージョンは行いません。

申込・連絡先：大野啓一（〒260-8682 千葉県立中央博物館；Fax. 043-266-2481；e-mail: oonok@chiba-muse.or.jp）

● 一般講演 (ポスター・口頭発表)

- すべてのポスター発表は C 会場で行われます
- ポスター発表者は発表日の 12:30-14:30 の時間帯にポスターの前で内容の説明をします

ポスター「生理生態」8月26日(木)

- P1-001 広葉樹の葉における細胞壁の力学的性質の発達。
°齋藤隆実, 寺島一郎 (大阪大院)
- P1-002 スギ樹冠における窒素動態と針葉の窒素利用効率。
°小林元, 田代直明 (九大北演)
- P1-003 上層木の伐採による光環境の変化と窒素付加に対する落葉広葉樹稚樹 4 種の光合成特性の応答。
°北岡哲, 渡邊陽子, 石井正, 奥山悟, 日浦勉, 小池孝良 (北大)
- P1-004 夏緑草本カニコウモリの富士山亜高山帯針葉樹林での優占機構。
°堀良通, 高松潔, 源後睦美, 清水陽子, 河原崎里子 (茨城大), 安部良子, 中野隆志 (山梨県環境研)
- P1-005 太平洋側山地におけるブナ実生の冬季の枯死要因。
°丸田恵美子, 依田悦子 (東邦大)
- P1-006 ルピスコおよび APX 活性の比較による高度分布上下限域におけるオンタデとイタドリの生理生態的特性の解析。
°坂田剛 (北里大), 中野隆志 (山梨環境研), 横井洋太 (北里大)
- P1-007 周期的な乾燥・灌水に対する苗木の成長および生理的特性の変化。
°矢崎健一, 石田厚 (森林総研)
- P1-008 光環境と葉齢が常緑林床植物のエゾグズリハの光合成特性に及ぼす影響。
°片畑伸一郎, 橋本正明, 角張義孝, 向井謙 (静大農)
- P1-009 カラマツの光合成速度と分光指標の季節変化。
°中路達郎, 小熊宏之, 藤沼康実 (国環研)
- P1-010 常緑広葉樹カクレミノの陽シュートと陰シュートの窒素経済の比較。
°小清水ゆきの, 山村靖夫 (茨城大)
- P1-011 コケモモにおける葉の寿命と個葉形質の山岳間変異。
°和田直也 (富大), 川守田充俊 (富大), 鈴木静男 (環技研), 成田憲二 (秋田大), 工藤岳 (北大院)
- P1-012 タカノツメにおいて短枝は個体の生産量にどのくらい貢献しているだろうか？
°長田典之 (東京大)
- P1-013 草本の群落上層個体の背ぞろいを引き起こすのは風か？光質 (R/FR 比) か？
°長嶋寿江 (東大)
- P1-014 滞水環境におけるハンノキの光合成特性。
°岩永史子, 山本福壽 (鳥取大)
- P1-015 木本性つる植物のシュート間機能分化。
°市橋隆自, 長嶋寿江, 館野正樹 (東大)
- P1-016 生育温度・光・窒素供給がミズナラの葉の老化過程に与える影響。
°小野清美, 江藤典子, 原登志彦 (北大)
- P1-017 イネ科草本における葉のサイズと SLA の種間変異の細胞レベルでの解析。
°杉山修一
- P1-018 温暖化環境が常緑広葉樹の生理生態へ及ぼす影響。
°今川克也, 林明姫, 周承進, 中根周歩 (広島大)

- P1-019 食葉性害虫による食害と乾燥がウダイカンバ当年生枝の枯死に及ぼす影響。
°大野泰之, 渡辺一郎, 滝谷美香, 寺澤和彦 (北海道林試), 梅木清 (千葉大)
- P1-020 アカマツ成木樹幹内における熱収支法測定による蒸散流速の季節変化。
°川崎達郎, 千葉幸弘, 韓慶民, 荒木真岳 (森林総研), 中野隆志 (山梨県環境科学研)
- P1-021 釧路湿原達古武沼の水草はなぜ減少したのか？ - 光環境からの検討 -
°辻ねむ (阿寒湖畔 EMC), 高村典子, 中川恵 (国環研), 野坂拓馬 (北教大), 渡辺雅子 (北大), 若菜勇 (阿寒湖畔 EMC)
- P1-022 ハンノキの根粒形成と環境因子。
高田恵利 (北海道大), °山本福壽 (鳥取大)

—— (「生理生態」ポスター賞応募発表) ——

- P1-023c 冷温帯落葉広葉樹林構成樹の光合成生産における個葉生理特性とシュート構造の役割。
°村岡裕由, 小泉博 (岐阜大)
- P1-024c (canceled) —
- P1-025c FACE (Free Air CO₂ Enrichment) を用いた高 CO₂ 環境下での冷温帯樹木の成長と光合成特性。
°江口則和 (北大院), 上田龍四郎 (北海道ダルトン), 船田良 (農工大農), 高木健太郎 (北大生物園セ), 日浦勉 (北大生物園セ), 笹賀一郎 (北大生物園セ), 小池孝良 (北大生物園セ)
- P1-026c 攪乱跡地における更新初期種間の競合が各樹種に与える影響。
°遠藤郁子, 江口則和 (北大院), 日浦勉, 笹賀一郎, 小池孝良 (北大生物園セ)
- P1-027c ヒバ苗木の根圏糸状菌はどのように根に残る？ - 種子ヤニ成分の種子菌、土壌菌への影響。
°山路恵子 (森林総研東北), 石本洋 (INRA), 森茂太 (森林総研東北)
- P1-028c 個体内の均等な水輸送と hydraulic architecture。
°種子田春彦, 館野正樹 (東京大)
- P1-029c 根圏の酸素不足に対するガマ属 3 種 (ガマ コガマ ヒメガマ) の応答。
°松井智美, 土谷岳令 (千葉大院)
- P1-030c 異なる CO₂ と窒素条件で生育させた落葉広葉樹稚樹を餌とした食葉性昆虫の成長。
°柴田隆紀 (北大院), 松木佐和子 (北海道立林試; 学振研究員), 飛田博順, 北尾光俊, 丸山温 (森林総研北海道支所), 小池孝良 (北海道大), 竹内裕一 (北海道東海大)
- P1-031c カラマツ樹冠部での短枝・長枝葉の光合成特性。
°佐久間祐子, 渡邊陽子 (北大農学研究所), 藤沼康実 (環境研), 市栄智明, 北岡哲, 笹賀一郎, 小池孝良 (北大生物園セ)
- P1-032c コジイとアラカシの分枝様式と樹冠内光環境。
°長美智子 (京大), 河村耕史 (京大), 武田博清 (京大)
- P1-033c 寒冷圏におけるダケカンバの光合成機能の環境ストレスに対する応答 (2)。
°田畑あずさ, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦 (北大)
- P1-034c 低温と強光ストレスが当年生ミズナラ実生に与える影響。
°津田元, 小野清美, 原登志彦 (北大)
- P1-035c 3 種のマツヨイグサ属植物の受粉様式の違いによる発芽特性。
°小林美絵 (明治大院), 倉本宣 (明治大)
- P1-036c 苗場山ブナ樹冠における光環境と光合成特性の垂直、水平方向、方位による変異。
°飯尾淳弘, 深沢久和, 能勢八千穂, 角張嘉孝 (静岡大)
- P1-037c 針葉樹 3 種の硝酸同化の季節変動: 硝酸還元酵素活性を指標として。
°上田美希 (京大), 徳地直子 (京大)
- P1-038c 水ストレス緩和後の光合成誘導反応の変化。
°富松元, 堀良通 (茨大)

ポスター「物質生産・物質循環」8月26日(木)

P1-039 C₃/C₄ 混生草原における地下部バイオマス及び成長量. °劉建軍, 莫文紅, 及川武久(筑波大)

P1-040 岩手県・安比高原のブナ二次林における土壌呼吸の平面分布. °橋本徹(森林総研), 三浦覚(森林総研), 池田重人(森林総研), 志知幸治(森林総研)

P1-041 フクジュソウの物質生産. °大窪久美子, 新井隆介(信州大)

P1-042 広葉樹二次林における枯死木の動態. °上村真由子(神戸大), 小南裕志(森林総研関西), 金澤洋一(神戸大), 後藤義昭(森林総研関西)

P1-043 ブナ林を流れる溪流における有機物収支 - C, N ベースでの試算 -. °阿部俊夫(森林総研), 藤枝基久(森林総研東北), 吉永秀一郎, 壁谷直記, 野口宏典, 清水晃, 久保田多余子(森林総研)

P1-044 モデルシミュレーションによるスギ人工林の発達に伴う土壌炭素ダイナミクス. °首藤勝之, 中根周歩(広島大)

P1-045 高 CO₂ が森林生態系に及ぼす影響のシミュレーション研究. °戸田求(北大低温研), 渡辺力(森林総研), 横沢正幸(農環研), 江守正多(地球フロンティア研究システム), 高田久美子(地球フロンティア研究システム), 隅田昭洋(北大低温研), 原登志彦(北大低温研)

P1-046 ヒノキ幹の呼吸速度の日変化における温度依存性について. °荒木真兵, 川崎達郎, 韓慶民(森林総研)

P1-047 カワウによる森林への窒素供給とその長期的影響. °亀田佳代子(琵琶湖博), 保原達(環境研), 木庭啓介(東工大), 大園享司, 寺井雅一(京大)

P1-048 冷温帯落葉広葉樹林における樹冠上 CO₂ フラックス形成過程. °高梨聡, 小杉緑子, 中西理絵, 松尾奈緒子(京大), 田中夕美子, 日浦勉(北海道大)

P1-049 亜高山帯の常緑多年生草本ベニバナイチヤクソウの標高にともなう窒素・リンの動態の変化. °磯海のぞみ, 山村靖夫(茨城大), 中野隆志(山梨県環境研)

P1-050 ヤナギ林の地下部根系の動態と純一次生産量. °糟谷信彦, 山本武郎, 糸永恵理子, 斎藤秀樹(京都府大院)

P1-051 北海道東部河川におけるサケ遡上実態と河川・森林生態系に及ぼす影響. °柳井清治(道工大), 河内香織(東大院)

P1-052 プロセスアプローチによる農地生態系の炭素収支比較. °関川清広(玉川大), 木部剛(静岡大), 横沢正幸(農環研), 小泉博(岐阜大), 鞠子茂(筑波大)

P1-053 カワウ営巣林における木質リター:現存量・組成・化学性の変化. °勝又伸吾, 大園享司, 武田清博(京大院), 亀田佳代子(琵琶湖博物館), 木庭啓介(東工大)

P1-054 落葉広葉樹二次林における土壌の CO₂, CH₄, N₂O 発生・吸収速度と伐採の影響. °籠谷泰行(滋賀県大), 金子有子, 浜端悦治, 中島拓男(琵琶湖研)

——(「物質生産・物質循環」ポスター賞応募発表)——

P1-055c 自動開閉式チャンバーを用いた根呼吸量の連続測定. °檀浦正子, 金澤洋一(神戸大院), 小南裕志, 深山貴文, 玉井幸治, 後藤義明(森林総研)

P1-056c 林床性高茎草本植物の成長戦略-冷温帯落葉樹林の季節的光変動環境下における同化様式-. °谷友和, 工藤岳(北大)

P1-057c マレーシアの熱帯林とプランテーションにおける土壌特性が土壌呼吸速度に与える影響. °安立美奈子, 八代裕一郎, 近藤美由紀, 車戸憲二(岐阜大), W. Rashidah (マレーシア森林研), 奥田敏統(国立環境研), 小泉博(岐阜大)

P1-058c タイ東北部・サケラートの熱帯乾燥常緑林における大型枯死材を中心とする炭素循環. °清原祥子, 神崎護, 太田誠一, 梶原嗣顕(京大), Chongrak Wachrinrat (カセサート大), Pongsak Sahunulu (宇都宮大)

P1-059c 炭素・窒素・硫黄安定同位体比を用いた Lake Chain 生態系の物質循環解析. °土居秀幸(東北大), 菊地永祐(東北大), 溝田智俊(岩手大), 鹿野秀一(東北大), 狩野圭市(東北大), Natalia Yurlova, Elena Yadrenkina, Elena Zuykova (ロシア科学アカデミーシベリア支部)

P1-060c 硫黄荒原におけるリン脂質脂肪酸を指標とした土壌微生物群集構造の解析. °吉竹晋平, 中坪孝之(広島大)

P1-061c 天然の CO₂ 噴出地: 将来予測される高 CO₂ 環境のモデル生態系. °小野田雄介, 彦坂幸毅, 広瀬忠樹(東北大)

P1-062c 樹木肥大成長の気象変動に対する応答とサイズ依存性. °鍋嶋絵里, 日浦勉(北大), 久保拓弥(北大)

P1-063c 消費者の栄養塩再循環による空間的異質性: 被食者多様性への捕食者の役割. °加藤聡史, 占部城太郎, 河田雅佳(東北大)

P1-064c 干潟の物質循環におけるイボウミナナの役割について. °上村了美(琉球大理工海洋環境), 土屋誠(琉球大理工海洋環境)

P1-065c ブナにおけるマスティングとリターフォール量の関係. °安村有子, 彦坂幸毅, 広瀬忠樹(東北大)

P1-066c スギ人工林の成立に伴う土壌無機態窒素動態の変化. °福島慶太郎(京大院), 徳地直子(京大フィールド研), 箱野隆之輔(地球所)

P1-067c 北米冷温帯針葉樹林における樹冠の枯死枝の現存量と分解過程. °石井弘明, 角谷友子, 上村真由子(神戸大)

P1-068c リンの存在形態からみた日本の干潟の特徴. °宇田川弘勝, 広木幹也, 野原精一, 矢部徹, 佐竹潔, 河地正伸(国環研)

P1-069c ヒノキ細根系内の寿命異質性からみた生産・枯死・分解過程. °菱拓雄(京大), 武田博清(京大)

P1-070c 中央シベリアカラマツ林における土壌中無機態窒素動態. °近藤千真, 徳地直子(京大)

P1-071c 八ヶ岳山麓の湿地林における地上部現存量とリター量の空間分布. °小川政幸(筑波大), 上條隆志, 黒田吉雄, 荒木真之(筑波大), 曾根祐太(筑波大)

P1-072c Continuous measurement of soil CO₂ emission rate using an automatic open/closing multi-channel system on deciduous forest floor. Jae-Seok Lee, Sang-Uk Suh, Jun-Seok Lee, Masayuki Yokozawa

P1-073c ブラントクソンを利用した POM の流下距離推定. °山本佳奈(京大院), 竹門康弘, 池淵周一(京大)

P1-074c マレーシアにおける土地利用変化と N₂O フラックス. °八代裕一郎, 安立美奈子(岐阜大), Dr. Wan Rasidah Kadir (マレーシア森林研), 奥田敏統(国立環境研), 小泉博(岐阜大)

P1-075c 河川窒素動態に与える水草の影響. °小野田統(北大), 田中義幸(東大), 向井宏(北大)

P1-076c 安泰同位体分析を用いた冷温帯落葉広葉樹林における CO₂ 動態の季節変化の評価. °近藤美由紀(岐阜大), 内田昌男(海洋研究開発機構), 村岡裕由, 小泉博(岐阜大)

P1-077c 森林生態系における林冠構成種と林床植生の光合成生産量の比較. °酒井徹, 秋山侃(岐阜大)

- P1-078c 北海道北部の冷温帯林における細根動態と土壌環境要因の季節変化。°福澤加里部 (北大院), 柴田英昭, 高木健太郎, 佐藤冬樹, 笹賀一郎, 小池孝良 (北大)
- P1-079c 河川の出水特性と有機物の流下・滞留様式の関係。°三島啓雄 (Natural Resources Research), 河内香織, 柳井清治 (北海道工業大)
- P1-080c Differences of O₂/CO₂ exchange ratio on soil respiration using two chamber types in forests soil. °李美善, 遠嶋康徳 (国環研), 井上元 (国環研)
- P1-081c 安定同位体を用いた森林土壌における炭素・窒素動態。°新井宏受 (京大院), 木庭啓介 (東工大院), 徳地直子 (京大フィールド研)
- P1-082c 冬・水・田んぼにおけるカモ類排泄物の肥料的価値。°中村雅子 (ホシザキグリーン財団), 香川裕之 (東北緑化環境保全), 江成敬次郎 (東北工大)
- P1-083c 温暖化環境下での樹木の炭素循環・収支研究のためのオープントップチャンパー (OTC) の環境条件の制御。°周承進, 林明姫, 今川克也, 中根周歩 (広島大院)
- P1-084c オープントップチャンパーを用いて温暖化環境に制御された条件下での常緑広葉樹 (アラカシ) の成長量と生産物の再配分。°林明姫, 今川克也, 周承進, 中根周歩 (広島大院)
- P1-085c 亜高山帯針葉樹林における細根の現存量と生成量の推定 - 土壌コア法とイングロースコア法を用いて - 。°土井裕介, 菱拓雄, 森草, 武田博清 (京大)

ポスター「繁殖・生活史」8月26日(木)

- P1-086 鹿児島湾におけるヒメウズラタマキビガイの生息地による生活史の比較。°河野尚美, °富山清升 (鹿児島大)
- P1-087 アボイカンパの種子生産の花粉制限とダケカンパとの間の不完全な生殖隔離。°永光輝義, 河原孝行 (森林総研), 金指あや子 (森林総研)
- P1-088 越冬期におけるホソヘリカメムシの生息場所選好性。°伊藤健二 (中央農業総合研究センター), 田淵研 (千葉大)
- P1-089 北海道におけるイチヤクソウ亜科とマルハナバチの生活史の対応関係。°阿部恵子, 大原雅 (北大)
- P1-090 トウキョウサンショウウオの食性の地点間の比較。°伊原禎雄 (奥羽大)
- P1-091 自殖性絶滅危惧水生植物ヒメシロアサザの地理的変異。°柴山弓季 (東京大), 植田好人 (神戸市立西高校), 角野康郎 (神戸大)
- P1-092 シデコブシの小集団化が近親交配と近交弱勢、花粉不足に与える影響 - 集団サイズの異なる二集団での比較 - 。°平山貴美子, 石田清 (森林総研), 戸丸信宏, 鈴木節子 (名大)
- P1-093 絶滅危惧種ハナノキの種子生産。°金指あや子, 鈴木和次郎 (森林総研)
- P1-094 アコウの一樹冠内の遺伝構造。°金谷整一 (森林総研), 大谷達也 (森林総研九州)
- P1-095 水生植物タヌキモ類における雑種形成と集団の維持機構。°亀山慶晃 (北大), 外山雅寛 (北海道), 大原雅 (北大)
- P1-096 山梨県都留市におけるカワネズミの繁殖、成長、および生残。°一柳英隆 (ダム水源環境整備センター)
- P1-097 餌メニューがオオタバコガ幼虫の体色に与える影響について。°山崎梓, 清水健, 藤崎憲治 (京都大院)

- P1-098 日本産エンレイソウ属植物の雑種形成過程 - 開花フェノロジーの違いによる交雑の方向性 - 。°三谷拓矢, 亀山慶晃, 大原雅 (北大)
- P1-099 ヒメシャガにおける花被片間の機能的分化。°森長真一, 酒井聡樹 (東北大院)
- P1-100 翼のかたがちが散布を決める! - ヤチダモ種子の画像解析と散布実験から分かったこと - 。°後藤晋 (東大院), 岩田洋佳 (中央農研), 芝野伸策, 大屋一美, 鈴木憲, 小川瞳 (東大院)
- P1-101 外来種フタモンテントウの日本における分布状況と在来テントウムシとの関係。°戸田裕子, 桜谷保之 (近畿大)
- P1-102 雌雄異株性樹木オノエヤナギにおける性比の偏りがメスの繁殖成功に与える影響。°上野直人 (新潟大)
- P1-103 小川学術保護林におけるコナラ・ミズナラの結実量の決定要因。°酒井章子 (京大), 柴田鏡江 (森林総研), 丑丸敦史 (地球研), 市栄智明, 田中健太 (北大)
- P1-104 森林の分断化がホオノキの結実率に与える影響。°館野隆之輔 (地球研), 井鷲裕司 (広島大), 柴田鏡江, 田中浩, 新山馨 (森林総研), 中静透 (地球研)
- P1-105 越冬条件がムカゴトラノオの発芽と成長に及ぼす影響。°西谷里美 (日本医大), 増沢武弘 (静岡大)
- P1-106 アユモドキの産卵環境と仔稚魚の分布。°阿部司 (滋賀県立大), 小林一郎 (岡山淡水魚研究会), 近雅博 (滋賀県立大)
- P1-107 アオダモ局所集団の性比と種子の性質。°半田孝俊 (林木育種センター北海道育種場)
- P1-108 多雪地ブナ林における樹木群集のリーフフェノロジー。°井田秀行 (信州大)
- P1-109 トチバニンジン (ウコギ科) における繁殖特性の集団間比較。°岡崎純子, 和多田悦子 (大阪教育大)
- P1-110 アオモリトドマツの球果生産が当年枝伸長量に及ぼす影響について。°関剛 (森林総研)
- P1-111 奥日光ミズナラ天然林内における稚樹と堅果の推定花粉親の比較。°伊部貴行 (東農大院), 河原輝彦 (東農大), 生方正俊 (林育セ)
- P1-112 個体識別法によるメダカの生態調査 - 移動と成長の個体変異 - 。°佐原雄二, 富樫望, 國分純平, 東信行 (弘前大)
- P1-113 種子のギャップ検出機構はそれらの適応度に常に貢献し得たのか?。°本田裕紀郎, 伊藤浩二, 加藤和弘 (東大), 倉本宣 (明大)
- P1-114 風散布植物センボンヤリの繁殖戦略 ~ 閉鎖花/開花に由来する二型瘦果の役割 ~ 。°名倉京子 (京都大), 湯本貴和 (総合地球環境学研)
- P1-115 エゾアカガエル (*Rana pirica*) の繁殖期の年変動。°竹中踐 (北東海大)
- P1-116 ヨツボシモンシデムシの繁殖における雄の資源処理行動の解析。°岸田竜, 鈴木信彦 (佐賀大)
- P1-117 雌雄同株から雌雄異株への進化の条件。°館野正樹, 中山新一朗 (東大院)
- P1-118 雑種タンポポの成長量の比較 ~ 乾燥した土壌に対する耐性 ~ 。°保谷彰彦 (東京大), 芝池博幸 (農業環境技術研), 森田龍義 (新潟大), 伊藤元己 (東京大)
- P1-119 ブナのマスティングはなぜおこるのか - 受粉効率仮説と捕食者飽食仮説の検証 - 。°今博計 (北海道林試), 野田隆史 (北大院), 寺澤和彦, 八坂通泰 (北海道林試), 小山浩正 (山形大農)

- P1-120 マレーシア半島部における熱帯雨林構成樹種の種子・落葉試料を用いた個体レベルでのフェノロジー解析。°前田桂子, 木村勝彦(福島大), 佐々木真奈美(福島市), 奥田敏統(国立環境研), 新山馨(森林総研), Azizi Ripin, Abd. Rahman Kassim (FRIM)
- P1-121 谷戸田環境におけるトウキョウダルマガエルのフェノロジーと成長。°戸金大, 倉本宣(明治大), 福山欣司(慶応大)
- P1-122 ヨツモンマメゾウムシにおける幼虫間競争と産卵分布の関係。°石田健太郎, 徳永幸彦(筑波大)
- P1-123 タチスズシロソウの低温処理による開花反応性の集団間変異。°杉阪次郎, 工藤洋(神戸大院)
- P1-124 雪田植物チングルマにおいて、雪解け時期の違いが個体サイズに依存した繁殖への資源分配に与える影響。°辻沢央, 酒井聡樹(東北大)
- P1-125 寄主の活性に着目した寄生蜂の性比調節。°中村智(筑波大), 徳永幸彦(筑波大)
- (「繁殖・生活史」ポスター賞応募発表)——
- P1-126c アイナメ属3種の繁殖場所選択と交雑との関係。°木村幹子(北大水院), 宗原弘幸(北大FSセンター)
- P1-127c メスは精子制限のリスクに反応した配偶者選択をできるのか?。°佐藤琢, 五嶋聖治(北大院)
- P1-128c エゾシカにおける対照的な2個体群の餌資源比較。°上野真由美(北大院), 高橋裕史(北海道環境研), 西村千穂(北大院), 梶光一(北海道環境研), 齊藤隆(北大)
- P1-129c 亜熱帯性昆虫オオタバコガの温帯への適応と休眠特性。°清水 健, 藤崎憲治(京大院)
- P1-130c 絶滅危惧植物ユキモチソウ(*Arisaema sikokianum*, サトイモ科)における性表現と個体サイズ, 成長様式および個葉光合成との関係: 圃場での被陰実験から。°浦川裕香, °小林 剛, 深井誠一(香大)
- P1-131c コバネナガカメムシの個体群間でみられる生活史性質の変異について - ヨシ・ツルヨシ群落における生息環境の違いに関連して - 。°嘉田修平, 藤崎憲治(京大院)
- P1-132c 木本植物の生育段階の指標変数としてのRGRの有効性。°藤木大介(京都大), 菊沢喜八郎(京都大)
- P1-133c メダカの脊椎骨数の緯度間変異に与える遺伝と水温の影響について。°西田健志, 山平寿智(新潟大)
- P1-134c メダカにおける成長と繁殖のトレードオフ関係とその緯度間変異について。°武士謙一, 山平寿智(新潟大)
- P1-135c 野生メダカの成長スケジュールおよび個体群動態の緯度間変異。°山平寿智, 岡田昌(新潟大)
- P1-136c *Shorea acuminata* の繁殖戦略: 不定期に大量開花・結実することの適応的意義。°内藤洋子, 神崎護(京大), 沼田真也(国立環境研), 小沼明弘(農環研), 西村千(マレーシア森林研), 太田誠一(京大), 津村義彦(森林総研), 奥田敏統(M.マレーシア森林研)
- P1-137c オーストラリア産シロアリ *Amitermes laurensis* における塚形状の多様性と種内分子系統。°小関真人(広島大院), 井鷲裕司(広島大), Peter Jacklyn (Cherles Darwin Univ.), David Bowman (Cherles Darwin Univ.)
- P1-138c ヒノキ林における細根系の形態と分枝構造。°藤巻玲路, 武田博清(京大院)
- P1-139c 低木ウスノキの樹冠における花芽形成のシュートレベルで見たコストとパターン。°河村耕史(京大院), 武田博清(京大院)
- P1-140c 単独性ハナバチ, キオビツヤハナバチ(*Ceratina flavipes*)における交尾行動。°城所碧(北大), 東典子(北大), 東正剛(北大)
- P1-141c 暗い林床に生育するペニバナイチヤクソウはなぜ菌根を持つのか?。°國司綾子(帯畜大), 長谷川成明(北大), 橋本靖(帯畜大)
- P1-142c 樹林 - 水田複合生態系で生活するノシメトンボの雌における週休5日制の産卵パターン。°諏佐晃一, 渡辺守(筑波大)
- P1-143c フタバガキ科3種の稚樹における形態的シンドロームとその機能。°饗庭正寛(京大), 中静透(地球研)
- P1-144c オオバナノエンレイソウ集団の遺伝的空間構造に及ぼす集団孤立化の影響。°山岸洋貴, 大原雅(北大), 富松裕(東京都立大)
- P1-145c エイザンスミレとヒゴスミレの光環境, 送粉昆虫に対応した資源分配。°遠山弘法(九州大)
- P1-146c ウルシ属2種(ヌルデ, ヤマウルシ)における栄養成長・繁殖成長の季節的パターンと経年的繁殖行動との関わり。°松山周平(京大院), 寄元道徳(京大フィールド研)
- P1-147c ネジキ, ナツハゼの枝系内の位置に対応した花芽分布のパターン。°平野みお, 河村耕史, 武田博清(京大院)
- P1-148c 針葉樹型樹形と広葉樹型樹形の光資源獲得様式の違いについて。°佐野智一, 藤本征司(静岡大)
- P1-149c ヤマユリの香り: その時間・個体サイズ依存変化が繁殖成功に与える影響。°太田彩子, 森長真一(東北大), 熊野有子, 山岡亮平(京都工織大), 酒井聡樹(東北大)
- P1-150c フキにおける三つの花型の適応的意義: 訪花昆虫の誘引に貢献しているか?。°鈴木由佳(東北大), 星崎和彦, 小林一三(秋田県立大), 酒井聡樹(東北大)
- P1-151c 亜寒帯針葉樹林内で倒木更新している幼木と外生菌根菌の関係。°米田一平, 橋本靖(帯畜産大)
- P1-152c 雌雄異株クローナル植物ヤマノイモのラメット間競争を検出する - 圃場1年目の試み - 。°井上みずき(京大), 石田清(森林総研), 菊澤喜八郎(京大)
- P1-153c 海岸砂丘前面, 背面に生育するコマツヨイグサのフェノロジーの変異。°荻津英也, 長谷川正幸, 大塚歩美, 堀良通(茨城大)
- P1-154c 蛇紋岩遺存植物オゼソウのクローン構造と集団分化。°川瀬大樹(京都大)
- P1-155c タナゴ亜科魚類の産卵資源利用の違い。°北村淳一(京大院)
- P1-156c タンチョウの繁殖に天候はどう働くか。°正富欣之(北大), 正富宏之(札幌市), 東正剛(北大)
- P1-157c 海浜に生育する植物14種の永続的シードバンク形成の可能性。°澤田佳宏(岐阜大)
- P1-158c アズキゾウムシにおける雄の同居のコスト。°柳真一(岡山大)
- P1-159c 異なる地形における樹木の生長と生残。°辻野亮(京都大), 日野貴文(北海道大), 揚妻直樹(北海道大), 湯本貴和(総合地球環境学研)
- P1-160c ヤマモモ(*Myrica rubra*)の集団間の遺伝的分化サルのある森とない森の比較。°寺川眞理(奈良教育大), 菊地賢, 金谷整一(森林総研), 松井淳(奈良教育大), 湯本貴和(総合地球環境学研), 吉丸博志(森林総研)
- P1-161c スズランにおけるクローンの空間構造と種子繁殖の関係。°荒木希和子, 山田悦子, 大原雅(北大)

- P1-162c モンカゲロウの産卵場所選択性～砂礫堆と樹冠の影響～. °田中武志, 山田浩之(北海道大院), 竹門康弘, 池淵周一(京大)
- P1-163c クロヒナスゲ *Carex gifuensis* の生活環と実生の動態. °吉場理恵(宇都宮大), 小林幹夫(宇都宮大)
- P1-164c 吊り下げるべきか、切り落とすべきか? エゴツルクビオトシブミの揺籃作製をめぐる代替戦術の戦術間比較. °小林知里, 加藤真(京大)
- P1-165c 北タイ熱帯山地林における下層の光環境と樹木の生存戦略. °中島弘起, 武田博清(京大), Soontorn KHAMYONG(チェンマイ大)
- P1-166c オオヤマオダマキにおける、花序内の花間で雄期・雌期の長さが性投資量におよぼす影響. °板垣智之, 酒井聡樹(東北大)
- P1-167c 沖縄島におけるオヒルギの開花・結実特性と受粉システム. °野口和貴(北越パッケージ), 佐々木健志(琉大資料館), 馬場繁幸(琉大農)
- P1-168c 季節的性比調節の解析的 ESS モデル. °向坂幸雄(信州大), 雨甲斐広康, 吉村仁(静岡大)

ポスター「景観生態」8月26日(木)

- P1-169 ハルニレの生育適地はどこか? - 栃木県栗山村土呂部地区の事例 -. °野宮治人(森林総研)
- P1-170 氾濫原プールにおける稚魚生息場利用に関する研究. °山下慎吾, 中越信和(広島大)
- P1-171 宍道湖の典型的な岸辺生息場における底生無脊椎動物群集. °倉田健悟(島根大)
- P1-172 沖縄本島東岸における海草藻場の時空間変動に対する陸域生態系の影響. 石橋知佳(千葉大), °仲岡雅裕(千葉大), 近藤昭彦(千葉大)
- P1-173 長野県上伊那地方における越冬期の鳥類群集と土地利用との関係. °津森正則(信州大院), 大窪久美子(信州大)
- P1-174 水生昆虫による松本市のため池の評価～カメムシ目, コウチュウ目, トンボ目を指標として～. °山本恵利佳, 土田勝義(信州大)
- P1-175 港北ニュータウンにおける竹林群落の変遷について. °湯本裕之, 倉本宣(明治大)
- P1-176 名勝としての海岸マツ林を構成しているクロマツ個体の年輪成長速度. °藤原道郎, 岩崎寛(兵庫県立大)
- P1-177 温暖化に伴う潜在自然植生の変化. °楠本良延(農環研)
- P1-178 景観構造が管住性ハチ類の種多様性に与える影響: 武庫川流域における調査. °遠藤知二, 森島玲奈, 勝又愛, 北垣優子(神戸女学院大), 西本裕(小林聖心女子学院), 橋本佳明, 中西明徳(兵庫県立人と自然の博物館)
- P1-179 高速道路における中型獣のロードキルと道路周辺環境との関係. °大竹邦暁(中電技術コンサルタント), 飯塚康雄, 佐伯緑, 藤原宣夫(国総研)
- P1-180 四万十川上流域梶原町 FSC 認証植林地における強度間伐施業の生態的効果. °木島静香(広島大国際協力), 中越信和(広島大総合科学)
- P1-181 農地における水系の生態学的評価. °足達優子, 中越信和(広島大)

——(「景観生態」ポスター賞応募発表)——

- P1-182c 東京湾における海草藻場の長期空間動態. °山北剛久(千葉大), 仲岡雅裕(千葉大), 近藤昭彦(千葉大), 石井光廣(千葉県水産研セ), 庄司 泰雅(千葉県水産研セ)
- P1-183c 京都市周辺二次林のマツ枯れ後の動態. °呉初平, 岡田泰明(京大院), 清水良訓(京大), 安藤信(京大)
- P1-184c ため池のトンボの種構成に及ぼす環境要因の影響. °浜崎健児, 山中武彦, 中谷至伸, 田中幸一(農業環境技術研)
- P1-185c 景観の変遷とイノシシ被害の広がり. °酒井将義, 中越信和(広島大)
- P1-186c 屋敷林の構造 - 地域による相違 -. °竹原明秀, 村田野人(岩手大), 平吹喜彦, 福岡公平(宮教大), 三浦修(岩手大)
- P1-187c 屋敷林と鳥類群集の関係. °村田野人(岩手大), 竹原明秀(岩手大)
- P1-188c 長野県白馬村におけるカタクリ, カンアオイ類の生育立地特性とその変化. °藤原直子, 尾関雅章(長野県環境保全研), 前河正昭(長野県環境保全研)

ポスター「行動・社会生態」8月27日(金)

- P2-001 同所的に生息するカワニナとイシマキガイの種間関係. °小野田剛, 富山清升(鹿児島大院)
- P2-002 吸虫はコメツギガニの摂食行動に影響を与えるか?. °古賀庸憲(和歌山大)
- P2-003 長野県伊那盆地におけるダルマガエルの生息状況と移動性. °水野敦, 大窪久美子(信大), 澤島拓夫(森の学校キョロ口)
- P2-004 ツキノワグマ誤捕獲個体の放獣後の移動状況. °西信介(鳥取県林試), 藤田文子(元鳥取大), 山本福壽(鳥取大)
- P2-005 ニホンザルの群れの空間的な広がり. °杉浦秀樹, 下岡ゆき子(京大), 辻大和(東京大)
- P2-006 タイ王国・カオヤイ国立公園に生息するブタオザル雄の繁殖戦略. °丸橋珠樹(武蔵大), 北村俊平(京大), 湯本貴和(地球環境研), Pilai Poonswad(Mahidol 大)
- P2-007 滋賀県北部におけるイノシシの行動圏と植生. °竹村菜穂, 丹尾琴絵, 井上貴央, 近雅博, 野間直彦(滋賀県立大), 寺本憲之(滋賀県東近江地域農業改良普及センター), 山中成元, 常喜弘充, 鋒山和幸, 上田栄一(滋賀県農試湖北分場)
- P2-008 異なる対捕食戦略をとるアブラムシ2種に対するナナホシテントウ幼虫の餌選好性. °井手徹, 片山昇, 鈴木信彦(佐賀大)
- P2-009 マダガスカル北西部におけるブラウンキツネザルの行動圏、日周活動、採食様式. °水田拓(東邦大)
- P2-010 沖縄島におけるサワガニ類2種のブナ科堅果の採餌行動について. °佐々木健志(琉球大)
- P2-011 pioneer は一人で十分? - インゲンゾウムシの幼虫にみる2つの戦略 -. °大塚康徳, 徳永幸彦(筑波大)
- P2-012 オガサワラオオコウモリ冬季集団ねぐらでの社会構造. °杉田典正, 上田恵介(立教大), 藤井章, 高槻正規(東大), 稲葉慎(小笠原自然文化研)
- P2-013 シジュウカラでは、どんなオスが父性を失い、どんなオスが婚外父性を得ていたか?. °河野かつら(九大), 山口典之(立教大), 矢原徹一(九大)
- P2-014 制約された形質相関: 卵サイズと表現型可塑性. °道前洋史, 若原正己(北大), 西村欣也(北大)

- P2-015c シロアリと卵擬態菌核菌の共生. °松浦健二 (ハーバード大)
- P2-016c 単独性ハナバチは先に採餌された花を見分けられる?. °横井智之, 藤崎憲治 (京大院)
- P2-017c 琵琶湖固有種であるハゼ科魚類イサザの雄が複数雌との配偶を拒否する理由. °高橋大輔 (京大院), 麻田葉月, 武山智博, 高畑美寿樹, 加藤励, 安房田智司, 幸田正典 (大阪市大院)
- P2-018c 繁殖アマゴにおける体側模様の二型性と文脈依存メス擬態. °鹿野雄一 (三重大), 清水義孝 (三国谷調査会)
- P2-019c ハサミムシ類の系統関係と交尾行動にみられる左右性. °上村佳孝 (立正大)
- P2-020c 同所的に生息するアライグマとタヌキ資源利用特性の比較. °岡部史恵 (北大), 揚妻直樹 (北大)
- P2-021c ヨツモンマメゾウムシの地理的系統内で生じた競争様式と生活史形質の変異. °真野浩行 (筑波大), 徳永幸彦 (筑波大)
- P2-022c 個体間関係はエゾシカのオスの空間利用に影響を与えるか?. °島絵里子, 齊藤隆 (北大), 高橋裕史 (北大院), 梶光一 (道環境研)
- P2-023c 真似するべきか、せざるべきか? - 配偶者選択における真似の進化 -. °上原隆司, 横溝裕行, 巖佐庸 (九大)
- P2-024c 腸内共生細菌伝播時におけるマルカメムシの行動. °細川貴弘 (産総研), 菊池義智 (茨大), 深津武馬 (産総研)
- P2-025c マガンの採食地における時空間変化とその決定要因. °天野達也 (東大), 牛山克己 (美唄市), 藤田剛, 樋口広芳 (東大)
- P2-026c エゾクロテンの行動圏と生息地利用. °三好和貴, 東正剛 (北大)
- P2-027c コオロギ配偶者選択における歌の役割 - 鍵となるパラメーターの特定. °角恵理 (東大院)
- P2-028c 雌が単婚制のキアゲハにおける有核精子と無核精子の動態. °小林泰平, 渡辺守 (筑波大)
- P2-029c ヨツモンマメゾウムシにおける産卵行動と均等産卵分布の実現: ニューラルネットモデルによる意思決定の解析. °瀬戸山雅人, 嶋田正和 (東京大)
- P2-030c 寄生バチ *Melittobia* の極端な雌偏向性比: 長い羽化期間と雄間闘争の関係. °安部淳 (東大), 上村佳孝 (立正大), 嶋田正和 (東大)
- P2-031c 海藻穿孔性甲殻類コンブネクイムシではなぜ複数腹の幼体が1夫1妻の親と同居するのか?. °青木優和 (筑波大), 山口あんな (国立国会図書館)
- P2-032c メスの複数回交尾の進化: アズキゾウムシを用いた物質的な利益の検証. °桜井玄 (九大), 粕谷英一 (九大)
- P2-033c アカネズミの雌はテリトリー防衛を行っているか? ~ 闘争実験と侵入パターンから ~. °坂本信介 (都立大)
- P2-034c ツチバチ類の宿主選択と寄生行動. °井上牧子, 遠藤知二 (神戸女学院大)
- P2-035c ホストの個性を活かす - 性質が異なる寄主に対するアオムシコマユバチによる行動操作様式の比較 -. °田中晋吾, 大崎直太 (京大)

- P2-036 シュート損傷要因とその後の萌芽再生に注目したミズナラ実生のデモグラフィー. °壁谷大介 (森林総研)
- P2-037 アオダモの萌芽発生に対する光環境及び地上部除去の効果. °滝谷美香, 渡辺一郎, 大野泰之 (道立林試), 梅木清 (千葉大)
- P2-038 横風の中での風散布体の落下速度変化. °市河三英, 齊藤茂勝 (自然研), 杉本剛 (神奈川大)
- P2-039 北上川底泥地のヨシ群落内でのイトメの個体群動態とヨシに対する窒素栄養源としての可能性. °今野泰史, 立石貴浩, 佐藤修也, 溝田智俊 (岩手大), 松政正俊 (岩手医大), 牧陽之助 (岩手大)
- P2-040 野火後の荒廃泥炭低湿地に侵入した *Melaleuca cajuputi* の6年間の個体群動態. °富田瑞樹 (横国大), 平吹喜彦 (宮教大), 鈴木邦雄 (横国大), 阿部功之 (東北緑化環境保全)
- P2-041 山林火災跡地のVA菌根菌胞子の形態観察と18S rDNA解析. °三宅彩子 (広島大院), 堀越孝雄, 井鷲祐司 (広島大)
- P2-042 釧路湿原周辺におけるハンノキの遺伝解析. °近藤圭 (セ・プラン), 北村系子 (森林総研), 入江潔 (ドーコン)
- P2-043 ミクラザサの開花・未開花個体群におけるマイクロサテライト・マーカーによるクローンおよび遺伝構造の比較検討. °小林幹夫 (宇都宮大)
- P2-044 伊豆諸島に分布するオオシマザクラにみられた遺伝的多様性の地理的勾配と限られた遺伝子流動. °岩田洋佳 (中央農研), 加藤珠理 (静岡大), 向井讓 (岐阜大), 津村義彦 (森林総研)
- P2-045 異なる発達段階のヒメモチ個体群における遺伝構造の比較. °鳥丸猛, 戸丸信弘 (名古屋大)
- P2-046 SNPs とマイクロサテライトの比較. °磯田圭哉, 渡邊敦史 (林育セ), 平尾友士 (秋田県大)
- P2-047 東京湾におけるアマモの遺伝的集団構造と遺伝子流動. °出店映子, 仲岡雅裕 (千葉大), 田中法生 (国立科学博物館つくば実験植物園)
- P2-048 岩礁潮間帯ベントス個体群に対する幼生加入量の影響. °丸山妙子, 仲岡雅裕 (千葉大), 野田隆史 (北大), 山本智子 (鹿児島大), 堀正和 (東大)
- P2-049 カニの右利き左利き: ハサミの左右非相称性が採餌とケンカに及ぼす影響. °繁宮悠介 (長崎総科大)
- P2-050 スギ人工林における樹上性トビムシの時空間分布 - 体サイズ分布にもとづく解析 -. °吉田智弘 (名大院), 肘井直樹 (名大院)
- P2-051 外来昆虫ブタクサハムシのメタ個体群モデル. °山中武彦, 田中幸一 (農業環境技術研)
- P2-052 絶滅のおそれのあるチョウ類・ヒョウモンモドキのメタ個体群動態. °中村康弘 (森林文化アカデミー)
- P2-053 絶滅のおそれのあるチョウ類・ヒョウモンモドキメタ個体群の遺伝構造. °宮崎由佳, 中村康弘 (森林文化アカデミー)
- P2-054 オガサワラオオコウモリの日中ネグラ形成の季節変化. °稲葉慎, 鈴木創 (小笠原自然文化研), 杉田典正, 上田恵介 (立教大)
- P2-055 ニホンジカ伊豆地域個体群の生息数推定. °大場孝裕 (静岡県林技セ)

P2-056 マイクロサテライトマーカーを用いた信州のツキノワグマの遺伝的多様性推定. °木戸雅子(信大院), 泉山茂之(野生動物保護管理事務所), 林秀剛(信州ツキノワグマ研究会), 伊藤建夫(信大)

P2-057 Morphological and Genetic Variations of Populations of *Suaeda maritima* according to environmental gradients on the Southwestern coast of Korea. Lee Jeom-Sook (Kunsan National Univ.), Myung Hyun-Ho, Lee Jung-Yun, °Ihm Byung-sun (Mokpo National Univ.)

——(「個体群生態」ポスター賞応募発表)——

P2-058c ケヤキ開葉時期の産地間変異. °矢野慶介, 山田浩雄, 生方正俊(林木育種センター)

P2-059c 亜熱帯照葉樹林における光環境と個体サイズの変化が樹冠形に与える影響. °林真子, 榎木勉(琉球大)

P2-060c 力学的特性と樹木形態解析による日本の高木性樹種の生態特性. °目黒伸一(国際生態学センター), 牧口直子(横浜市), 上條隆志, 中村徹(筑波大)

P2-061c カラマツ実生の成長特性のマイクロハビタット・標高間比較. °赤坂宗光, 露崎史朗(北大院)

P2-062c ミズメ実生における地下部個体間相互作用が個体の特性におよぼす影響. °宮本和樹(森林総研関西), 谷口真吾(兵庫県森林技セ)

P2-063c コケの高さが異なる倒木におけるエゾマツ実生の生残と成長. °飯島勇人, 渋谷正人, 斎藤秀之, 高橋邦秀(北大院)

P2-064c 原生的スギ・落葉広葉樹林に優占的な落葉性低木3種の空間分布パターンとそれに関わる環境要因. °森下和路(京大院), 寄元道徳(京大フィールド研)

P2-065c ジャワ島・ハリムン山におけるツル性ヤシ科植物口タンの成長と個体群動態. °渡辺名月(鹿大院), 鈴木英治(鹿大)

P2-066c カムチャツカ半島における *Betula platyphylla* と *Larix cajanderi* の更新様式. °飯村佳代(北大), 本間航介(新潟大), 奥田将己(総合研究大), V.vetrova, M.Vyatkina(ロシア科学アカデミー), 隅田明洋, 原登志彦(北大低温研)

P2-067c シロイヌナズナ個体群における葉の枯死が自己間引き過程に及ぼす影響. °大久保幸実, 鈴木準一郎, 可知直毅(都立大)

P2-068c ハイビヤクシンの成立と集団内に認められる遺伝変異の解明. °平尾知士(秋田県大院), 渡辺敦史(林育セ), 長野克也, 戸田義宏(九東大)

P2-069c 伊豆諸島に分布するオオシマザクラの自家不和合性遺伝子座における遺伝的多様性の評価. °加藤珠理(静岡大農), 岩田洋佳(中央農研), 津村義彦(森林総研), 向井謙(岐阜大農)

P2-070c マイクロサテライトマーカーを用いたシデコブシの送粉パターンの解析. °鈴木節子(名古屋大), 石田清(森林総研関西), 上野真義(森林総研), 津村義彦(森林総研), 戸丸信弘(名古屋大)

P2-071c AFLP マーカーを用いたコナラ連鎖地図の作成とフェノロジーに関するQTLの探索. °鶴田燃海(岐阜大), 加藤珠理(静岡大), 向井謙(岐阜大)

P2-072c 同所性ヤドカリにおける浮遊幼生着底の時空間パターンと貝殻資源利用可能性の影響. °大場隆史, 五嶋聖治(北大院)

P2-073c 魚類個体群に対する捕食圧の増加の影響 ~ 生態的プロセスと進化的プロセス ~. °仲沢剛史(京大生態研), 山村則男(京大生態研)

P2-074c メタ個体群内の分散: シオダマリミジンコにおける移出率・分散成功率・パッチ配分率の決定機構. °高橋誠, 野田隆史(北大院)

P2-075c ナミハンミョウ幼虫期の成長と死亡に影響する密度依存的な作用. °竹内勇一(京都大院)

P2-076c リーフマイナー野外個体群における潜孔パターンと寄生の関係. °綾部慈子(九大院)

P2-077c 正の頻度依存捕食とその動態: マメゾウムシ2種と寄生蜂の3者系より. °石井弓美子, 嶋田正和(東大)

P2-078c 個体の多様性が寄主-寄生者系の共存に与える影響. °中道康文, 徳永幸彦(筑波大)

P2-079c 里山におけるアカガエル類2種の個体群構造とその絶滅リスク評価. °中村有, 若林恭史, 長谷川雅美(東邦大)

P2-080c ニホンアカガエルの個体群動態と圃場整備, 耕作放棄, 復田の関係 ~ 南関東における事例 ~. °若林恭史, 中村有, 長谷川雅美(東邦大)

P2-081c ニホンアカガエル幼生の卵塊間でみられた生存率の差: マイクロサテライトマーカーを用いて. °松島野枝(東北大), 石橋靖幸(森林総研), 横山潤, 河田雅圭(東北大)

P2-082c 中山間地域におけるツチガエルの出現状況及び移動パターン. °倉品伸子(当間高原リゾート), 荒川茂樹(東京電力), 水越利春(東電環境エンジニアリング)

P2-083c サギのソナタ ~ 空から綴る三年間の愛の物語 ~. °遠山貴之, 徳永幸彦(筑波大)

P2-084c ツキノワグマの体毛から食歴を読み取る 炭素・窒素安定同位体を用いて. °水上留美子, 楊宗興(農工大), 泉山茂之(野生動物保護管理事務所), 後藤光章, 林秀剛(信州ツキノワグマ研究会)

P2-085c 山梨県御坂山地におけるツキノワグマの重回帰分析を用いた環境利用解析. °奥村忠誠, 羽澄俊裕, 瀧井暁子(野生動物保護管理事務所), Caitlin Angeli, 藤井猛(広島県庁)

ポスター「群集生態」8月27日(金)

P2-086 復興! 群集統計力学(シンポジウム講演「北の一樣, 南の多様: 大規模多種力学系の理論から」詳細版). °時田恵一郎(阪大サイバー)

P2-087 ナラ集団枯損被害による森林の変化が甲虫群集に与える影響. °江崎功二郎, 小谷二郎(石川林試), 後藤秀章(森林総研), 大橋章博, 野平照雄(岐阜森林科研), 井上重紀(福井市)

P2-088 全種保全を考慮した食物網からの最大持続収穫高. °松田裕之(横国大), Peter A. Abrams(トロント大)

P2-089 被食者の捕食回避行動が食物連鎖の安定性に及ぼす影響. °難波利幸, 四方あかり(大阪女子大)

P2-090 ハムシ科種多様性の森林タイプ及び森林施業による違い. °大澤正嗣(山梨森林研)

P2-091 ネムノキマメゾウムシの成長過程における死亡要因: 寄主, 捕食者, 競争者からの効果. °坂田はな, 嶋田正和(東大), 石原道博(大阪女大)

P2-092 長野県上伊那地方水田地域におけるトンボ群集構造及び季節変化と立地環境との関係. °九鬼なお子, 大窪久美子(信州大)

P2-093 サンゴ礁池内の濁度環境と生物群集(サンゴ・海藻・魚)の関係: 石垣島宮良湾の場合. °高田宜武, 渋谷拓郎(西海区水研), 藤岡義三(国際農林水産研), 大葉英雄(東京海洋大), 鈴木淳, 長尾正之(産業技術総合研), 鳥取海峰(岡山山), 阿部寧, 橋本和正(西海区水研)

P2-094 安定同位体分析による鳥類群集の餌資源の季節変化；種間変異と個体間変異。°上杉あかね(ミシガン大), 村上正志(北大)

P2-095 郊外に移転した大学キャンパスにおける生物群集(16)野鳥類の生態と種類・個体数の年次変動。°桜谷保之, 城本啓子(近畿大)

P2-096 イバノ族が利用する様々な林における小型哺乳類相(林床)。°中川弥智子, 中静透(総合地球環境学研), 箕口秀夫(新潟大), 高橋一秋(東大), 濱本恭子(愛媛大)

P2-097 ヤクタネゴヨウ自生地の群集構造と立地。°永松大(鳥取大), 小南陽亮(静岡大), 齊藤哲(森林総研), 佐藤保(森林総研)

P2-098 石垣島宮良湾と石西礁湖内シモビシにおけるサンゴ礁生物群集組成(サンゴ・海藻・魚)比較。°波野拓郎(西海水研), 大葉英雄(東京海洋大), 高田宜武(西海水研), 藤岡義三(JIRCAS), 下池和幸, 木村匡(自然研), 鈴木淳, 長尾正之(産総研), 鳥取海峰(岡山大), 岩瀬晃登(琉球大), 阿部寧, 橋本和正(西海水研)

P2-099 岩礁潮間帯生物群集における生産性・多様性関係の空間スケール依存性。°伊藤憲彦, 仲岡雅裕(千葉大), 野田隆史(北大), 山本智子(鹿児島大), 堀正和(東大)

P2-100 長期的な海洋環境変動と魚食性海鳥3種の食性。°綿貫豊(北大院)

P2-101 南アルプスにおけるチョウ類群集の季節変動。°中村寛志, 有本実(信州大)

P2-102 海藻・海草と小型甲殻類粉碎者(Shredder) - 食物網上の関係。°宇田川徹, 坂西芳彦, 伊藤博(北海道区水研)

P2-103 岩礁潮間帯における食物網構造の時空間変異。°山本智子(鹿児島大), 仲岡雅裕(千葉大), 野田隆史(北大), 堀正和(東京大)

P2-104 農地における栽培管理が大型土壌動物の群集構造に与える影響。°伊澤加恵(信州大), 藤田正雄(自然農法国際研究開発センター), 藤山静雄(信州大)

P2-105 北海道の平地湿性林に生育する優占種に見られるJanzen-Conell仮説に適合する更新。大坂哲也, °紺野康夫(帯畜大)

P2-106 屋久島スギ・照葉樹混交林の20年間の動態。°木村勝彦(福島大)

P2-107 樹木-寄主-寄生者系にみられる空間構造(1)。°村上正志, 松田道子, 平尾聡秀(北大), 久保拓弥(北大)

——(「群集生態」ポスター賞応募発表)——

P2-108c クロヒカゲの翅に残された鳥の嘴の痕の季節的増減。°井出純哉(京大院)

P2-109c 郊外に移転した大学キャンパスにおける生物群集(17)ヤマモリガ科ガ類の生態：特にバイオマスの季節的变化と被食。°城本啓子, 桜谷保之(近畿大)

P2-110c 岩手山麓蘆子谷地湿原の訪花昆虫相の特徴。°鈴木まほろ, 千葉武勝, 長谷川勉(岩手県立博物館)

P2-111c 複数種の動物プランクトンの存在下では植物プランクトンは共存できるか？。°西野晃子, 河田雅圭(東北大)

P2-112c 河川の物理・化学特性が水生生物の群集構造に与える影響。°三浦昌孝(北海道大院), 村上正志(北海道大), 久原直利(千歳市)

P2-113c コウモリ類の種ごとの環境利用～音声による種判別を用いて～。°福井大, 揚妻直樹(北大), D. A. Hill(Sussex Univ.)

P2-114c 郊外に移転した大学キャンパスにおける生物群集(18)チョウ類成虫の環境利用。°東條達哉, 武内幸, 桜谷保之(近畿大)

P2-115c キノコ食昆虫群集における資源分割 出現時期と餌の種類を資源軸として。°山下聡, 肘井直樹(名大院)

P2-116c 熱帯林におけるアリー植物、アリー同翅亜目類の栄養共生系に与える人為的攪乱の影響。°田中洋(名大院), 山根正気(鹿大理), 市岡孝朗(京大院)

P2-117c 海草藻場における一次消費者の種多様性が生態系機能に与える効果。°山田勝雅, 仲岡雅裕(千葉大)

P2-118c 群集行列を用いた岩礁潮間帯ベントス群集動態の解析。°辻野昌広, 仲岡雅裕(千葉大), 野田隆史(北大), 山本智子(鹿児島大), 堀正和(東大)

P2-119c 岩礁潮間帯グレイザー群集における種多様性の緯度勾配：マルチスケールパターンとその形成機構。°萩野友聡, 野田隆史(北大), 仲岡雅裕(千葉大), 山本智子(鹿児島大), 堀正和(東大)

P2-120c 岩礁潮間帯の固着生物群集構造の地理的変異：相対優占度パターンとその決定要因。°白賀誠之, 野田隆史(北大), 仲岡雅裕(千葉大), 山本智子(鹿児島大), 堀正和(東大)

P2-121c 岩礁潮間帯生物群集における種多様性 生態系機能関係の解析。°相澤章仁, 仲岡雅裕(千葉大), 野田隆史(北大), 山本智子(鹿児島大), 堀正和(東大)

P2-122c Species coexistence and assembly patterns of intertidal fishes in rocky tidepools。°新垣誠司, 渡慶次陸範(九大院)

P2-123c 外生菌根菌における host specificity について-オニグチ属菌の分子系統解析を用いて-。°佐藤博俊(京都大), 湯本貴和(総合地球環境学研)

P2-124c アリ植物 - アリ - カイガラムシ三者共生系の共進化 - 分子系統による解析。°上田昇平, 稲森啓太, 佐藤由美子, 市野隆雄(信州大), 市岡孝朗(京大院), 村瀬香(JT 生命誌), S. P. Quek (Harvard Univ.), P.J. Gullan (Univ. of California)

P2-125c 希釈平板法による土壌微生物相把握の意義。°橋隆一(東農大院), 福永健司(東農大), 仁王以智夫(東農大総研), 太田猛彦(東農大)

P2-126c 熱帯外洋域におけるプランクトン食物網の構造とその地域・時間変動。°市野川桃子(遠洋水産研)

P2-127c 溪流の落葉リター分解と底生動物種の多様性。°奥田青州, 加賀谷隆(東大)

P2-128c 樹木-寄主-寄生者系にみられる空間構造(2)。°平尾聡秀, 村上正志, 松田道子(北大)

ポスター 「植物群落」8月27日(金)

P2-129 ユビソヤナギ林の分布と群集構造。°鈴木和次郎, 菊地賢, 金指あや子(森林総研), 坂奈穂子(東大)

P2-130 伊豆大島における遷移系列からみた植生の多様性。°伊川耕太(東農大院), 中村幸人(東農大)

P2-131 異なる林冠動態下にあるパッチ間での樹木群集の構造と直径-樹高アロメトリー。°真鍋徹(北九州自歴博), 島谷健一郎(統数研), 河原崎里子(森林総研), 相川真一(茨城大), 山本進一(名古屋大)

P2-132 照葉樹林で樹木はどう死んでいるか - 龍良長期モニタリングデータより -。°河原崎里子(森林総研), 島谷健一郎(統数研), 真鍋徹(北九州自歴博), 山本進一(名古屋大)

- P2-133 東日本太平洋側におけるブナ及びブナ林の分布 - 八溝山地と阿武隈山地について - . °原正利 (千葉中央博), 平吹喜彦 (宮教大), 富田瑞樹 (横国大), 内山隆 (千葉経済大)
- P2-134 暖温带針広混交林におけるギャップ動態が生産量に及ぼす効果. °久保田康裕 (鹿児島大)
- P2-135 富士山亜高山帯針葉樹林における道路開設 30 年後の林分構造と動態. °長池卓男 (山梨県森林研), 新井伸昌, 高野瀬洋一郎 (新潟大), 阿部みどり (秋田県立大)
- P2-136 四国山地塩塚高原における半自然草地植生と植物相. °河野円樹, 石川慎吾, 三宅尚 (高知大)
- P2-137 部分的伐採を受けた針広混交林の回復過程. °吉田俊也 (北大), 野口麻穂子 (北大院)
- P2-138 立地条件の異なる場所に形成された二次遷移初期過程の植物群落. °飯島和子 (千葉県立衛生短大), 佐合隆一 (茨城大), 大賀宣彦 (前千葉大)
- P2-139 再造林放棄地における植生回復. °長島啓子 (広島大), 吉田茂二郎, 保坂武宣 (九大)
- P2-140 タイ南部の熱帯マングローブ林における潮汐傾度に沿った攪乱体制と更新パターンの変化. °今井伸夫 (東京農大), 中村幸人 (東京農大)
- P2-141 鳥取砂丘の安定化に伴う海浜植生の群落構造の変化. °笹木義雄, 森本幸裕 (京都大院)
- P2-142 尾瀬ヶ原湿原におけるシカ食害の発生傾向と回復. °谷本丈夫, 伊藤祥子, 水野梓 (宇都宮大)
- P2-143 栗駒山におけるオオシラビソ小林分の年齢構成. °若松伸彦, 菊池多賀夫 (横浜国大)
- P2-144 アカマツ林伐採跡地における地表処理と更新樹種の関係. °西畑敦子, 佐野淳之 (鳥取大)
- P2-145 横須賀市における帰化植物に関する植物社会学的解析. °鈴木伸一 (国際生態学センター)
- P2-146 達古武沼水草の群落構造. °渡辺雅子 (北大), 野坂拓馬 (北教大), 若菜勇, 辻ねむ (阿寒町教育), 高村典子, 中川恵 (国立環境研), 五十嵐聖貴 (国立環境研), 三上英敏, 石川靖, 上野洋一 (北海道環境科学研究センター), 角野康郎 (神戸大)
- P2-147 暖温带照葉樹二次林における主要構成種 5 種の株構造解析. °伊藤哲, 井藤宏香, 光田靖 (宮崎大)
- P2-148 アマゾン天然林における樹木の更新と下層の光環境. °飯田滋生 (森林総研), 九島宏道, 八木橋勉, 田内裕之, 中村松三 (森林総研), 斉藤哲 (森林総研), N. Higuchi (INPA)
- P2-149 本州中部鬼怒沼周辺の亜高山性針葉樹林の更新. °丹羽忠邦 (筑波大), 上條隆志 (筑波大), 小川みふゆ (森総研), 津山幾太郎, 高柳絵美子 (筑波大)
- P2-150 山地湿原の花分析からみたテフラ降下後の植生変遷. °米林仲 (立正大)
- P2-151 富山県宇波川上流部の植生. °山下寿之 (富山県中央植物園)
- P2-152 大型植物による環境形成作用が植物種共存機構に与える影響. °嶋村鉄也 (京大), 百瀬邦泰 (愛媛大)
- P2-153 北関東における広葉樹二次林の構造と動態. °西上愛 (森林総研), 石橋整司 (東大秩父演)
- P2-154 厚岸湖畔における塩湿地植物群落の分布の年変動. °神田房行 (北海道教育大), 内山博之 (厚岸町真龍小学校)
- P2-155 北海道大学構内 K39 遺跡から出土した炭化材の樹種構成. °渡辺陽子, 佐野雄三 (北大院)

- P2-156c 上高地の氾濫原における林床植物の立地と樹木実生の定着. °川西基博 (帝京大), 石川慎吾 (高知大), 大野啓一 (横国大)
- P2-157c 奥日光戦場ヶ原湿原における植物群落の変化とミズゴケ群落の位置づけ. °伊藤祥子, 谷本丈夫, 水野梓 (宇都宮大)
- P2-158c 北海道網走湖畔湿生林の 38 年間の動態. °藤村善安 (北大院), 富士田裕子 (北大フィールド科学セ)
- P2-159c 北見イチイ 22 林木遺伝資源保存林における実生更新について. °宮本尚子, 半田孝俊 (北海道育種場)
- P2-160c 芦生モンドリ谷天然林 16ha の林相. °岡田泰明, 呉初平 (京大院), 清水良訓 (京大), 安藤信 (京大)
- P2-161c 択伐施業下の針広混交林における林床植物種の分布パターン. °野口麻穂子 (北大院), 吉田俊也 (北大)
- P2-162c 富士山の火山荒原に生育する植物に対するアーバスキュラー菌根の役割. °賀川篤 (静岡大), 藤吉正明 (東海大), 増沢武弘 (静岡大), 中坪孝之 (広島大)
- P2-163c 里山地域における植物の種数, 面積, 群落多様性の関係 - 関東の丘陵地における事例 - . °根本真理, 星野義延 (東京農工大), 鈴木映理子 (自然環境研究センター)
- P2-164c Cubic Module Model を用いた森林構造シミュレーション. °長谷川成明 (北大), 城田徹央 (北大), 甲山隆司 (北大)
- P2-165c 特異的な植物群落ゴマギーハンノキ群集の分布状況と立地特性. °郡麻里 (プラトー研環境)
- P2-166c 森林における雑草の発生と人為的攪乱および土壌の性質との関係 芦生研習林を例として . °小西真衣, 伊藤操子 (京都大)
- P2-167c 沖縄島北部の石灰岩地におけるイタジイ林 - 主要種 4 種の下層における分布と立地との関係 - . °工藤孝美 (鹿児島大), 新里孝和, 榎木勉 (琉球大)
- P2-168c 鳥散布型植物の種子散布と定着に及ぼす林縁の効果. °佐藤佳奈子 (新潟大院), 紙谷智彦 (新潟大)
- P2-169c 富士山亜高山帯林の発達過程. °田中厚志, 斉藤良充, 山村靖夫 (茨城大), 中野隆志 (山梨県環境科学研)

ポスター 「動物植物相互作用」 8月28日(土)

- P3-001 シカとササは樹木実生にどのように影響するか? °伊東宏樹, 日野輝明, 高畑義啓, 古澤仁美 (森林総研), 上田明良 (森林総研)
- P3-002 シカとササが表層土壌の物理性と水分動態におよぼす影響. °古澤仁美 (森林総研関西), 荒木誠 (森林総研), 日野輝明, 伊東宏樹 (森林総研関西), 上田明良 (森林総研北海道), 高畑義啓 (森林総研関西)
- P3-003 三者系における「植物の会話仮説」の数理モデルを用いた理論的考察. °小林豊 (京都大)
- P3-004 ボクトウガ類の幼虫が樹液資源と樹液に集まる昆虫群集に及ぼす影響. °吉本治一郎, 西田隆義 (京大院)
- P3-005 花色変化の有効性: 人工花序を用いたポリネーション効率の検証. °工藤岳, 石井博, 平林結実, 井田崇 (北大)
- P3-006 サトイモ科 *Homaromena propinqua* にみる花香変動と送粉者の訪花行動への影響. °熊野有子, 山岡亮平 (京都工繊大)

- P3-007 送粉共生系を指標とした草原生態系の評価とモニタリング。°中野千賀, 鷺谷いづみ (東大)
- P3-008 冬に山から里へ降りるヒヨドリの事情。°山口恭弘 (中央農研)
- P3-009 ニホンジカの採食に対するイラクサの応答並びに刺毛形質の地域変異。°加藤禎孝 (奈良女子大), 石田清 (森林総研関西), 佐藤宏明 (奈良女子大)
- P3-010 照葉樹林において鳥による種子散布の鍵種となるヒサカキの結実・散布特性。°小南陽亮 (静岡大), 真鍋徹 (北九州自然歴史博)
- P3-011 滋賀県湖東地域における果実と鳥の関係: 平野と山地の比較を中心にして。°浜田知宏, 野間直彦, 近雅博 (滋賀県立大)
- P3-012 中型哺乳類の散布に依存するオオウラジロノキの種子発芽。°林田光祐, 音喜多陽子 (山形大)
- P3-013 落葉広葉樹林の展葉フェノロジーとイヌワシの繁殖との関係。°阿部聖哉, 竹内亨, 松木吏弓, 石井孝, 梨本真 (電中研)
- P3-014 住宅地域空地における開花植物と送粉昆虫の関係。°清水祐美, 浦山光太郎, 堀良通 (茨城大)
- P3-015 鳥散布種子を集める: 森林内での疑似果実の効果。°八木橋勉, 安田雅俊 (森林総研)
- P3-016 穿孔性 - 葉食性昆虫間の間接効果とその強度の違い。°内海俊介, 大串隆之 (京大生態研センター)
- P3-017 トビイロシワアリが巣に運びこむコニシキソウ種子は食糧ではない?。°大西義浩, 西森大樹, 鈴木信彦 (佐賀大), 片山昇, 寺西真 (京大)
- P3-018 熱帯季節林の林床における果食性動物の果実利用 - 果実形態との関係 -。°鈴木俊介, 近雅博, 野間直彦 (滋賀県大院), 湯本貴和 (地球研), 北村俊平, Pilai Poonswad (タイ), Chumphon Suckasam (タイ)
- P3-019 アカネズミのタンニン代謝においてタンナーゼ産生腸内細菌が果たす役割。°島田卓哉 (森林総研), 齊藤隆 (北大), 大澤朗, 佐々木英生 (神戸大)
- P3-020 カシワ・ミズナラ・種間雑種での潜葉性昆虫相と外食性被食率の比較。°石田孝英 (東大), 服部耕平 (北大), 木村正人 (北大)
- P3-021 移入種アオモジの分布域における種子散布。°中村彰宏 (大阪府大院)
- P3-022 ムネアブラムシ族の種分化。°遠坂康彦 (京大院)

—— (「動物植物相互作用」ポスター賞応募発表) ——

- P3-023c 極端な表現型の共進化: 平衡から軍拡競争への地理クライン。°東樹宏和, 曾田真滋
- P3-024c 堅果類の生産量の年次変動が金華山島のニホンザルの行動圏利用に及ぼす影響。°辻大和 (東京大), 高槻成紀 (東京大)
- P3-025c ギフチョウが利用しやすいコシノカンアオイの分布様式。°畑田彩 (森の学校キョロロ), 松本和馬 (森林総研)
- P3-026c 植物はアブラムシの甘露をコントロールできるか。David °Hembry, 大串隆之 (京大)
- P3-027c オオバギボウシの花粉媒介における密度依存性のプロセス - ポリネーターの行動に注目したアプローチ。°国武陽子, 宮下直, 樋口広芳 (東大)

- P3-028c ツキノワグマの樹上における採食に関する研究。°辻田香織, 高柳敦 (京大)
- P3-029c アミ-付着藻類-海草の間接効果。°長谷川夏樹 (北大院), 向井宏 (北大)
- P3-030c コナラ属稚樹の個葉特性に及ぼす食害と土壌養分の影響。°水町衣里, 秋山玲子 (京大), 徳地直子 (京大), 大澤直哉 (京大)
- P3-031c ツチカメムシによるカスミザクラ種子の吸汁とその後の腐敗プロセス。°中村仁, 林田光祐 (山形大), 窪野高徳 (森林総研東北)
- P3-032c 河畔樹木の窒素安定同位体比と水質からみた遡上サケによる栄養添加の検証。°長坂有, 長坂晶子 (北海道立林業試験場)
- P3-033c インドネシア産オオタニワタリに堆積するリター中の土壤動物群集動態。°平田真規, 甲山隆司, 東正剛 (北大地球環境科学), Erniwati (LIPI)
- P3-034c 特定の植物に依存する腐食性昆虫 - 腺毛に付着した昆虫を摂食するカスミカメムシ -。°杉浦真治 (京大院)
- P3-035c 地球温暖化が琵琶湖生態系に与えた影響: 過去100年の動植物プランクトンからの検証。°槻木玲美 (京大), 小田寛貴 (名古屋大), 占部城太郎 (東北大)
- P3-036c (canceled) —
- P3-037c 河川付着藻類マットにおよぼす, グレイジングインバクトの評価。°片野泉, 大石正 (奈良女大)
- P3-038c 高密度のヤクシカは照葉樹林の構造を変化させていないのか? - 屋久島西部地域10年間の推移 -。°日野貴文 (北大), 揚妻直樹 (北大)
- P3-039c カンアオイ属の送粉様式に関する基礎的研究。°藤田淳一, 藤山静雄 (信州大)
- P3-040c 開放花・閉鎖花を同時につけるホトケノザ種子の表面成分とアリによる種子散布行動。°寺西真 (京大), 藤原直, 白神万祐子, 北條賢, 山岡亮平 (京都工繊大), 鈴木信彦 (佐賀大), 湯本貴和 (地球研)
- P3-041c ツクバネウツギの結実率にクマバチの盗蜜は影響を及ぼすか?。°増井直緒, 香川暁子, 遠藤知二 (神戸女学院)

ポスター 「保全・管理」 8月28日(土)

- P3-042 小笠原における更新困難な固有樹種の植栽試験。°安部哲人 (森林総研)
- P3-043 Terra/ASTER 衛星データを用いた新疆タクラマカン砂漠野生アカシカの生息環境の評価。°布和教斯尔 (北海道環境科学研究センター), 金子正美 (酪農学園大)
- P3-044 移入カワマスと在来アメマスとの交雑現象。°北野聡 (長野環境保全研), 大館智氏 (北大低温研), 小泉逸郎 (北大北方森林)
- P3-045 北海道石狩平野に残存する高層湿原の保全に向けた水文環境特性に関する研究。°高田雅之, 宮木雅美 (北海道環境科学研究センター), 高橋英紀, 井上京 (北海道大)
- P3-046 砂礫質河原の生態系を脅かすシナダレスズメガヤと個体群導体モデルを活用した対策。°村中孝司, 鷺谷いづみ (東大)
- P3-047 ブナ天然更新施設試験地における更新成績と遺伝構造。°北村系子 (森林総研北海道), 島谷健一郎 (統数研), 杉田久志, 金指達郎 (森林総研東北)

- P3-048 カメルーン熱帯雨林における狩猟。°安岡宏和(京都大)
- P3-049 仲が良い鳥, 仲が悪い鳥。°福井晶子(日本野鳥の会), 安田雅俊(森林総研), 神山和夫(日本野鳥の会研究センター), 金井裕(日本野鳥の会研究センター)
- P3-050 カメラトラップ法の最小調査努力量をもとめる。°安田雅俊(森林総研)
- P3-051 スギ造林が森林の蛾類群集に及ぼす影響。°大河内勇(森林総研)
- P3-052 河川掘削によるタコノアシ群落の成立とその遺伝的多様性。°増田理子, 河田美香(名工大)
- P3-053 ケナフの他感作用に関する研究 - フジバカマの発生及び成長に与える影響。°岩崎寛(兵庫県立大), 服部保(兵庫県立大)
- P3-054 長野県中南部における絶滅危惧フクジュソウ属 2 種の繁殖生態及び RAPD 法による遺伝的解析。°山本正晃, 大窪久美子(信州大), 南峰夫, 小仁所邦彦(信州大院)
- P3-055 絶滅危惧種クロミサンザシの道央地方での生育状況と繁殖特性。°八坂通泰(北海道林試)
- P3-056 改修河川で見られたタンチョウの採餌環境における生物群集の構造 - 冬季の音別川・阿寒川水系を例にして。°斎藤和範(北海道立旭川高等看護学院), 古賀公也(阿寒町まちづくり推進課), 小林清勇(タンチョウ保護調査連合), 平田真規(北海道大)
- P3-057 吉野川流域における針葉樹人工林と広葉樹自然林の土壌孔隙率と最大容水量の比較。°金行悦子, 中根周歩(広島大)
- P3-058 シマアオジ激減! 草索性鳥類のモニタリングと鳥相変化。°玉田克巳, 富沢昌章, 梅木賢俊, 高田雅之
- P3-059 植物分布データに基づく絶滅確率を用いた最適な保護区設定方法の検討。°渡辺修, 渡辺展之, 丹羽真一(さっぽろ自然調査館), 高田雅之(北海道環境科学研究センター)
- P3-060 森林性動物を用いた二次林再生過程の評価方法の検討。°渡辺展之, 渡辺修(さっぽろ自然調査館), 堀繁久(北海道開拓記念館), 黒沢信道(トラストサルン釧路), 田畑克彦(環境省東北北海道地区自然保護事務所)
- P3-061 房総丘陵の絶滅危惧ヒメコマツ集団における極端な自殖。°佐瀬正, 朝川毅守, 綿野泰行(千葉大), 尾崎煙雄(千葉県立中央博), 谷尚樹(森林総研), 池田裕行, 鈴木祐樹(東京大)
- P3-062 希少種ベニバナヤマシャクヤクの個体群動態と盗掘による影響の予測。°丹羽真一, 渡辺修, 渡辺展之(さっぽろ自然調査館)
- P3-063 都市生態系の再生における屋上緑化の意義とその可能性。°中根周歩, 中坪孝之, 実岡寛文(広島大)
- P3-064 カラマツ人工林における広葉樹稚樹の分布と生育阻害要因の分析 - 釧路湿原周辺における自然林再生手法の検討 - 。°孫田敏(アークス), 渡辺修, 渡辺展之(さっぽろ自然調査館), 鈴木玲(雪印種苗), 田畑克彦(環境省東北北海道地区自然保護事務所)
- P3-065 タチスミレ群落における野焼きの効果。°小幡和男(ミュージアムパーク茨城県自然博物館)
- P3-066 兵庫県南部の孤立社寺林における林縁効果の季節変化。°岩崎純子(神戸大), 石井弘明(神戸大), 佐藤詩織(神戸大)
- P3-067 シカを捕るだけでは森はよみがえらない。°日野輝明, 古澤仁美, 伊東宏樹, 上田明良, 高畑義啓(森林総研関西), 伊藤雅道(横浜国大)
- P3-068 小笠原諸島媒島におけるタケ・ササ類の拡大。°丸岡英生, 市河三英, 滝口正明, 鋤柄直純, 常田邦彦, 大島康行(自然環境研究センター)
- P3-069 生息確認地点だけによったメダカ生息適地推定 - 茨城県南部 1960-70 年代の例。°高村健二(国立環境研)
- P3-070 ハケ岳南東麓に設置された治山堰堤周囲の植物群落について。°平塚雄三, 大野啓一(横浜国大)
- P3-071 北海道芭露川河口におけるアッケシソウ生育地の環境調査と保全手法の検討。°内山秀樹, 内藤隆悟, 中村裕(ドーコン), 八幡和則(北海道網走土木現業所), 菊池俊一(北大院)
- P3-072 絶滅危惧植物タコノアシの発芽と実生生長に及ぼす水田除草剤の影響。°池田浩明, 羅小勇(農業環境技術研)
- P3-073 人為影響下の湿原におけるトンボ成虫長期モニタリングとその評価 - 釧路湿原, 温根内地区を事例に - 。°生方秀紀, 迫田哲生(北教大釧路校)
- P3-074 成虫による湖沼トンボ群集のモニタリングはどこまで使えるか 釧路湿原達古武沼を事例に 。°倉内洋平, 生方秀紀(北教大釧路校)
- P3-075 淡水緑藻マリモの日本国内における生育現況と絶滅危惧評価。°若菜勇(阿寒湖畔 EMC), 佐野修(いしかわ動物園), 新井章吾(海藻研), 羽生田岳昭(神戸大), 副島颯子(大阪府大), 植田邦彦(金沢大), 横浜康継(志津川自然環境活用セ)
- P3-076 北海道野幌森林公園における外来アライグマと在来エゾタヌキの関係(1) - 空間利用からみた種間関係 - 。°池田透, 阿部豪, 立澤史郎(北大)
- P3-077 湿原再生事業地における適地抽出の試み。°白川勝信(高原の自然館), 森春彦(東和科学)
- P3-078 絶滅危惧植物キヨシソウの生態に関する調査結果。°渡辺温(地域環境計画)
- P3-079 北海道野幌森林公園における外来アライグマと在来エゾタヌキの関係(2) - エゾタヌキの生息数推定とアライグマ対策への提言。°阿部豪, 池田透, 立澤史郎(北大), 浅川満彦, 的場洋平(酪農大)
- P3-080 3 次メッシュ(1km メッシュ)を用いた小地域のフロア調査。°松田義徳(秋県大)
- P3-081 Endangered Plant Species in Philippine satoyama Landscape. Inocencio E. °Buot, Jr. (Univ. the Philippines Los Banos)
- P3-082 印旛沼水系における外来植物ナガエツルノゲイトウ *Alternanthera philoxeroides* Mart. (Griseb.) の分布と生育地特性に関する研究。°杉山昇司(明治大院), 倉本宣(明治大)
- P3-083 コウノトリの採餌環境としての豊岡盆地の評価。°内藤和明, 大迫義人, 池田啓(兵庫県立大)
- P3-084 マイクロサテライトをもちいたユビソヤナギ(*Salix hukaoana*) の空間的遺伝構造の解析。°菊地賢, 鈴木和次郎, 金指あや子, 吉丸博志(森林総研), 坂奈穂子(東大)
- P3-085 ヌートリアの分布拡大過程の分析。°鈴木牧(兵庫県立大), 坂田宏志(兵庫県立大), 三橋弘宗(人と自然の博物館), 横山真弓(人と自然の博物館), 岸本真弓(野生動物保護管理事務所)
- P3-086 多摩川におけるカワラバタの保全に関する研究。°野村康弘, 倉本宣(明治大)
- P3-087 野生鳥類の大量死リスク評価につながる病原体データベースの基本コンセプトについて。°長雄一, 高田雅之(北海道環境科学研究センター), 金子正美
- P3-088 山梨県長坂町におけるオオムラサキの分布・密度とその規定要因。°小林隆人, 北原正彦(山梨環境研)
- P3-089 水生植物の生育地としてのため池の分布。°渡邊園子(東京情報大), 井鷲裕司(広島大), 下田路子(東和科学), 亀山慶晃(北大), 亀山順子(札幌市)

- P3-090 関東地方南部におけるモツゴの遺伝情報と保全。
°齊藤悠, 倉本宣 (明治大)
- P3-091 小規模な農業用ため池に見られるレッドリスト沈水性植物の生育環境。°嶺田拓也, 石田憲治, 飯嶋孝史 (農工研)
- P3-092 放射性同位体ならびに水文観測に基づく釧路湿原達古武湖の土砂堆積履歴の推定。°安榮相, 水垣滋, 中村太士 (北海道大院)
- P3-093 エゾシカの分布拡大要因: 地球温暖化と個体群圧。
°鈴木透 (EnVision), 梶光一 (北海道環境科学研究センター)
- P3-094 水田におけるメダカ取水口利用の時間的变化。
°樋口広大, 倉本宣 (明大)
- P3-095 土地利用に着目したニホンザル生息域変動の定量的評価手法とその検証。°岩崎巨典 (農環研), デイビッド, スブレイグ (農環研)
- P3-096 多摩川永田地区における河道修復後の植生変化。
°畠瀬頼子 (自然環境研究センター), 長岡総子 (横浜植生研究会), 一澤 (山田), 麻子
- P3-097 ヨシ原の管理手法に対する鳥類群集の反応 (仮題)。
°永田尚志 (国環研)
- P3-098 カタクリの潜在生育地の推定 - 地域の生態系保全への GIS の活用 - 。°増澤直 (NPO 地域自然情報ネットワーク), 小泉武栄, 逸見一郎, 井本郁子, 吉田直隆, 松林健一, 辻村千尋, 北川淑子 (NPO 法人地域自然情報ネットワーク), 三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館)
- P3-099 絶滅危惧植物アキノハハコグサの保全。°米村惣太郎, 渡辺泰一郎 (清水建設)
- P3-100 周辺環境の食物利用可能性がニホンザルの環境選択に与える影響。°山田彩, 田中俊明, 室山泰之 (京大)
- P3-101 京阪奈丘陵の里山植生が受けた人為による改変の履歴。°佐久間大輔 (大阪自然史博)
- P3-102 小笠原諸島における外来樹種アカギの管理と森林植生の変化。°山下直子, 阿部真 (森林総研北海道), 伊藤武治, 田内裕之, 田中信行 (森林総研)
- P3-103 北海道におけるタンチョウの繁殖成功要因: 湿原環境と農耕地環境での繁殖成績と特徴。°大石麻美, 関島恒夫 (新潟大), 正富宏之 (タンチョウ保護調査連合)
- P3-104 導流堤における自生種を用いた植生復元に関する研究-植生復元の概要-。°藤山静雄, 菅野康祐 (信州大), 清水建美 (信州大)
- P3-105 北海道西別川におけるバイカモ個体群の生育と河床土砂動態。°菊池俊一, 山内香澄 (北大院)
- P3-106 カラマツ林伐採地への堅果分散に果たす野ネズミの役割。°高橋一秋, 鷲谷いづみ (東京大院)
- (「保全・管理」ポスター賞応募発表) ——
- P3-107c ヒヌマイトトンボ保全のために創成したヨシ群落の動態と侵入した蜻蛉目昆虫。°松浦聡子, 渡辺守 (筑波大)
- P3-108c 北海道日高地方におけるセイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* L. および在来マルハナバチ類各種の資源利用と活動季節パターン。°中島真紀 (東京大), 松村千鶴 (東京大), 横山潤 (東北大), 鷲谷いづみ (東京大)
- P3-109c 小笠原諸島陸産貝類への脅威, ニューギニアヤリガタリクウズムシは貝類以外に何を食べているか?。°大林隆司 (東京都病害虫防除所), 小野 剛 (東京都小笠原亜熱帯農業センター)
- P3-110c 航空機を用いたアザラシ類の生息数推定法の検討。°水野文子, 服部薫, 大泰司紀之 (北大), 和田昭彦 (道立稚内水試)
- P3-111c 琵琶湖周辺の水田利用魚類の現状。°金尾滋史 (滋賀県立大), 前畑政善 (琵琶湖博物館), 沢田裕一 (滋賀県立大)
- P3-112c トンボ池型ビオトープに導入された外来種 (アメリカザリガニ、金魚) の影響と環境教育。°後藤章, 鷲谷いづみ (東京大)
- P3-113c 襟裳岬海岸造林地のクロマツとカシワに定着する外生菌根菌の比較。°成瀬朝美, 橋本靖 (帯畜大)
- P3-114c 北海道日高地方で発見されたセイヨウオオマルハナバチ (*Bombus terrestris* L.) の自然巣における高い増殖能力。°松村千鶴, 中島真紀 (東京大), 横山潤 (東北大), 鷲谷いづみ (東京大)
- P3-115c 植物群落の地理的分布に基づいた保護地域の配置。°亀井幹夫, 中越信和 (広島大院)
- P3-116c サクラソウ属 *Cortusoides* 節 3 種における比較保全生態・遺伝学の試み。°大谷雅人 (東大院), 上野真義 (森林総研), 寺内浩 (桐生市), 西廣淳 (東大院), 津村義彦 (森林総研), 鷲谷いづみ (東大院)
- P3-117c 森林断片化による *Shorea leprosula* の遺伝的多様性に与える影響。°福江陽子 (筑波大), Lee S.L., K.K.S.NG, Norwati M (マレーシア森林研), 津村義彦 (森林総研)
- P3-118c 河川の区間スケール特性による底生魚類の生息場所選択性の違い。°石田裕子 (京大院), 竹門康弘 (京大防災研), 池淵周一 (京大防災研)
- P3-119c 福井県重要里地里山選定調査事業について ~ 行政における里地里山調査の取り組み ~。°平山亜希子, °水谷瑞希, 多田雅充 (福井県自然保護センター), 西垣正男 (福井県自然センター), 松村俊幸 (福井県福祉環境部自然保護課)
- P3-120c トンボ成虫の種多様性のパターンを決める種ごとの環境嗜好性。°角谷拓, 須田真一, 鷲谷いづみ (東大)
- P3-121c 小笠原における遷移中期の在来樹種の発芽・定着に対する外来樹種ギンネムの影響。°畑憲治, 可知直毅 (都立大院)
- P3-122c 外来樹木トウネズミモチの河川への侵入。°橋本佳延 (兵庫県), 服部保, 石田弘明 (兵庫県), 赤松弘治, 田村和也 (里と水辺研)
- P3-123c 林冠と林床の攪乱が稚樹の定着と種組成に与える影響。°神保剛, 佐野淳之 (鳥取大)
- P3-124c 河川敷植生にみる保全生態学的研究。°鈴木卓磨 (静岡大)
- P3-125c ニホンジカの食性に及ぼす環境要因-兵庫県の場合-。°横山真弓 (人と自然の博物館), 鈴木牧 (兵庫県立大), 後藤成子 (関西野生動物問題研究会), 坂田宏志 (兵庫県立大)
- P3-126c 千葉県市川市周辺における自然環境保全に関するプロジェクトやNGOの動向。°山崎健介
- P3-127c 貯水ダム下流域における底生動物群集の流程変化様式。°波多野圭亮 (京都大院), 竹門康弘, 池淵周一 (京都大)
- P3-128c 人工衛星を用いたモウコガザルの移動経路の解明と生息地評価。°伊藤健彦 (鳥取大), 三浦直子 (パスコ), B. Lhagvasuren, D. Enkhbileg (モンゴル科学アカデミー), 恒川篤史 (東大), 高槻成紀 (東大), 姜兆文 (山梨県環境科学研)
- P3-129c 護岸工事が河内生物に与えた影響-水生昆虫類を指標とした評価-。°木村悟朗 (信州大), 福永八千代 (信州大), 武田昌昭 (信州大), 平林公男 (信州大)
- P3-130c 都道府県別レッドリスト情報から見た日本産食虫目およびネズミ科動物の保護の現状。°横畑泰志 (富山大)

P3-131c 導流堤における自生種を用いた植生復元に関する研究 - 当年実生の生存とその形態的特徴. °菅野康祐, 藤山静雄 (信州大), 清水建美 (信州大)

P3-132c 水生植物帯が持つ Refugia としての機能: 貧酸素環境からの予測. °山中裕樹 (京大), 神松幸弘 (総合地球環境学研), 遊磨正秀 (京大)

P3-133c 礫下間隙を使った河床の評価 - 流路蛇行による下流部河床の中流化 -. °小野田幸生 (京大), 丸山敦 (龍谷大), 神松幸弘 (総合地球環境学研), 遊磨正秀 (京大)

P3-134c 流域特性に基づく塩生湿地植物の分布域推定. °小倉洋平, 山田悟史 (徳島大), 三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館), 鎌田鷹人 (徳島大)

P3-135c カラマツ剥皮被害を起こすのは誰か. °船越美穂 (京大)

P3-136c 中山間地域の猿害問題における電気柵事業の成果と課題. °鈴木克哉 (北海道大)

ポスター「その他」8月28日(土)

P3-137 釧路湿原におけるレジャー活動および環境再生が水鳥に与える影響について. °浦巧 (北海道中標津高等学校)

P3-138 オオジシギの秋の渡りにおけるシーズン内個体数変動と体サイズの変化. °浦達也, 東正剛 (北大), 葉山政治 (日本野鳥の会)

P3-139 長枝と短枝の組み合わせは効率のよい受光体制をつくるか?. °竹中明夫 (国立環境研)

P3-140 丹波山地八丁平における過去1万年間の植生変遷と火の影響. °佐々木尚子 (京大院), 高原光 (京都府大院)

P3-141 倒木上に成立したヒノキ実生の菌根形成状況: 菌根菌は木に登るか?. °溝口岳男, 壁谷大介 (森林総研木曾)

P3-142 人と動物の出会い頻度は互いの動きにどう影響されるか? - 古典的問題の解明とライントランセクト調査法への示唆. °平川浩文 (森林総研)

P3-143 べき乗変換・対数変換と重回帰・分散分析. °粕谷英一 (九州大)

P3-144 河川域に生育するニレ科樹木の比較生態学的研究. °比嘉基紀 (高知大院), 石川慎吾, 三宅尚 (高知大)

P3-145 フィリピンにおけるマングローブの滞水時間と塩分濃度に応じた分布について. °豊田貴樹 (東京農工大), 宮崎宣光 (海外林業コンサルタンツ協会), 加藤和久 (海外林業コンサルタンツ協会), 遠宮広喜 (日本林業技術協会), Pedro Orig Balagas (DENR)

P3-146 高密度航空レーザースカナによる森林の野生生物生息地環境の計測. °今西純一 (京大), 橋本啓史, 萩原篤 (京大), 森本幸裕 (京大), 北田勝紀 (中日本航空)

P3-147 代謝カッピングによる細胞内共生の進化モデル: 寄生か相利共生か? °福井真, 嶋田正和 (東大)

P3-148 消雪時期が異なるキタダケソウの生育場所について. °名取俊樹 (国立環境研生物)

P3-149 都市草本植物相における大陸 - 島モデルの適用可能性. °牧野亜友美 (京大), 村上健太郎 (きしわだ自然資料館), 今西純一, 森本幸裕 (京大)

P3-150 熱帯雨林の生態的機能を考慮した開発事業の経済評価: エコロジカルサービス GIS の概要. 千葉将敏, °田頭直樹 (建設技術研), 奥田敏統, 沼田真也, 吉田, 圭一郎 (国立環境研), 西村千 (科学技術振興機構)

P3-151 ネパール、カトマンズ南部における中期更新世頃の植生史. °大井信夫 (ONP 研), 酒井哲弥 (島根大), 田端英雄 (岐阜県立森林文化アカデミー)

P3-152 ステージ構造をもつ競争モデルにおける競争種の共存. °舞木昭彦, 西村欣也 (北海道大院)

P3-153 適応的フレームワーク(ダイナスキーム)によるモデルの表現と解釈. °大場真, 平野高司 (北大院), 高橋英紀 (北大院)

P3-154 安定同位体によるヒグマの食性解析. °成田亮, 高柳敦 (京都大), 間野勉 (北海道環境科学研究センター)

P3-155 森林域と非森林域における表層堆積物中の花粉スベクトル. °守田益宗 (岡山理大)

P3-156 温暖化が及ぼすカジカ大卵型個体群の増大と崩壊のプロセス. °東信行, 五十嵐勇氣 (弘前大)

P3-157 広島市デルタ地区の街区公園の植生構造. °河野万里子, 長島啓子, 中越信和 (広島大)

P3-158 有限サイズが群集の示すパワー則に与える影響について. °佐藤一憲 (静岡大)

P3-159 環境省全国水生生物調査のインターネット調査登録システムについて. °宮下衛 (国立環境研)

P3-160 マウス内在性A型レトロウイルスの配列は動物界に散在する. °岡田あゆみ, 岩村幸雄 (茨城県立医療大)

P3-161 植物 - 土壌系から見た里山林の再生. °小林達明, 松浦光明, 東季美子, 高橋輝昌 (千葉大)

P3-162 早池峰山小田越周辺における約5000年間の植生変遷. °池田重人 (森林総研)

P3-163 コマルハナバチ採餌ワーカーと食物資源の空間分布および採餌効率調査. °川口利奈, Munidasa Dulee (筑波大), 星野弥弥 (筑波大), 小久保望 (筑波大), 鈴木ゆかり (筑波大), 徳永幸彦 (筑波大)

—— (「その他」ポスター賞応募発表) ——

P3-164c 地理的プロファイリングを用いたマルハナバチのコロニー位置推定法. °鈴木ゆかり, 川口利奈, 徳永幸彦 (筑波大)

P3-165c オルガネラ DNA 変異に基づいたイヌブナ (*Fagus japonica*) の系統地理学的構造. °山中香, 戸丸信弘 (名大院)

P3-166c 八甲田山のブナ帯から亜高山帯における湿原および林内表層堆積物の花粉組成と周辺植生の関係. °中村琢磨, 高原光 (京都府立大)

P3-167c NOAA データによる熱帯乾燥季節林の落葉フェノロジーの推定. °伊藤江利子 (森林総研), 神崎護 (京大院), Khorn Saret, Det Seila, Pith Phearak, Lim Sopheap, Pol Sopheavuth (カンボジア森林野生生物研)

P3-168c 紅葉時期の地上高分解能リモートセンシング画像による林冠樹種多様度の推定. °橋本啓史 (京大院), 田端敬三 (大阪府大院), 今西純一, 森本幸裕 (京大院)

P3-169c 微化石からみた北大雨龍研究林泥川湿原におけるアカエゾマツ林の成立過程. °河野樹一郎, 野村敏江, 高原光 (京都府大院), 佐々木尚子 (京大院), 柴田英昭, 植村滋 (北海道大), 北川浩之 (名古屋大院), 吉岡崇仁 (総合地球環境学研)

P3-170c 空間解析を用いたコバノミツバツツジの樹形の定量的評価. °吉村謙一, 石井弘明, 相村英範 (神戸大)

P3-171c 完新世海進期における北海道東部厚岸周辺の塩性湿地植物群落の分布変遷. °那須浩郎 (国際日本文化研究センター), 澤井祐紀 (産総研)

- P3-172c 捕食リスクに応じた誘導防御形態の発現. °水田勇氣, 西村欣也 (北大)
- P3-173c 落水後の水田に形成される小水域に生息する水生昆虫. °西城洋 (大阪市立自然史博物館)
- P3-174c 和歌山県田辺市におけるヒドロキシラジカル発生水の長期暴露が梅木の光合成能及び成長に及ぼす影響. °尹朝熙 (広大), 田上公一郎 (広大), 玉井浩司 (広大), 中根周歩 (広大)
- P3-175c 青森県における河川魚類の 20 年間の変遷とその要因について. °佐藤孝司, 佐原雄二, 東信行 (弘前大)
- P3-176c 移入鳥類ソウシチョウ集団の遺伝的構造. °天野一葉 (WWF ジャパン自然保護室), 江口和洋 (九大院), 角友之 (森林総研), 雷富民 (中国科学院), 館田英典 (九大院)
- P3-177c SEM を用いた花粉分析からみる後氷期における落葉広葉樹林の組成 - コナラ亜属花粉の SEM による識別と化石花粉への適用 -. °牧野真人 (北海道立林産試験場), 高原光 (京都府大院)
- P3-178c SEM を用いた花粉分析からみる後氷期における落葉広葉樹林の組成 - 琵琶湖東岸部における後氷期初期の火事とカシワの出現 -. °林竜馬 (京都府大院), 牧野真人 (北海道立林産試験場), 井上淳 (大阪市大院), 高原光 (京都府大院)
- P3-179c The performance of GPS-3300 considering application in the habitat of northern Mt. Fuji, central Japan. Zhaowen °Jiang¹, Mikio Sugita¹, Ai Fujisono¹, Masahiko Kitahara¹, Takehiro Gotou¹ and Seiki Takatsuki², (The University of Tokyo)
- P3-180c キスゲとハマカンゾウにおける受粉後生殖隔離の非対称性. °安元暁子, 矢原徹一 (九州大)
- P3-181c ハビタットの違いによるピロヒガイの頭部形態変異について. °小宮竹史, 堀道雄 (京都大)

口頭発表 8月26日(木)

U会場

物質生産・物質循環

V会場

植物群落

W会場

動物植物相互作用

- [09:30] O1-U01 未来の陸域生態系を予測する ~ 次世代の動的全球植生モデルの構築 ~. °佐藤永, 伊藤昭彦 (地球フロンティア), 甲山隆司 (北大)
- [09:45] O1-U02 チュウシャクシギ *Numenius phaeopus* の摂食活動が干潟生態系の物質循環系に果たす役割. °松原圭 (琉球大), 土屋誠 (琉球大)
- [10:00] O1-U03 溪流に夏季に流入する生葉及び陸生昆虫の糞が藻類を介してタキヨコエビの成長に与える影響. °河内香織 (北海道工業大), 加賀谷隆 (東大)
- [10:15] O1-U04 極域ツンドラ生態系における土壌溶存態有機物と窒素循環との関係. °保原達 (国環研), 阿江教治 (神戸大), 木庭啓介 (東工大), Gaius R. Shaver (USA)
- [10:30] O1-U05 Effects of polyphenols on the loss of nitrogen as protein from tropical forest ecosystems. Luiza °Majuakim & Kanehiro Kitayama (Kyoto University)
- [10:45] O1-U06 ボルネオ島熱帯森林生態系に栄養塩循環のフィードバックは起こるのか. °黒川紘子 (京大), 永益英敏 (京大), 中静透 (地球研)
- [11:00] O1-U07 ボルネオ島キナバル山の標高と土壌の違う立地の地下部菌類バイオマス. °里村多香美, 北山兼弘 (京大)
- [11:15] O1-U08 滅菌したミズキ落葉の分解にともなう菌類遷移と物質動態. °大園享司 (京大)
- [11:30] O1-U09 成熟した照葉樹林の粗大有機物 (CWD) の現存量. °佐藤保 (森林総研)
- [11:45] O1-U10 異なる遷移段階における土壌炭素含有率の比較. °石川真知子 (筑波大)
- [12:00] O1-U11 アジア北部における広域蒸発散の経年変化に現れた植生変化のシグナル. °鈴木力英, 増田耕一 (地球フロンティア)
- [12:15]
- O1-V01 春植物群落の種組成的類型化について. °村上雄秀, 林寿則, 矢ヶ崎朋樹 (国際生態学センター)
- O1-V02 冷温帯生広葉草本種が示す生育立地の地理的差異に関わる環境要因. °蛭間啓, 福島司 (東京農工大)
- O1-V03 (canceled) —
- O1-V04 土地利用の履歴と空間構造が半自然草地の種多様性に及ぼす影響. °北澤哲弥, 大澤雅彦 (東大)
- O1-V05 小堤西池におけるカキツバタ群落の20年間の動態. °中西正 (豊橋高校), 浜島繁隆 (ため池研究会)
- O1-V06 環境の違いによる抽水植物 *Eleocharis sphacelata* の特性の違いについて. °浅枝隆, Lalith Pajapakse, Jagath Manatunge, 藤野毅
- O1-V07 河川砂州上のツルヨシ群落の形成過程に関する考察. °藤野毅, 浅枝隆, 緒方直博
- O1-V08 北海道内の湿原における, ミズゴケの成長量とハンモックの形状の地域差. °矢崎友嗣 (北大院), 矢部和夫 (札幌市立高専), 植村滋 (北大北方生物圏フィールド科学センター)
- O1-V09 厚岸湖畔におけるアッケシソウ (*Salicornia europaea* L.) の分布に及ぼす影響. °山本昭範 (筑波大), 神田房行 (北海道教育大)
- O1-V10 温帯性海草の種ごとの分布上限は乾燥耐性が決めているか?. °田中義幸 (東大), 向井宏 (北大), 仲岡雅裕 (千葉大), 小池勲夫 (東大)
- O1-W01 西表島でのオヒルギ *Bruguiera gymnorhiza* の送粉生態 ~ 送粉者としてのメジロ *Zosterops japonica* の役割 ~. °齊当史恵 (ドリスジャパン), 上田恵介 (立教大)
- O1-W02 ヤブツバキの花粉媒介におけるメジロの役割 (1) メジロの個体群密度はヤブツバキの開花数に依存しているか?. °長谷川雅美 (東邦大), 国武陽子 (東大), 阿部晴恵 (東邦大), 樋口広芳 (東大)
- O1-W03 ヤブツバキの花粉媒介におけるメジロの役割 (2) ヤブツバキの繁殖成功を花粉の遺伝的多様性から評価する. °阿部晴恵 (東邦大), 上野真義 (森林総研), 国武陽子 (東大), 長谷川雅美 (東邦大)
- O1-W04 ボルネオの湿地林・山地林を往き来するオオミツバチ. °鮫島弘光 (京大生態研), 永光輝義 (森林総研北海道), 中静透 (地球研)
- O1-W05 花序形態と花序内の蜜分布がマルハナバチの訪花行動に与える影響. °平林結実, 石井博, 工藤岳 (北海道大)
- O1-W06 盗蜜型ポリネーターがエゾエンゴサクの繁殖成功に及ぼす影響. °笠木哲也, 工藤岳 (北大)
- O1-W07 サトイモ科植物とタロイモショウジョウバエにおける送粉共生系の進化. °竹中宏平, 戸田正憲 (北大)
- O1-W08 形態的にスズメガに適応したサギソウ (ラン科) におけるアザミウマの送粉. °茂田幸嗣 (広島県庁), 中越信和 (広大), 井鷲裕司 (広大)
- O1-W09 アブラナ科野菜 F1 採種系を用いた実験生態学 - 開花フェノロジーと訪花頻度が異系統間交配に及ぼす影響の評価. 石塚大悟 (新潟大), 堀崎敦史, 新倉聡 (トホク), °小沼明弘 (農環研)
- O1-W10 鳥類による種子散布が林の維持及び更新に与える影響. °中本雪絵 (帯畜大), 佐藤雅俊 (帯畜大)
- O1-W11 溶岩上におけるミズナラ実生の分布に野ネズミが与える影響. °三浦優子 (千葉大)
- O1-W12 エゾシカの採食圧が森林植生に及ぼす影響 ~ 阿寒国立公園における1995年~2001年の調査から ~. °宇野裕之, 宮木雅美, 梶光一, 玉田克己 (道環境研), 高嶋八千代 (道教育大), 富沢日出夫 (浜中町), 鬼丸和幸 (美幌博物館)

X 会場

Y 会場

Z 会場

保全・管理

個体群生態

生理生態

- | | | | |
|---------|--|---|--|
| [09:30] | O1-X01 生態学的レジリエンスに基づく環境管理。°雨宮隆, 榎本隆寿, アクセル G. ロスベアグ, 伊藤公紀 (横国大) | O1-Y01 駿河湾のエダミドリイシ群集におけるウニ類 3 種の生態分布。°舟越善隆 (東海アクアノーツ), 上野信平 (東海大) | O1-Z01 葉の平均労働時間。°菊沢喜八郎 (京大) |
| [09:45] | O1-X02 遺伝子組換え植物の生態系への影響: きちんと分けて考えよう。°白井洋一 (農環研) | O1-Y02 淡水産小型枝角類が異なる 2 種の捕食者に対して見せる形態的応答とその生態学的意義。°坂本正樹, 張光玄, 花里孝幸 (信州大) | O1-Z02 開葉パターンが異なるブナとケヤマハンノキにおける光合成能力の温度応答性。°韓慶民, 千葉幸弘 (森林総研) |
| [10:00] | O1-X03 保全における最適調査努力の数理的研究: 確率的ダイナミックプログラミングによって保全期間長の影響を知る。°横溝裕行 (九州大), Patsy Haccou (Leiden Univ.), 巖佐庸 (九州大) | O1-Y03 釧路湿原に分布するキタサンショウウオの月別活動性。°佐藤孝則 (天理大), 中林成広 (北海道両爬研) | O1-Z03 ミツバアケビ (<i>Akebia trifoliata</i>) のヘテロプロトシス (常緑-落葉種内変化) と光環境・葉の光合成生産との関係。°小山耕平 |
| [10:15] | O1-X04 河川における外来ザリガニの分布予測モデル: 物理化学的要因と流量変動の影響。°西川潮 (国立環境研), Sebastien Brosse (Universite Paul Sebatier) | O1-Y04 希少タカ類ハチクマの春秋の渡りと環境利用。°樋口広芳 (東大), 中村浩志 (信州大), 植松晃岳, 久野公啓, 佐伯元子 (信州ワシタカ研), 堀田昌伸 (長野県環境保全研), 時田賢一 (我孫子市鳥博), 田村正行 (京大) | O1-Z04 光前歴が落葉広葉樹個葉の解剖学的構造と光 - 光合成特性に与える影響。°田中格 (山梨県森林総研) |
| [10:30] | O1-X05 流域の森林状況と河川流出過程との関係 ~ タンクモデルによる解析 ~。°中根伸昌, 中根周歩 (広島大院) | O1-Y05 高知県物部川における標識放流ウナギの個体群過程。°立川賢一 (東大海洋研), 中島敏男 (高知水産), 松田裕之 (横国大) | O1-Z05 外来植物ハナダイコン (シヨクサイ) の分布・生長・種子生産と光環境の関係。°石川真一, 中嶋淳, 今枝美香 (群馬大) |
| [10:45] | O1-X06 洪水流と三番瀬の環境との関わりに関する調査について。°宮武晃司 (国交省), 池田正 (リバーフロント整備センター), 牧野一正 (建設技術研) | O1-Y06 ギンザケ個体群にみられる雄生活史二型の動態。°小関右介 (北大), Ian A. Fleming (オレゴン州立大) | O1-Z06 光条件の異なる環境に生育する <i>Macaranga</i> 属 6 種の光合成特性。°香山雅純 (森林総研北海道), 市栄智明 (シンガポール植物園), 市岡孝朗 (名大), 小池孝良 (北大) |
| [11:00] | O1-X07 登山道の荒廃と高山植物群落との関係についての定量的評価。°清水孝彰 (NPO 法人白山の自然を考える会) | O1-Y07 魚類の左右二型に与える遺伝的浮動の影響についての数理的研究。°中嶋美冬 (東大), 松田裕之 (横国大), 堀道雄 (京大) | O1-Z07 異なる光環境下におけるアマドコ口 (<i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>) の葉群構造の比較。°齋藤雄久 (筑波大) |
| [11:15] | O1-X08 道東の半自然草原保全に有効な手段 - 4 年間にわたる禁牧・刈払い・施肥試験の結果から見えたもの -。°小路敦 (九州沖縄農業研究センター) | O1-Y08 量的形質の進化に関する個体群ベースモデルの解析。°山田聡美, 高須夫悟, 重定南奈子 (奈良女子大) | O1-Z08 富士山剣丸尾溶岩上のアカマツ林亜高木層での常緑広葉樹優占の生態学的意義。°山村靖夫, 柴田麻友子 (茨城大), 中野隆志 (山梨県環境研) |
| [11:30] | O1-X09 モンゴル草原の遊牧の持続性と生態系管理。°藤田昇 (京都大), N. Amartuvshin (モンゴル科学アカデミー植物学研) | O1-Y09 侵入生物の時・空間パターンに関する確率論的研究。°木村美紀 (奈良女子大), 川崎廣吉 (同志社大), 高須夫悟 (奈良女子大), 重定南奈子 (奈良女子大) | O1-Z09 富士山火山荒原の一次遷移過程においてミヤマヤナギ実生の定着に及ぼす外生菌根菌の影響: フィールド接種実験によって解明された養分吸収機能の菌種特性。°奈良一秀 (東京大) |
| [11:45] | | O1-Y10 ジェネラリストは変動環境下で絶滅しにくいのか?。°吉田勝彦 (国環研) | O1-Z10 高 CO ₂ 濃度で生育したイネの光合成速度の温度依存性の季節変化。°アラマス, 彦坂幸毅, 広瀬忠樹 (東北大), 長谷川利弘 (農環研), 岡田益己 (東北農研), 小林和彦 (東大) |
| [12:00] | | O1-Y11 食物網の構造の理解に向けて。Axel G. °Rossberg, 雨宮隆, 伊藤公紀 (横国大) | O1-Z11 Stomatal indices of various vine species in Japan and Malaysia. °Tay Ai Chen (奈良女), 古川昭雄 (奈良女) |
| [12:15] | | O1-Y12 Modelling the effect of Wolbachia on genetic divergence and speciation in their insect hosts. Arndt °Telschow (Kyoto Univ.), Peter Hammerstein (Humboldt Univ.), Norio Yamamura (Kyoto Univ.), John H. Werren (Univ. of Rochester) | O1-Z12 単一気孔の CO ₂ 濃度変動に対する応答。°鎌倉真依 (奈良女), 古川昭雄 (奈良女) |

U 会場

V 会場

W 会場

物質生産・物質循環

植物群落

動物植物相互作用

- | | | | |
|---------|--|--|--|
| [13:30] | O1-U20 Microbial biomass and diversity three years after forest fire in a pine forest. Jhonamie °Mabuhay, Nakagoshi Nobukazu (Hiroshima Univ.) | O1-V20 沖積砂礫地に成立するコナラ林の組成的特徴. °野田浩, 吉川正人, 福嶋司 (東京農工大), 平中春朗 (国土環境) | O1-W20 植食動物の糞内容物から DNA 解析による餌植物の同定. °松木吏弓, 阿部聖哉, 竹内亨, 梨本真 (電中研), 島野光司 (信州大), 矢竹一穂 (セレス) |
| [13:45] | O1-U21 河畔域に生息するクモ類の安定同位体比の河川区による差異. °赤松史一 (信州大院), 戸田任重 (信州大), 沖野外輝夫 (早稲田大) | O1-V21 岡山県東部における GIS を用いた植生の解析 1 地質・地形と植生の関係 . °森定伸 (ウエスコ), 山本圭太 (岡山理大), 難波靖司, 山田哲弘 (岡山県環境保全事業団), 波田善夫 (岡山理大) | O1-W21 ブナ樹冠内にみられる被食レベルの変異の要因 - 葉序と光環境 -. °山崎理正 (京大) |
| [14:00] | O1-U22 農業生産に共なる農地への重金属負荷の推定. °三島慎一郎, 井上恒久 | O1-V22 岡山県東部における GIS を用いた植生の解析 2 約 20 年間における植生の変化 . °山本圭太 (岡山理大), 森定伸 (ウエスコ), 難波靖司, 山田哲弘 (岡山県環境保全事業団), 波田善夫 (岡山理大) | O1-W22 ジュゴンの摂餌効率と海草の生長について. °池田和子 (九大院), 向井宏 (北大), 明田佳奈 (自然環境研究センター) |
| [14:15] | O1-U23 「水田および転換畑における、CO ₂ フラックスの季節変化および炭素収支の比較」. °西村誠一, 米村正一郎, 秋山博子, 須藤重人, 八木一行 (農環研), 澤本卓治 (酪農学園大) | O1-V23 岡山県南東部の植生 - 流紋岩質岩地域及び堆積岩地域の地形・土壌と植生 -. °太田 謙 (岡山理大), 能美 洋介, 波田 善夫 (岡山理大) | O1-W23 植物乳液が対植食者防衛に果たす決定的役割 - 乳液中に濃縮された酵素・物質の存在理由 -. °今野浩太郎, 平山力, 中村匡利, 田村泰盛, 服部誠 (農業生物資源研), 河野勝行 (野菜茶業研) |
| [14:30] | O1-U24 温室効果ガス (CO ₂ , CH ₄ , N ₂ O) 収支による長野県菅平における生態系の温暖化影響力の総合評価. °熊谷麻紀子 (筑波大), 八代裕一郎 (岐阜大), 鞠子茂 (筑波大) | O1-V24 スパールバル諸島ニーオルスン氷河後退域における土壌と植生の発達. °大塚俊之 (茨城大), 内田雅己 (極地研), 吉竹晋平, 中坪孝之 (広島大) | O1-W24 北海道西部におけるセスジカメノコハムシの分布と寄主特異性. °藤山直之, 富樫梢 (北教大函館), 片倉晴雄 (北大院) |
| [14:45] | O1-U25 冷温帯落葉広葉樹林における土壌 CO ₂ , CH ₄ フラックスの定量的評価. °大江悠介 (筑波大), 熊谷麻紀子 (筑波大), 鞠子茂 (筑波大) | O1-V25 風食による植被の破壊がもたらす強風地植物群落の種の多様性 - 飯豊山地の偽高山帯における事例 -. °小泉武栄 | O1-W25 帰化植物セイタカアワダチソウの生態系に与える影響 - 排除・撲滅しか解決策はないの? -. °安東義乃, 大串隆之 (京大生態研センター) |
| [15:00] | O1-U26 NOAA/AVHRR と多層モデルによる冷温帯落葉広葉樹林における CO ₂ フラックスの解析. °中西理絵, 小杉緑子, 高梨聡, 松尾奈緒子 (京大), 田中夕美子, 日浦勉 (北大) | O1-V26 ヤギの完全駆除から 30 年経過した小笠原諸島南島における地形的な植生パターンと種多様性構造. °朱宮文晴 (日本自然保護協会) | O1-W26 Fish invasion restructures stream and forest food webs by interrupting reciprocal prey subsidies. Colden V. °Baxter, Kurt D. Fausch (Colorado State Univ.), and Masashi Murakami (Hokkaido Univ.) |
| [15:15] | O1-U27 冷温帯落葉広葉樹林生態系における土壌有機物層 (リター) 量の減少率の時・空間変動. °賈書剛, 秋山侃 (岐阜大) | O1-V27 トルコ南部・チクロバ平野領水域の植生と群落構造. °玉井重信 (鳥大), 安藤信 (京大), 佐野淳之 (鳥大), K.Tuluhan Yilmaz (Cukurova Uni.Agrı) | O1-W27 カエル目幼生による栄養塩回帰が落葉リター食者に与える間接効果. °岩井紀子, 加賀谷隆 (東大) |

群集生態

口頭発表 8 月 26 日 (木)

X 会場

Y 会場

Z 会場

保全・管理

個体群生態

生理生態

- | | | | |
|---------|---|---|--|
| [13:30] | O1-X20 土壌シードバンクによる絶滅危惧植物アサザの遺伝的多様性の回復. °上杉龍士 (東大), 西廣淳 (東大), 津村義彦 (森総研), 鷲谷いづみ (東大) | O1-Y20 病原体系統と宿主植物抵抗性品種の共進化動態 -空間構造の効果-. °岩永亜紀子, 佐々木頭 (九州大) | O1-Z20 山口県におけるニホンジカの臓器重量の季節変化. °伊藤直弥, 細井栄嗣 (山口大), 田戸裕之 (山口県林業指導センター) |
| [13:45] | O1-X21 聞きとり手法を用いたシラタマホシクサの分布復元に関する研究. °富田啓介 (名古屋大) | O1-Y21 コロニーベース格子モデルでの攪乱とアリの分散戦略の関係について. °中丸麻由子 (静大), 別府弥生 (九州大), 辻和希 (琉球大) | O1-Z21 アカネズミを生物指標としたダイオキシン汚染の影響評価; ダイオキシン感受性に関する Aryl hydrocarbon Receptor (AhR) の多型解析. °石庭寛子 (新潟大院), 十川和博, 安元研一 (東北大院), 當間士紋, 松木英典, 新村末雄 (新潟大), 高橋敬雄, 梶原秀夫 (新潟大), 関島恒夫 (新潟大院) |
| [14:00] | O1-X22 河川砂州上でのシナダレスズメガヤの急激な分布拡大をもたらす繁殖様式の可塑性. °鎌田磨人, 小島桃太郎 (徳島大) | O1-Y22 格子モデルの新しい近似法. °江副日出夫, 高田政子 (大阪女子大) | O1-Z22 シオジとヤチダモの滞水による成長への影響. °崎尾均 (埼玉) |
| [14:15] | O1-X23 北海道サロベツ湿原におけるゼンテイカ霜害発生時の水文環境と夜間冷却現象の数値実験. °山田雅仁 (北海道農業研究センター), 高橋英紀 (北海道水文気候研) | O1-Y23 (canceled) — | O1-Z23 水生植物ヒルムシロ属における環境ストレス応答. °飯田聡子, 小菅桂子 (神戸大), 角野康郎 (神戸大) |
| [14:30] | O1-X24 中国地方の中山間地域における環境保全型稲作の環境科学的評価. °木村綾子, 中越信和 (広島大) | O1-Y24 捕食者 - 被食者モデルにおいて、捕食者の採餌と繁殖の時間スケールの違いは重要か?. °瀧本岳 (北大) | O1-Z24 サクラソウのクローン成長特性のジェネット間変異. °野田響 (東大院), 村岡裕由 (岐阜大), 鷲谷いづみ (東大院) |
| [14:45] | O1-X25 刈り取りによる管理がヨシ実験個体群に及ぼす影響. °小田倉碧 (茨城大), 矢部徹 (国環研), 藤田光則 (東北工大), 土谷岳令 (千葉大) | O1-Y25 都市環境におけるモンシロチョウとスジグロシロチョウの遺伝的多様性と集団構造. °高見泰興 (京大), 小汐千春 (鳴門教育大), 石井実 (大阪府大), 藤井恒 (京都精華大), 日高敏隆 (地球研), 清水勇 (京大) | O1-Z25 落葉広葉樹林に生育する 4 樹種の梢端部付近の無機元素分布の季節変化. °竹田真知子 (滋賀県立大), 籠谷泰行, 野間直彦, 荻野和彦 (滋賀県立大) |
| [15:00] | O1-X26 谷津干潟における海藻アオサの繁茂とその要因探索. °矢部徹 (国環研), 石井裕一 (千葉大), 立本英機 (千葉大) | O1-Y26 拡散係数の確率変動を考慮したトウモロコシの花粉拡散距離の推定. °山村光司 (農環研) | O1-Z26 熱帯樹木における樹高と木部構造の形態的特性の関係. °辻祥子 (京大) |
| [15:15] | O1-X27 小集団化がシデコブシの遺伝的荷重に及ぼす影響 - 推移確率行列による予測 -. °石田清, 平山貴美子 (森林総研), 戸丸信宏, 鈴木節子 (名大) | O1-Y27 (... moves to O ₂ -Y09). °— | |

口頭発表 8 月 26 日 (木)

U 会場

V 会場

W 会場

物質生産・物質循環

植物群落

群集生態

- | | | |
|---|---|--|
| <p>[15:30] O1-U28 河畔植生のリターの行方：陸上と水中でのリター分解。°佐々木晶子, 吉竹晋平, 中坪孝之 (広島大)</p> | <p>O1-V28 ヤクスギ天然林の群集構造。°新山馨, 柴田銃江, 田中浩, 八木橋勉, 安部哲人, 野宮治人, 佐藤保, 金谷整一, (森林総研), 吉田茂二郎 (九州大)</p> | <p>O1-W28 河川性魚類が底生無脊椎動物に及ぼす影響：流程間での比較。°井上幹生 (愛媛大), 宮吉将信 (PCE)</p> |
| <p>[15:45] O1-U29 山地斜面における落葉リターの移動と分解：スズケ群落は移動を妨げ分解を促進する。塩川聡輔, °加賀谷隆 (東大)</p> | <p>O1-V29 高齢人工林内の植生構造と多様性を決める要因。°田内裕之, 五十嵐哲也 (森林総研)</p> | <p>O1-W29 河畔林の断続的な伐採が河川性底生動物の群集構造に及ぼす影響。°森照貴 (北大), 三宅洋 (愛媛大), 柴田勲弐 (名大)</p> |
| <p>[16:00] O1-U30 山地小渓流における落葉枝リターパッチの季節動態 - リター形態変化の重要性 - 。°小林草平, 加賀谷隆 (東大)</p> | <p>O1-V30 キナバル山の熱帯下部山地林における熱帯針葉樹林の成立過程と構造。°清野達之, 北山兼弘 (京大)</p> | <p>O1-W30 仙台湾に面した 7 干潟に棲息する底生動物のメタ群集構造。°鈴木孝男 (東北大院)</p> |
| <p>[16:15] O1-U31 マルチ自動開閉チャンパーを用いた森林木部呼吸の連続測定。°梁乃申, 藤沼康実, 井上元 (国環研)</p> | <p>O1-V31 Biomass allocation and stand structures of a mangrove <i>Kandelia candel</i> (L.) Druce in the Manko Wetland, Okinawa Island. °Khan M.N.I. and A. Hagihara (Univ. of the Ryukyus)</p> | <p>O1-W31 泳ぐ閉鎖系 ~アオウミガメに付着するフジツボ類の分布パターン~。°林亮太 (東大), 辻和希 (琉球大)</p> |
| <p>[16:30] O1-U32 森林群落における木部表面積の推定法。°千葉幸弘 (森林総研), 檀浦正子 (神戸大), 右田千春 (東大), 毛塚由佳理 (筑波大), 韓慶民 (森林総研)</p> | | <p>O1-W32 海藻と植物プランクトンの競争が生み出す中海の海藻群落の空間変異。°宮本康 (京大)</p> |
| <p>[16:45] O1-U33 コナラ林における光合成特性の時空間的変動。°右田千春 (東大院), 千葉幸弘, 韓慶民 (森林総研), 丹下健 (東大演)</p> | | <p>O1-W33 湖沼におけるキャタストロフ遷移。°中島久男 (立命)</p> |
| <p>[17:00] O1-U34 3 次元シュート構造・光合成特性・フェノロジーを考慮し、年間光合成量を計算する樹木モデル。°梅木清 (千葉大), 菊沢喜八郎, 白川裕之 (京都大), 鈴木牧 (兵庫県立大)</p> | | <p>O1-W34 インドネシア、中央カリマンタンの三日月湖及び氾濫原湖沼における動物プランクトン群集の比較。°今井眞木, 岩熊敏夫 (北大院)</p> |
| <p>[17:15]</p> | | <p>O1-W35 地球温暖化と動物プランクトン：メソコスム実験を用いた動物プランクトン群集に及ぼす高温ストレス影響の解析。°張光玄, 花里孝幸 (信州大)</p> |

口頭発表 8月26日(木)

X会場

Y会場

Z会場

保全・管理

個体群生態

繁殖・生活史

- [15:30] O1-X28 アジア東部地域における森林の動態把握手法の開発. °大平亘, 和田幸生, 宮下洋平, 三塚直樹(日林協)
- O1-Y28 同所的同属種2種の共存に、樹形の分化は重要だった. °山田俊弘(熊本県立大), ンガカンオカ(ハサヌディン大), 鈴木英治(鹿児島大)
- O1-Z28 アカクローバにみられる生活史特性の密度依存性. °平田聡之(北大)
- [15:45] O1-X29 セイヨウオオマルハナバチの北海道千歳への侵入範囲, 季節消長, および在来マルハナバチへの影響. °稲荷尚記(北大), 永光輝義(森林総研), 田中健太(北大), 五箇公一(国環研), 日浦勉(北大)
- O1-Y29 二年草オオハマボス個体群における空間分布の年変動. °鈴木亮, 鈴木準一郎, 可知直毅(都立大)
- O1-Z29 雑種起源種トウカイコモウセンゴケの集団間における生活史特性の変異. °中野真理子(金沢大), 小藤景美子, 植田邦彦, 石田健一郎(金沢大), 木下栄一郎(金沢大)
- [16:00] O1-X30 セイヨウオオマルハナバチが北海道のマルハナ媒植物の送粉成功に与える影響 - 網室実験による検証 -. °田中健太(北大), 稲荷尚記(北大), 永光輝義(森林総研), 日浦勉(北大), 五箇公一(国環研)
- O1-Y30 土壌養分の空間的不均質性と競争がアサガオ個体の成長・物質分配・根系の空間分布に及ぼす影響. °中村亮二, 鈴木準一郎, 可知直毅(都立大院)
- O1-Z30 関東地方におけるコナラ堅果形態の3年間の比較とその形態変異に関する要因の一考察. °岩淵祐子(東京農工大), 星野義延(東京農工大)
- [16:15] O1-X31 クロッカーレンジ国立公園(マレーシア, サバ州)に生息するボルネオミツバチの遺伝的多様性とその起源. °須賀丈(長野県環境保全研), 田中洋之(京都大), マリアティ, M.(サバ大)
- O1-Y31 ハンゲショウの葉はなぜ白化するのか. °山内綾香(筑波大), 鞠子茂(筑波大)
- O1-Z31 水位変動下における両生植物ヒメホタルイの種子からの定着と水散布の役割. °石井潤(東京大), 角野康郎(神戸大)
- [16:30] O1-X32 クワガタムシ商品化がもたらす生態リスク. °五箇公一(国立環境研), 小島啓史(nifty 昆虫フォーラム), 岡部貴美子(森林総研)
- O1-Y32 ユキワリソウの地上個体および土壌シードバンクの遺伝構造. °下野綾子(東大), 上野真義, 津村義彦(森林総研), 鷲谷いづみ(東大)
- O1-Z32 熱帯雨林の林床植物 *Acranthera* 属2種のハビタットと更新様式. °森早苗, 名波哲, 伊東明, 山倉拓夫(大阪市大), Sylvester Tan, Lucy Chong (Sarawak forestry)
- [16:45] O1-X33 シャープゲンゴロウモドキの現状と保全への取り組み. °西原昇吾, 鷲谷いづみ(東大)
- O1-Y33 カタクリにおける長期個体群動態—開花・結実パターンと若齢個体の休眠について—. °大河原恭祐, 木下栄一郎(金沢大)
- O1-Z33 シウリザクラの雌雄繁殖成功とクローン構造. °森洋佑(北大), 永光輝義(森林総研)
- [17:00] O1-X34 タガメ存続にとってのカエル類保護の重要性. °平井利明(愛媛大)
- O1-Z34 マイクロサテライトマーカーによる花粉1粒を対象とした遺伝子型解析. °井鷲裕司, 近藤俊明, 松木悠(広島大), 陶山佳久(東北大)
- [17:15] O1-X35 奄美大島の外来捕食者とアカヒゲ・イシカガワエルの分布相関. °石田健
- O1-Z35 葉寿命や葉質からみた常緑草本の類型. °大野啓一(千葉県立中央博物館)

口頭発表 8 月 27 日 (金)

U 会場

行動・社会生態

V 会場

景観生態

W 会場

群集生態

- | | | |
|--|---|--|
| <p>[09:30] O2-U01 野生ニホンザルの栄養状態の季節変化. °室山泰之(京都大), 金森弘樹(鳥根県中山間地域研究センター), 北原英治(森林総研)</p> <p>[09:45] O2-U02 生理機構に起因する対・捕食者行動の個体群間比較. °千葉晋(東京農大), David O. Conover (State Univ. of New York at Stony Brook)</p> <p>[10:00] O2-U03 半倍数性社会性昆虫における Symmetrical Social Hybridogenesis の存続条件. °山内淳, 山村則男(京大)</p> <p>[10:15] O2-U04 捕食者特異的な誘導防御形態戦略. °岸田治, 西村欣也(北海道大院)</p> <p>[10:30] O2-U05 オーストラリア・モンスーン熱帯におけるセアカオーストラリアムシクイの繁殖戦略. °上田恵介(立教大), Richard Noske (Charles Darwin Univ.)</p> <p>[10:45] O2-U06 淡水域におけるケミカルコミュニケーションがもたらす被食者 2 種の生存率・行動・形態変化の比較. °高原輝彦(京都工繊大), 神松幸弘(地球研), 山岡亮平(京都工繊大)</p> <p>[11:00] O2-U07 ヒシバッタ類における自切のコスト. °本間淳, 西田隆義(京大院)</p> <p>[11:15] O2-U08 環境中の背景雑音がミナミハンドウイルカの音声に与える影響. °森阪匡通, 篠原正典(京大), 中原史生(常磐大), 赤松友成(水工研)</p> <p>[11:30] O2-U09 有限集団における協力の進化: 1/3 則. °佐々木顕(九大)</p> <p>[11:45] O2-U10 待ち伏せ型捕食者サシバにおける採食パッチの選択と放棄. °呉盈瑩, 藤田剛, 樋口広芳(東大)</p> <p>[12:00]</p> <p>[12:15]</p> | <p>O2-V01 GIS を用いた流域構造変化と釧路湿原の変化に関する定量化技術. °亀山哲(国環研), 福島路生(国環研), 矢吹哲夫(酪農学園大), 金子正美(酪農学園大), 島崎彦人(国環研)</p> <p>O2-V02 A stochastic lattice model for forest canopy gaps, generating. Robert °Schlicht and IWASA, Yoh (Kyushu Univ.)</p> <p>O2-V03 拡大空中写真の画像解析を応用したサンゴ礁池の構造解析と魚類の生息地の抽出. °服部昭尚(滋賀大), 小林都(石垣市在住)</p> <p>O2-V04 自然資源ベースマップを用いた保全・再生地域の抽出と評価. °矢ヶ崎朋樹, 村上雄秀(国際生態学センター), 武井幸久, 平泉直美(福井工業高等専門学校), 向川泰弘(福井県雪対策), 鈴木邦雄(横浜国大院)</p> | <p>O2-W01 軍拡競争と拡散共進化. °山村則男(京大)</p> <p>O2-W02 分散の進化と生物多様性. °河田雅圭(東北大)</p> <p>O2-W03 資源競争型モデル群集における種間の表現型多様性と生態系機能の関係. °田中嘉成(中央大)</p> <p>O2-W04 侵入種と在来種の種間相互作用を特徴付けるのはなにか?: 適応の役割に関する理論的考察. °近藤倫生(龍谷大)</p> <p>O2-W05 種間相互作用の再検討: 昨日の敵は今日の友!?. °河井崇(九大)</p> <p>O2-W06 ギルド内捕食は捕食者のパフォーマンスを向上させるか: 生態化学量論的視点から. °松村正哉(九州沖縄農研), G.M. Trafflet-Smith (Univ.Maryland), C. Gratton (Univ.Wisconsin), D.L. Finke, W.F. Fagan, R.F. Denno (Univ.Maryland)</p> <p>O2-W07 遺伝的に決定された植物の化学二型に対する植食性昆虫群集の反応. °林珠乃, 大串隆之(京大)</p> <p>O2-W08 農地生態系の土壌圏 - 安定同位体比を用いて食物網を探る - 8. 畑地に生息するクモ類の餌資源の推定. °藤田正雄(自然農法国際研究開発センター), 藤山静雄(信大)</p> <p>O2-W09 4 種の比較系統地理から明らかになった海浜性ハンミョウ種群の歴史的な形成過程. °佐藤綾, 曾田貞滋(京大), 上田哲行(石川農業短大), 榎戸良裕(横浜市), 白種哲(順天大), 堀道雄(京大)</p> <p>O2-W10 佐渡島のブナ残存林に棲息する地表徘徊性甲虫の群集構成及び体サイズに関する特徴. °池田紘土, 久保田耕平(東京大院), 本間航介(新潟大)</p> <p>O2-W11 早池峰山のアカエゾマツ南限地におけるアカエゾマツとキタゴヨウ、コメツガ、ヒバとの競合関係. °杉田久志, 金指達郎(森林総研), 高橋誠(林木育種センター)</p> <p>O2-W12 山地小流域における冷温帯林の 12 年間の森林動態 - 林冠ギャップと地形との関係 -. °本間多恵子(岩手大院), 杉田久志(森林総研), 國崎貴嗣(岩手大)</p> |
|--|---|--|

口頭発表 8 月 27 日 (金)

X 会場

保全・管理

Y 会場

個体群生態

Z 会場

繁殖・生活史

- [09:30] O2-X01 DNA を指標とした外洋性鳥類の異所コロニー間の遺伝的交流. °馬場芳之, 小池裕子 (九州大), 岡奈理子 (山階鳥類研)
- [09:45] O2-X02 イヌワシの繁殖活動を制約する要因: 育雛期における餌のスイッチングの影響. °布野隆之, 関谷義男, 関島恒夫 (新潟大院), 竹内亨, 梨本真, 阿部聖哉, 松木吏弓 (電中研), 阿部學 (日本猛禽類研究機構)
- [10:00] O2-X03 Counting in the dark: census vs. effective population size estimation in the endangered Banggai leaf-nose bat (*Hipposideros turpis*: Chiroptera, Hipposideridae). The case of Yonaguni Island. Lazaro M. °Echenique-Diaz (東北大), Jun Yokoyama (東北大), Masakado Kawata (東北大)
- [10:15] O2-X04 音声変異から見た日高南部個体群のエゾナキウサギの保全. °小島望 (北海道教育大)
- [10:30] O2-X05 知床半島におけるヒグマの冬眠穴の構造と立地条件の特性. °山中正実 (知床財団), 岡田秀明 (知床財団)
- [10:45] O2-X06 山口県におけるニホンジカの生息頭数推移 (1998 ~ 2003 年). °田戸裕之, 杉本博之, 桑野泰光 (山口県林業指導センター), °伊藤直弥, 山田昌宏, 細井栄嗣 (山口大)
- [11:00] O2-X07 獵期延長と狩獵者減少がニホンジカ個体群動態に及ぼす影響. °坂田宏志 (兵庫県立大), 鈴木牧 (兵庫県立大), 濱崎伸一郎 (野生動物保護管理事務所), 横山真弓 (人と自然の博物館)
- [11:15] O2-X08 ニホンジカ個体群の'収容力'と'安定性' - '増えすぎ'って何なの? -. °立澤史郎 (北大)
- [11:30] O2-X09 北海道南西部におけるニジマスの定着条件. °宮田浩 (愛媛大院), 井上幹生 (愛媛大)
- [11:45] O2-X10 沈水植物群落の再生に果たす外来魚ブルーギルの有無と構成する水草種の影響. °米倉竜次, 高村典子 (国立環境研), 西廣淳 (東京大)
- [12:00] O2-X11 淡水産巻貝サカマキガイ *Physa acuta* における Cd の生物濃縮と成長と生殖に与える毒性影響. °福田朱里, 内海真生 (筑波大)
- [12:15]
- O2-Y01 密植されたヒノキ苗個体群における平均地上部重、地下部重と密度との関係. °小川一治 (名大)
- O2-Y02 富士山亜高山帯風害跡地における針葉樹実生の倒木利用様式の変化. °勝又暢之 (千葉大)
- O2-Y03 春日山原始林における移入種ナギとナンキンハゼの分布とその要因解析. °前迫ゆり (奈良佐保短大), 名波哲 (大阪市大), 神崎護 (京大)
- O2-Y04 春日山原始林に侵入したナギとナンキンハゼの個体群構造の空間的差異. °名波哲 (大阪市大), 前迫ゆり (奈良佐保短大), 神崎護 (京大)
- O2-Y05 浅間山麓カラマツ天然林集団内の空間遺伝構造 - 集団成立過程における無性的プロセスの寄与の可能性 -. °高橋誠 (林育セ)
- O2-Y06 秋田スギ天然更新林分における更新様式の解析 1. 群落構造と栄養繁殖様式. °蒔田明史, 阿部知行 (秋県大), 三嶋賢太郎, 高田克彦 (秋県大), 澤田智志 (秋県森技セ)
- O2-Y07 秋田スギ天然更新林分における更新様式の解析 2. SSR マーカーによる更新動態の解明. °三嶋賢太郎, 平尾知士, 高田克彦 (秋県大), 阿部知行, 蒔田明史 (秋県大), 澤田智志 (秋県森技センター)
- O2-Y08 葉緑体 DNA 多型を用いたケヤキの地理的変異の解析. °生方正俊 (林木育種センター), 上野真一 (林野庁), 平岡裕一郎 (林木育種センター)
- O2-Y09 マスティングの波及効果: ノルウェー南部で観測された階層的時系列データの解析. °佐竹暁子 (京大), O.N. Bjornstad (Pennsylvania State University), S.Kobro (Norwegian Crop Research Institute)
- O2-Z01 防御器官の成長スケジュールにおける多様性: 動的最適化によるアブローチ. °入江貴博, 巖佐庸 (九大)
- O2-Z02 資源を稼ぎながら卵生産するときの、大きさと数のトレードオフと最適卵サイズ. °酒井聡樹 (東北大), 原田康志 (三重大)
- O2-Z03 誘導防御戦略のデザイン. °西村欣也 (北大)
- O2-Z04 キボシショウジョウバエは繁殖資源の匂いによって飛行活動を低下させ卵巣を発達させる. °一條信明 (釧路湖陵高)
- O2-Z05 ミヤマカワトンボの全繁殖期間を通しての精子の質と量の変動 ~ カワトンボとの比較 ~. °土屋香織, 林文男 (東京都立大)
- O2-Z06 休眠性と demographic traits に相関はあるか? ~ ハダニにおけるケーススタディ ~. °伊藤桂 (北大)
- O2-Z07 種子食昆虫エゴヒゲナガゾウムシにおける体サイズと休眠年数の変異. °松尾洋 (東京都立大)
- O2-Z08 琵琶湖における橈脚類 *Eodiaptomus japonicus* の再生産に与える餌の量と質の影響. °梅景大輝, 田中リジア, 伴修平 (滋賀県立大環境科学)
- O2-Z09 ニホンザルにおいて、どんなオスが子供を残しているのか? °井上英治 (京都大), 竹中修 (京都大)
- O2-Z10 降海型サクラマスにおける体サイズ性差の緯度間変異. °玉手剛
- O2-Z11 サンゴの幼生を捕食するプラヌラ幼生の発見. °磯村尚子 (お茶大), 岩尾研二 (阿嘉島臨海研), 服田昌之 (お茶大)
- O2-Z12 フクロウ (*Strix uralensis*) の繁殖開始日と気象との関係. °樋口亜紀, 伊野良夫 (早大)

● 参加者名簿

講演・日時	名前	所属	懇親会
	相川 真一	茨城大・理	○
P2-121c 27(金) Poster	相澤 章仁	千葉大・自然科学	
P1-143c 26(木) Poster	饗庭 正寛	京大生態研	○
	青木 一郎	静岡大・工	○
P2-031c 27(金) Poster	青木 優和	筑波大・下田臨海	○
P2-061c 27(金) Poster	赤坂 宗光	北海道大院・地球環境	
O1-U21 26(木) 13:45	赤松 史一	信州大院	○
	秋山 耕治	京都大・農	
	秋山 克	幌延地圏環境研	
O1-V06 26(木) 10:45	浅枝 隆	埼玉大院・理工学	
S7-5 28(土) 09:30	安島 美穂	東京大・農学生命科学	○
P3-156 28(土) Poster	東 信行	弘前大・農学生命科	○
P1-057c 26(木) Poster	安立 美奈子	岐阜大・流域圏科学研究センター	○
P1-181 26(木) Poster	足達 優子	広島大院・国際協力	
	油川 愛佳	北海道大・農学	○
P1-089 26(木) Poster	阿部 恵子	北大・地球環境科学	○
P3-079 28(土) Poster	阿部 豪	北海道大院・文学	
P2-030c 27(金) Poster	安部 淳	東大・広域システム	○
	阿部 真	森林総研・北海道支所	○
P3-013 28(土) Poster	阿部 聖哉	電力中央研・環境科学研究所	○
P1-106 26(木) Poster	阿部 司	滋賀県立大	
P3-042 28(土) Poster	安部 哲人	森林総研	○
P1-043 26(木) Poster	阿部 俊夫	森林総研	
O1-W03 26(木) 10:00	阿部 晴恵	東邦大・理	
S12-4 27(金) 09:30	安部倉 完	京都大・理	○
P2-025c 27(金) Poster	天野 達也	東京大院・農学生命科学	○
P3-176c 28(土) Poster	天野 一葉	WWF ジャパン	○
O1-X01 26(木) 09:30	雨宮 隆	横国大・環境情報	○
P2-076c 27(金) Poster	綾部 慈子	九大院・生防研	○
O1-Z10 26(木) 11:45	アラ マス	東北大・生命	
	新井 浩輔	雪印種苗(株)環境緑化本部	○
P1-081c 26(木) Poster	新井 宏受	京都大院・農学	○
	新井 雅也	東京大院・農学生命	○
P2-122c 27(金) Poster	新垣 誠司	九州大院・理	○

講演・日時	名前	所属	懇親会
P1-161c 26(木) Poster	荒木 希和子	北大・地球環境	○
	荒木 奈津子	酪農学園大・環境システム	○
P1-046 26(木) Poster	荒木 眞岳	森林総研	
P3-092 28(土) Poster	安 榮相	北海道大院・農学	
	安溪 貴子	山口大	○
S11-2 27(金) 09:30	安溪 遊地	山口県立大	○
	安藤 信	京都大・フィールド科学教育研究センター	
O1-W25 26(木) 14:45	安東 義乃	京都大・生態学研究センター	
P1-072c 26(木) Poster	李 載錫	建国大・生命科	
P1-080c 26(木) Poster	李 美善	国立環境研	○
P1-036c 26(木) Poster	飯尾 淳弘	静岡大・農	
P2-138 27(金) Poster	飯島 和子	千葉県立衛生短期大・生物学	
P2-063c 27(金) Poster	飯島 勇人	北大院農	○
O1-Z23 26(木) 14:15	飯田 聡子	神戸大・遺伝子実験センター	○
P2-148 27(金) Poster	飯田 滋生	森林総研・北海道支所	
P2-066c 27(金) Poster	飯村 佳代	北海道大・低温科学研	
	井貝 紀幸	名大院・生命農	○
	五十嵐 哲也	森林総研	
P2-130 27(金) Poster	伊川 耕太	東京農大院・農	
O1-W22 26(木) 14:00	池田 和子	九州大院・比較社会文化	○
P3-162 28(土) Poster	池田 重人	森林総研	○
P3-076 28(土) Poster	池田 透	北海道大院・文学	
	池田 俊也	岐阜大	
P3-072 28(土) Poster	池田 浩明	農業環境技術研・植生研究グループ	○
O2-W10 27(金) 11:45	池田 紘士	東京大院・農学生命科学	○
O1-Z34 26(木) 17:00	井鷲 裕司	広島大・総合科	○
P2-104 27(金) Poster	伊澤 加恵	信州大・工学系	
	石井 健太	酪農学園大	
O1-Z31 26(木) 16:15	石井 潤	東京大・農学生命科学	○
P1-067c 26(木) Poster	石井 弘明	神戸大院・自然科学	
P2-077c 27(金) Poster	石井 弓美子	東大・広域システム	○
	石川 淳子	北大院・地球環境	
O1-Z05 26(木) 10:30	石川 真一	群馬大・社会情報	○
O1-U10 26(木) 11:45	石川 眞知子	筑波大院・環境科学	
S3-5 26(木) 14:30	石川 幸男	専修大・北海道短期大学園芸緑地科	○

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
O1-X27 26(木) 15:15	石田 清	森林総研・関西支所	○	P3-001 28(土) Poster	伊東 宏樹	森林総研・関西	○
O1-X35 26(木) 17:15	石田 健	東京大院・農学生命科学			伊藤 洋	筑波大・環境科学	
P1-122 26(木) Poster	石田 健太郎	筑波大院・生命環境科学	○		稲葉 純一	山形大院・理工	
P3-020 28(土) Poster	石田 孝英	東京大院・農学生命科学	○	P2-054 27(金) Poster	稲葉 慎	NPO 小笠原自然文化研	○
P3-118c 28(土) Poster	石田 裕子	京都大院・工学	○	O1-X29 26(木) 15:45	稲荷 尚記	北大・低温研	○
O1-Z21 26(木) 13:45	石庭 寛子	新潟大院・自然科学	○	O2-Z09 27(金) 11:30	井上 英治	京都大院・理学	○
	石橋 聡	森林総研北海道		P2-034c 27(金) Poster	井上 牧子	神戸女学院大・人間科学	
S7-7 28(土) 09:30	石濱 史子	東大院・農学生命	○	O1-W28 26(木) 15:30	井上 幹生	愛媛大・理	○
	石原 道博	大阪女子大・理	○	P1-152c 26(木) Poster	井上 みずき	京都大院・農学	○
	石本 洋	北大・工	○	P1-090 26(木) Poster	伊原 禎雄	奥羽大・歯	○
	井関 智裕	東京植生研究会	○	P1-111 26(木) Poster	伊部 貴行	東京農業大	
P1-049 26(木) Poster	磯海 のぞみ	茨城大・理	○	P2-140 27(金) Poster	今井 伸夫	東京農業大院・林学専攻	○
P2-046 27(金) Poster	磯田 圭哉	(独) 林木育種センター		O1-W34 26(木) 17:00	今井 眞木	北海道大院・地球環境科学	○
O2-Z11 27(金) 12:00	磯村 尚子	お茶の水女子大院・人間文化	○		今井 勇一	岐阜大	
P1-108 26(木) Poster	井田 秀行	信州大・教育	○	P1-018 26(木) Poster	今川 克也	広島大院・生物圏科学	○
P1-166c 26(木) Poster	板垣 智之	東北大院・生命科学			今治 安弥	鳥取大・農	○
P2-038 27(金) Poster	市河 三英	(財) 自然環境研究センター	○	P3-146 28(土) Poster	今西 純一	京都大院・地球環境学堂	
O2-Z04 27(金) 10:15	一條 信明	北海道釧路湖陵高等学校	○		今村 彰生	総合地球環境学研	
P2-126c 27(金) Poster	市野川 桃子	遠洋水産研・数理解析	○	P1-084c 26(木) Poster	林 明姫	広島大院・生物圏科学	○
P1-015 26(木) Poster	市橋 隆自	東京大院・日光植物園	○		井村 治	畜産草地研	○
P1-096 26(木) Poster	一柳 英隆	(財) ダム水源地環境整備センター			井本 郁子	(株) 緑生研	
P2-108c 27(金) Poster	井出 純哉	京大院・農	○	O2-Z01 27(金) 09:30	入江 貴博	九大・理	○
P2-008 27(金) Poster	井手 徹	佐賀大院・農学		O1-W27 26(木) 15:15	岩井 紀子	東京大院・農学生命科学	
	伊藤 敦	筑波大・生物学類	○		岩泉 正和	(独) 林木育種センター	
P3-167c 28(土) Poster	伊藤 江利子	森林総研			巖 圭介	桃山学院大	○
O2-Z06 27(金) 10:45	伊藤 桂	北大・農		S6-5 26(木) 14:30	巖佐 庸	九州大・理	○
P1-088 26(木) Poster	伊藤 健二	中央農業総合研究センター	○	P3-066 28(土) Poster	岩崎 絢子	神戸大・自然科学	
	伊藤 浩二	東大院・農	○	P3-095 28(土) Poster	岩崎 巨典	(独) 農業環境技術研	○
P2-147 27(金) Poster	伊藤 哲	宮崎大・農			岩崎 雄輔	福島大・教育学	
	伊藤 忍	弘前大・農業生命科学		P3-053 28(土) Poster	岩崎 寛	兵庫県立大・自然研	
P2-157c 27(金) Poster	伊藤 祥子	宇都宮大・農	○		岩田 樹	筑波大・生物資源学類	○
P3-128c 28(土) Poster	伊藤 健彦	鳥取大・乾燥地研究センター			岩田 智也	山梨大・工	○
O1-Z20 26(木) 13:30	伊藤 直弥	山口大・農		P2-044 27(金) Poster	岩田 洋佳	中央農業総合研究センター	○
P2-099 27(金) Poster	伊藤 憲彦	千葉大・自然科学		O1-Y20 26(木) 13:30	岩永 亜紀子	九州大院・理	
	伊藤 英人	北海道大院・農学	○	P1-014 26(木) Poster	岩永 史子	鳥取大・農	

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
O1-Z30 26(木) 16:00	岩渕 祐子	東京農工大院・連農	○		大井 徹	森林総研・関西支所	○
	岩本 二郎	北海道大院・地球環境科	○	P3-151 28(土) Poster	大井 信夫	ONP 研	
S10-5 26(木) 14:30	岩本 俊孝	宮崎大・教育文化	○	P3-103 28(土) Poster	大石 麻美	新潟大・自然科学	
P2-094 27(金) Poster	上杉 あかね	ミシガン大		O1-U25 26(木) 14:45	大江 悠介	筑波大・生命環境科学	
O1-X20 26(木) 13:30	上杉 龍士	東京大・農	○		大川 徹	神戸女学院	○
O2-U05 27(金) 10:30	上田 恵介	立教大・理	○	O1-Y33 26(木) 16:45	大河原 恭祐	金沢大・自然科学	
P2-124c 27(金) Poster	上田 昇平	信州大・理		P1-041 26(木) Poster	大窪 久美子	信州大・農	
P1-037c 26(木) Poster	上田 実希	京都大院・農			大久保 研蔵	北海道大・低温科学研	
S7-8 28(土) 09:30	上野 真義	森林総研	○	P2-067c 27(金) Poster	大久保 幸実	東京都立大・院	○
	上野 信平	東海大・海洋		P3-051 28(土) Poster	大河内 勇	森林総研・森林昆虫	○
P1-102 26(木) Poster	上野 直人	新潟大・農	○		大澤 淳	北海道大院・農学	○
P1-128c 26(木) Poster	上野 真由美	北海道大院・農学	○	P2-090 27(金) Poster	大澤 正嗣	山梨森林研	
	上野 めぐ	横浜国立大院			大澤 良	筑波大・生命環境科学	○
	上野 裕介	北海道大院・水産科学	○		大島 康行	(財)自然環境研究センター	○
P2-023c 27(金) Poster	上原 隆司	九大・理		O1-U08 26(木) 11:15	大園 享司	京大・農	
	植村 滋	北海道大・FSC	○	P1-149c 26(木) Poster	太田 彩子	東北大・生命科学	○
P2-102 27(金) Poster	宇田川 徹	北海道区水産研・海区産業	○	O1-V23 26(木) 14:15	太田 謙	岡山理科大・総合情報	○
P1-068c 26(木) Poster	宇田川 弘勝	国立環境研・生物多様性研究		P1-179 26(木) Poster	大竹 邦暁	中電技術コンサルタント(株)	○
	内山 翼	東京農工大院・植生管理学			大館 智氏	北海道大・低温科学研	○
P3-071 28(土) Poster	内山 秀樹	(株)ドーコン	○	P3-116c 28(土) Poster	大谷 雅人	東京大院・農学生命科学	○
	内山 博之	斜里町立峰浜小学校	○	O1-V24 26(木) 14:30	大塚 俊之	茨城大・理	
P3-016 28(土) Poster	内海 俊介	京都大・生態学研究センター		P2-011 27(金) Poster	大塚 康徳	筑波大・生命環境科学	○
O1-W12 26(木) 12:15	宇野 裕之	北海道環境科学研究センター	○		大西 尚樹	森林総研・関西	○
P3-073 28(土) Poster	生方 秀紀	北海道教育大・釧路校	○	P3-017 28(土) Poster	大西 義浩	佐賀大・農	
O2-Y08 27(金) 11:15	生方 正俊	林木育種センター		O1-Z35 26(木) 17:15	大野 啓一	千葉県立中央博物館	○
O2-Z08 27(金) 11:15	梅景 大輝	滋賀県立大・環境科学	○	P1-019 26(木) Poster	大野 泰之	北海道立林業試験場	○
O1-U34 26(木) 17:00	梅木 清	千葉大院・自然科学	○		大場 健太郎	東京農工大・農	○
P3-137 28(土) Poster	浦 巧	北海道中標津高等学校	○	P2-072c 27(金) Poster	大場 隆史	北海道大院・水産科学	○
P3-138 28(土) Poster	浦 達也	北大院・地球環境		P2-055 27(金) Poster	大場 孝裕	静岡県林業技術センター	
P1-025c 26(木) Poster	江口 則和	北大院農	○	P3-153 28(土) Poster	大場 真	北大院・農	○
P2-087 27(金) Poster	江崎 功二郎	石川県林試			大橋 春香	東京農工大・植生管理学	○
O1-Y22 26(木) 14:00	江副 日出夫	大阪女子大・理	○	P3-109c 28(土) Poster	大林 隆司	東京都病害虫防除所	○
	江藤 千絵子	鳥取大・農	○		大原 雅	北海道大院・地球環境科学	○
P1-026c 26(木) Poster	遠藤 郁子	北大院農	○	O1-X28 26(木) 15:30	大平 亘	(社)日本林業技術協会	
P1-178 26(木) Poster	遠藤 知二	神戸女学院大・人間科	○		大道 暢之	神戸大院・自然科学	○

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
	大森 威宏	群馬県立自然史博	○	P1-054	籠谷 泰行	滋賀県立大・環境科	
P1-109 26(木) Poster	岡崎 純子	大阪教育大・教員養成課程	○	26(木) Poster			
P3-160 28(土) Poster	岡田 あゆみ	茨城県立医療大		O1-W06	笠木 哲也	北大・地球環境	
S3-3 26(木) 14:30	岡田 秀明	(財)知床財団	○	26(木) 10:45			
P2-160c 27(金) Poster	岡田 泰明	京都大・農学		S3-6	梶 光一	北海道環境科学研究セン ター	○
P2-020c 27(金) Poster	岡部 史恵	北海道大院・農学		26(木) 14:30			
	岡本 裕一朗	玉川大・文	○	P3-143	粕谷 英一	九州大・理	○
O2-Y01 27(金) 09:30	小川 一治	名古屋大院・生命農学	○	28(土) Poster			
	小川 潤	東京大		P1-050	糟谷 信彦	京都府大院・農	
P1-071c 26(木) Poster	小川 政幸	筑波大院・環境科学	○	26(木) Poster			
	沖津 進	千葉大・園芸	○	P1-131c	嘉田 修平	京大院・農	○
P1-153c 26(木) Poster	荻津 英也	茨城大・理	○	26(木) Poster			
	荻野 和彦	滋賀県立大・環境科	○	P3-037c	片野 泉	奈良女子大・共生科学研究 センタ-	○
P2-127c 27(金) Poster	奥田 青州	東京大院・農学生命科学		28(土) Poster			
S6-3 26(木) 14:30	奥田 武弘	北海道大・水産科学	○	P1-008	片畑 伸一郎	静岡大・農	
	奥田 夏樹	名桜大・総研	○	26(木) Poster			
	奥田 将己	総研大・統数研	○		可知 直毅	都立大院・理	○
P2-085c 27(金) Poster	奥村 忠誠	(株)野生動物保護管理事務所	○	P1-053	勝又 伸吾	京大院・農	
	奥村 みほ子	筑波大・環境科学	○	26(木) Poster			
P3-134c 28(土) Poster	小倉 洋平	徳島大院・工学	○	O2-Y02	勝又 暢之	千葉大院・自然科学	
P3-087 28(土) Poster	長 雄一	北海道環境科学研究セン ター	○	27(金) 09:45			
P1-012 26(木) Poster	長田 典之	東京大・理	○		勝又 まり	明治大・農	
P1-137c 26(木) Poster	小関 真人	広島大院・国際協力	○		加藤 京子	科学技術振興機構	○
	小田切 顕一	九州大院・比較社会文化	○	P1-063c	加藤 聡史	東北大院・生命科学	○
O1-X25 26(木) 14:45	小田倉 碧	茨城大院・理工学	○	26(木) Poster			
P1-016 26(木) Poster	小野 清美	北海道大・低温科学研		P2-069c	加藤 珠理	静岡大・農	
S10-6 26(木) 14:30	小野 勇一	北九州市立いのちのたび博 物館		27(金) Poster			
P1-075c 26(木) Poster	小野田 統	北海道大院・理学	○	P3-009	加藤 禎孝	奈良女子大	○
P2-001 27(金) Poster	小野田 剛	鹿児島大院・理工	○	28(土) Poster			
P1-061c 26(木) Poster	小野田 雄介	東北大・生命科学		S5-4	加藤 元海	京都大・生態学研究センター	○
P3-133c 28(土) Poster	小野田 幸生	京都大・生態学研究センター	○	26(木) 09:30			
P3-065 28(土) Poster	小幡 和男	ミュージアムパーク茨城県 自然博物館	○		角谷 友子	神戸大院・自然科学	
O1-U29 26(木) 15:45	加賀谷 隆	東京大・農学生命科学	○		角野 康郎	神戸大・理	○
P2-162c 27(金) Poster	賀川 篤	静岡大院・理工学	○	P3-120c	角谷 拓	東京大・農学生命科学	
S1-4 28(土) 09:30	角張 嘉孝	静岡大・農		28(土) Poster			
				S11-3	金井塚 務	広島フィールドミュージア ム	
				27(金) 09:30			
				P3-111c	金尾 滋史	滋賀県立大院・環境科学	○
				28(土) Poster			
				P1-093	金指 あや子	森林総研・遺伝	
				26(木) Poster			
					金子 洋平	新潟大院・自然科学	○
				P1-094	金谷 整一	森林総研・生態遺伝	
				26(木) Poster			
				P3-057	金行 悦子	広島大・生物圏科学	○
				28(土) Poster			
				P2-018c	鹿野 雄一	三重大・生物	○
				27(金) Poster			
				P2-036	壁谷 大介	森林総研・木曾試験地	○
				27(金) Poster			
					釜我 美菜子	近畿大・農	○
				O1-Z12	鎌倉 真依	奈良女子大院・人間文化	○
				26(木) 12:15			
				O1-X22	鎌田 磨人	徳島大・工	○
				26(木) 14:00			
				P1-064c	上村 了美	琉球大院・理工学	
				26(木) Poster			
				P2-019c	上村 佳孝	立正大・地球環境科	○
				27(金) Poster			
				P3-115c	亀井 幹夫	広島大院・国際協力	○
				28(土) Poster			
				P1-047	亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館	○
				26(木) Poster			

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
O2-V01 27(金) 09:30	亀山 哲	国立環境研・流域圏環境管理	○		北川 淑子	東京大院・農学生命科学	
P1-095 26(木) Poster	亀山 慶晃	北大・地球環境	○	O1-V04 26(木) 10:15	北澤 哲弥	東京大院・新領域創成科学	
O1-Z06 26(木) 10:45	香山 雅純	森林総研北海道	○	P3-044 28(土) Poster	北野 聡	環境保全研	○
	狩野 晋一	(財)リバーフロント整備センター		P3-047 28(土) Poster	北村 系子	森林総研北海道	
O2-W05 27(金) 10:30	河井 崇	九州大院・理	○	P1-155c 26(木) Poster	北村 淳一	京都大院・理学	
	川合 由加	信州大・農		S7-4 28(土) 09:30	北本 尚子	筑波大・生命環境	○
	川上 新	(社)沖繩建設弘済会		P2-056 27(金) Poster	木戸 雅子	信州大院・工学系	
	川上 和人	森林総研多摩森林科学園		P1-140c 26(木) Poster	城所 碧	北大・地球環境	
S12-5 27(金) 09:30	河口 洋一	(独)土木研・自然共生研究センター	○	O1-X24 26(木) 14:30	木村 綾子	広島大・国際協力	
P3-163 28(土) Poster	川口 利奈	筑波大・生命環境科学		P2-106 27(金) Poster	木村 勝彦	福島大・教育	○
P1-020 26(木) Poster	川崎 達郎	森林総研		P3-129c 28(土) Poster	木村 悟朗	信州大・繊維	○
P1-154c 26(木) Poster	川瀬 大樹	京都大・生態学研究センター	○	O1-Y09 26(木) 11:30	木村 美紀	奈良女子大・人間文化	
O2-W02 27(金) 09:45	河田 雅圭	東北大院・生命科学	○		木村 恵	東北大院・農	○
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館	○	P1-126c 26(木) Poster	木村 幹子	北海道大院・水産科学	○
P2-156c 27(金) Poster	川西 基博	帝京大・中学高等学校	○	P1-058c 26(木) Poster	清原 祥子	京都大・熱帯林環境学	○
P2-013 27(金) Poster	河野 かつら	九州大院・理・生物		P2-092 27(金) Poster	九鬼 なお子	信州大・農	
S11-4 27(金) 09:30	河野 昭一	日本生物多様性防衛ネットワーク	○	S10-4 26(木) 14:30	楠田 哲也	九州大院・工学	
P3-169c 28(土) Poster	河野 樹一郎	京都府立大院・農学		P1-177 26(木) Poster	楠本 良延	(独)農業環境技術研	○
P2-136 27(金) Poster	河野 円樹	高知大・理	○	P3-005 28(土) Poster	工藤 岳	北海道大・地球環境	○
	川端 善一郎	京都大・生態学研究センター	○		工藤 静子	釧路市住宅都市部公園緑地課	
S2-2 26(木) 14:30	川村 健介	岐阜大・流域圏科学研究センター	○		工藤 慎一	鳴門教育大・学校教育	○
P1-139c 26(木) Poster	河村 耕史	京大院・農	○	P2-167c 27(金) Poster	工藤 孝美	鹿児島大・連農	
P2-132 27(金) Poster	河原崎 里子	森林総研		P1-141c 26(木) Poster	國司 綾子	帯畜大・生態系保護	○
	菅 尚子	岐阜大院・農学	○	P3-027c 28(土) Poster	国武 陽子	東京大院・農	○
P2-154 27(金) Poster	神田 房行	北海道教育大・釧路	○		久保 拓弥	北海道大・地球環境	○
P3-131c 28(土) Poster	菅野 康祐	信州大・理		P2-134 27(金) Poster	久保田 康裕	鹿児島大・教育	○
O1-Z01 26(木) 09:30	菊沢 喜八郎	京都大・農学	○	O1-U24 26(木) 14:30	熊谷 麻紀子	筑波大・環境科学	
P3-084 28(土) Poster	菊地 賢	森林総研	○	P3-006 28(土) Poster	熊野 有子	京都工織大院・工芸科学	○
P3-105 28(土) Poster	菊池 俊一	北海道大院・農学		P3-074 28(土) Poster	倉内 洋平	北海道教育大・釧路校	○
O2-U04 27(金) 10:15	岸田 治	北海道大院・水産科学	○	P2-082c 27(金) Poster	倉品 伸子	(株)当間高原リゾート	○
	岸田 宗範	東京大・海洋研	○	P1-171 26(木) Poster	倉田 健悟	島根大・汽水域研究センター	○
P1-116 26(木) Poster	岸田 竜	佐賀大・農			倉本 宣	明治大・農	○
P1-180 26(木) Poster	木島 静香	広島大・国際協力	○	O1-U06 26(木) 10:45	黒川 紘子	京都大・生態学研究センター	○
	岸本 年郎	(財)自然環境研究センター	○	O2-U10 27(金) 11:45	呉 盈瑩	東京大院・農学生命科学	○
P1-003 26(木) Poster	北岡 哲	北海道大・FSC	○	P1-183c 26(木) Poster	呉 初平	京都大・農学	

講演・日時	名前	所属	懇親会
S2-3 26(木) 14:30	小泉 逸郎	北大・FSC	
O1-V25 26(木) 14:45	小泉 武栄	東京学芸大・地理学	○
	小泉 博	岐阜大・流域圏科学研究センター	○
	高津 文人	京都大・生態学研究センター	○
O1-U03 26(木) 10:00	河内 香織	北海道工業大	
P3-157 28(土) Poster	河野 万里子	広島大・国際協力	○
	甲山 隆司	北大・地球環境	○
P2-165c 27(金) Poster	郡 麻里	(株) プラトール研・環境	○
O1-X32 26(木) 16:30	五箇 公一	国立環境研	○
P2-002 27(金) Poster	古賀 庸憲	和歌山大	○
	小汐 千春	鳴門教育大・学校教育	○
	五嶋 聖治	北海道大院・水産科学	○
O2-X04 27(金) 10:15	小島 望	北海道教育大・教育	
P1-010 26(木) Poster	小清水 ゆきの	茨城大・理工学	
O1-Y06 26(木) 10:45	小関 右介	北大・FSC	○
P3-112c 28(土) Poster	後藤 章	東京大・農学生命	
P1-100 26(木) Poster	後藤 晋	東京大院・農	○
	後藤 美奈子	広島大院・国際協力	○
P2-166c 27(金) Poster	小西 真衣	京都大院・農学	
O1-W09 26(木) 11:30	小沼 明弘	農業技術環境研	○
	小橋 寿美子	東京都立大・理学	
O1-U30 26(木) 16:00	小林 草平	東京大・農学生命科学	
P2-028c 27(金) Poster	小林 泰平	筑波大・環境科学	○
P3-088 28(土) Poster	小林 隆人	山梨環境科学研・動物生態学	○
P3-161 28(土) Poster	小林 達明	千葉大・園芸	
P1-164c 26(木) Poster	小林 知里	京都大・人間環境学	
P1-130c 26(木) Poster	小林 剛	香大・農	○
P1-002 26(木) Poster	小林 元	九州大・北海道演習林	
	小林 春毅	北海道大・FSC	○
S1-3 28(土) 09:30	小林 誠	立正大院・地球環境科学	○
	小林 万里	日本学術振興会特別研究員	○
P1-035c 26(木) Poster	小林 美絵	明治大院・農学	○
P2-043 27(金) Poster	小林 幹夫	宇都宮大・農	
P3-003 28(土) Poster	小林 豊	京都大・生態学研究センター	○
S3-4 26(木) 14:30	小平 真佐夫	知床財団	○

講演・日時	名前	所属	懇親会
P3-010 28(土) Poster	小南 陽亮	静岡大・教育	○
P3-181c 28(土) Poster	小宮 竹史	京都大・理学	
O1-Z03 26(木) 10:00	小山 耕平	京都大院・農学	○
P1-119 26(木) Poster	今 博計	北海道立林業試験場	○
P1-070c 26(木) Poster	近藤 千真	京都大・農学	○
P2-042 27(金) Poster	近藤 圭	(株) セ・プラン	
	近藤 大介	岐阜大	
	近藤 高貴	大阪教育大・自然研究	○
O2-W04 27(金) 10:15	近藤 倫生	龍谷大・理工	
P1-076c 26(木) Poster	近藤 美由紀	岐阜大・流域圏科学研究センター	○
O1-W23 26(木) 14:15	今野 浩太郎	農業生物資源研・昆虫	○
P2-105 27(金) Poster	紺野 康夫	帯広畜産大・環境総合科学	○
P2-039 27(金) Poster	今野 泰史	岩手大院・農学	○
P3-173c 28(土) Poster	西城 洋	大阪市立自然史博物館	○
P3-056 28(土) Poster	斎藤 和範	北海道立旭川高等看護学院	○
	齊藤 隆	北海道大・FSC	○
P1-001 26(木) Poster	齋藤 隆実	大阪大院・理	
O1-Z07 26(木) 11:00	齋藤 雄久	筑波大・博士課程	
O1-W01 26(木) 09:30	齊当 史恵	ドリスジャパン (株)	○
P3-090 28(土) Poster	齊藤 悠	明治大院・農学	
	齋藤 芳郎	山形大院・理工	
	三枝 舞	筑波大	○
O2-Z02 27(金) 09:45	酒井 聡樹	東北大・生命科学	○
P1-103 26(木) Poster	酒井 章子	京都大・生態学研究センター	
P1-077c 26(木) Poster	酒井 徹	岐阜大・流域圏化学研究センター	○
	坂井 規浩	信州大・繊維	○
P1-185c 26(木) Poster	酒井 将義	広島大院・国際協力	○
P1-006 26(木) Poster	坂田 剛	北里大・一般教育部	○
P2-091 27(金) Poster	坂田 はな	東大・広域システム	○
O2-X07 27(金) 11:00	坂田 宏志	兵庫県立大・自然環境科学研	○
P2-033c 27(金) Poster	坂本 信介	東京都立大・動物生態学	○
O1-Y02 26(木) 09:45	坂本 正樹	信州大・山地下水環境教育研究センター	○
O1-Z22 26(木) 14:00	崎尾 均	埼玉・農総研	○
P1-168c 26(木) Poster	向坂 幸雄	信州大・理	○
P3-101 28(土) Poster	佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館	○

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
	佐久間 智子	中外テクノス(株)	○		芝田 史仁	和歌山信愛女子短期大	○
P1-031c 26(木) Poster	佐久間 祐子	北海道大院・農学	○	P1-091 26(木) Poster	柴山 弓季	東京大院・農学生命科学	○
P2-032c 27(金) Poster	桜井 玄	九州大院・理		P2-098 27(金) Poster	渋野 拓郎	西海区水産研・石垣支所	
P2-095 27(金) Poster	桜谷 保之	近畿大・農	○	P2-022c 27(金) Poster	島 絵里子	北海道大・FSC	○
S9-4 26(木) 09:30	笹岡 達男	環境省自然環境局			島田 和則	森林総研	○
O1-U28 26(木) 15:30	佐々木 晶子	広島大院・生物圏	○	P3-019 28(土) Poster	島田 卓哉	森林総研・関西支所	○
O2-U09 27(金) 11:30	佐々木 顕	九州大院・理学	○	S6-4 26(木) 14:30	島谷 健一郎	統計数理研	○
P2-010 27(金) Poster	佐々木 健志	琉球大・資料館	○	P2-152 27(金) Poster	嶋村 鉄也	京大・アジア	
P3-140 28(土) Poster	佐々木 尚子	京大院・農		P1-129c 26(木) Poster	清水 健	京大院・農	○
P2-141 27(金) Poster	笹木 義雄	京都大院・地球環境学舎	○	O1-X07 26(木) 11:00	清水 孝彰	NPO 白山の自然を考える会	
P3-061 28(土) Poster	佐瀬 正	千葉大・理	○	P3-014 28(土) Poster	清水 祐美	茨城大・理	
O2-Y09 27(金) 11:30	佐竹 暁子	京都大・生態学研究センター	○		清水 善和	駒澤大・文	
O2-W09 27(金) 11:30	佐藤 綾	京大・動物			下田 路子	東和科学・(株)生物	○
P3-158 28(土) Poster	佐藤 一憲	静岡大・工		O1-Y32 26(木) 16:30	下野 綾子	東京大院・農学生命科学	○
P2-168c 27(金) Poster	佐藤 佳奈子	新潟大院・自然科学		O1-U27 26(木) 15:15	賈 書剛	岐阜大・流域圏科学研究センター	○
S4-2 27(金) 09:30	佐藤 謙	北海学園大・工	○	P1-083c 26(木) Poster	周 承進	広島大院・生物圏科学	○
P3-175c 28(土) Poster	佐藤 孝司	弘前大院・農学生命科学		P1-044 26(木) Poster	首藤 勝之	広島大・生物圏科学	
O1-Y03 26(木) 10:00	佐藤 孝則	天理大・おやさと研・自然	○	O1-V26 26(木) 15:00	朱宮 丈晴	日本自然保護協会	○
P1-127c 26(木) Poster	佐藤 琢	北大院・水産		O1-X08 26(木) 11:15	小路 敦	九州沖縄農業研究センター	○
	佐藤 匠	広島大院・国際協力	○	P1-042 26(木) Poster	上村 真由子	神戸大・自然科学	
O1-U09 26(木) 11:30	佐藤 保	森林総研		O1-X02 26(木) 09:45	白井 洋一	農業環境技術研	
O1-U01 26(木) 09:30	佐藤 永	地球フロンティア研究システム	○	P2-120c 27(金) Poster	白賀 誠之	北海道大院・水産科学	○
P2-123c 27(金) Poster	佐藤 博俊	京都大・生態学研究センター	○	P3-077 28(土) Poster	白川 勝信	高原の自然館	○
O1-U07 26(木) 11:00	里村 多香美	京大・生態研	○	P2-109c 27(金) Poster	城本 啓子	近畿大・農	○
	佐野 淳之	鳥取大・農	○		真保 藍子	新潟市	○
P1-148c 26(木) Poster	佐野 智一	静岡大・農	○	P3-123c 28(土) Poster	神保 剛	鳥取大院・農学	
O1-W04 26(木) 10:15	鮫島 弘光	京都大・生態学研究センター	○	O1-X31 26(木) 16:15	須賀 丈	長野県環境保全研	
P1-157c 26(木) Poster	澤田 佳宏	岐阜大・流域圏科学研究センター	○	P3-034c 28(土) Poster	杉浦 真治	京都大院・人間環境学	
P1-112 26(木) Poster	佐原 雄二	弘前大・農学生命科		P2-005 27(金) Poster	杉浦 秀樹	京都大・霊長類研	○
	椎名 佳の美	酪農学園大・環境システム	○	S10-2 26(木) 14:30	杉尾 哲	宮崎大・工	
	志賀 隆	神戸大・自然科学	○	S9-5 26(木) 09:30	杉尾 伸太郎	(株)ブラック研	
O1-W08 26(木) 11:15	茂田 幸嗣	広島市	○	P1-123 26(木) Poster	杉阪 次郎	神戸大院・自然科学	
P2-049 27(金) Poster	繁宮 悠介	長崎総合科学大		P2-012 27(金) Poster	杉田 典正	立教大・理学	
	柴田 英美	明治大院・農学		O2-W11 27(金) 12:00	杉田 久志	森林総研・東北	○
P1-030c 26(木) Poster	柴田 隆紀	北海道大・農学		P1-017 26(木) Poster	杉山 修一	弘前大	

講演・日時	名前	所属	懇親会
P3-082 28(土) Poster	杉山 昇司	明治大・農	
P1-142c 26(木) Poster	諏佐 晃一	筑波大・環境科学	○
	鈴木 玲	雪印種苗(株)環境緑化本部	○
P3-136c 28(土) Poster	鈴木 克哉	北海道大院・文学	○
	鈴木 智之	東京都立大院・理学	○
	鈴木 準一郎	東京都立大・理学	
P3-018 28(土) Poster	鈴木 俊介	滋賀県立大院・環境科学	
P2-145 27(金) Poster	鈴木 伸一	(財)国際生態学センター	
P2-070c 27(金) Poster	鈴木 節子	名古屋大院・生命農学	○
O1-W30 26(木) 16:00	鈴木 孝男	東北大院・生命科学	
P3-124c 28(土) Poster	鈴木 卓磨	静岡大・農学	○
P3-093 28(土) Poster	鈴木 透	EnVision 環境保全事務所	
	鈴木 創	小笠原自然文化研	
P3-085 28(土) Poster	鈴木 牧	兵庫県立大・自然環境科学研	○
P2-110c 27(金) Poster	鈴木 まほろ	岩手県立博物館	○
P1-150c 26(木) Poster	鈴木 由佳	東北大・生命科学	○
P3-164c 28(土) Poster	鈴木 ゆかり	筑波大・生命環境科学	○
O1-U11 26(木) 12:00	鈴木 力英	地球フロンティア研究シス テム	○
O1-Y29 26(木) 15:45	鈴木 亮	都立大院・生物	○
P2-129 27(金) Poster	鈴木 和次郎	森林総研	
P2-027c 27(金) Poster	角 恵理	東京大院・総合文化	
	隅田 明洋	北海道大・低温科学	○
	陶山 佳久	東北大院・農	○
O1-V30 26(木) 16:00	清野 達之	京都大・生態学研究センター	○
P1-110 26(木) Poster	関 剛	森林総研・東北支所	○
P1-052 26(木) Poster	関川 清広	玉川大・農	○
	関島 恒夫	新潟大院・自然科学	○
	関谷 義男	新潟大	○
P2-029c 27(金) Poster	瀬戸山 雅人	東京大・総合文化	○
	曾出 信宏	岐阜大・流域圏科学研究セ ンター	○
	園田 里絵	セブン・イレブンみどりの 基金	○
P3-064 28(土) Poster	孫田 敏	(有)アークス	○
S12-2 27(金) 09:30	高川 晋一	東京大・農学生命科学	
S11-5 27(金) 09:30	高島 美登里	長島の自然を守る会	○
P3-150 28(土) Poster	田頭 直樹	(株)建設技術研・東京本社	

講演・日時	名前	所属	懇親会
	高須 夫悟	奈良女子大・理	
	高田 克彦	秋田県立大・木材高度加工研	
	高田 壮則	道東海大・国際文化	○
P3-045 28(土) Poster	高田 雅之	北海道環境科学研究セン ター	
S6-2 26(木) 14:30	高田 まゆら	東大・農	○
P2-093 27(金) Poster	高田 宜武	西海区水研石垣	
P1-048 26(木) Poster	高梨 聡	京都大・農学	○
P3-106 28(土) Poster	高橋 一秋	東京大院・農学生命科学	○
	高橋 智	奈良女子大・人間文化	
P2-017c 27(金) Poster	高橋 大輔	京都大院・理	○
	高橋 英樹	北海道大・総合博物館	
	高橋 裕史	北大獣医生態	○
O2-Y05 27(金) 10:30	高橋 誠	林木育種センター	○
P2-074c 27(金) Poster	高橋 誠	北大水産科学	○
	高橋 佑磨	筑波大・生物学類	○
O2-U06 27(金) 10:45	高原 輝彦	京都工芸繊維大院・工芸科学	○
	高原 光	京都府大院・農	
O1-Y25 26(木) 14:45	高見 泰興	京都大・理	○
P3-069 28(土) Poster	高村 健二	(独)国立環境研	○
S12-3 27(金) 09:30	高村 典子	国立環境研	○
	高柳 絵美子	筑波大院・生命環境科学	○
	高山 末吉	釧路自然保護協会	○
	高山 肇	阿寒町役場まちづくり推進 課	
	田川 哲	高知大・自然環境科学専攻	○
O1-Y24 26(木) 14:30	瀧本 岳	北海道大・苫小牧研究林	○
P2-037 27(金) Poster	滝谷 美香	北海道立林業試験場	
P2-075c 27(金) Poster	竹内 勇一	京都大院・理学	○
P1-134c 26(木) Poster	武士 謙一	新潟大院・自然科学	○
O1-Z25 26(木) 14:45	竹田 真知子	滋賀県立大院・環境科学	
P3-139 28(土) Poster	竹中 明夫	国立環境研	○
	武中 桂	北海道大院・文学	
O1-W07 26(木) 11:00	竹中 宏平	北大・地球環境	○
P1-115 26(木) Poster	竹中 践	北海道東海大・教育開発研 究センター	
P1-186c 26(木) Poster	竹原 明秀	岩手大・人文社会科	
P2-007 27(金) Poster	竹村 菜穂	滋賀県立大院	

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
S5-3 26(木) 09:30	竹門 康弘	京都大・防災研	○	P1-032c 26(木) Poster	長 美智子	京都大院・農学	
	橘 ヒサ子	北教大・旭川		P3-035c 28(土) Poster	槻木 玲美	京都大・生態学研究センター	
P2-125c 27(金) Poster	橘 隆一	(株) 井上政商店	○	O1-Z26 26(木) 15:00	辻 祥子	京都大・生態学研究センター	○
O1-Y05 26(木) 10:30	立川 賢一	東大海洋研	○	P1-021 26(木) Poster	辻 ねむ	阿寒湖畔 EMC	○
O2-X08 27(金) 11:15	立澤 史郎	北海道大院・文学	○	P3-024c 28(土) Poster	辻 大和	東京大院・農	○
	立石 貴浩	岩手大・農	○	P1-124 26(木) Poster	辻沢 央	東北大院・生命科学	
P1-117 26(木) Poster	舘野 正樹	東京大院・理学系	○	P3-028c 28(土) Poster	辻田 香織	京都大院・農学	○
P1-104 26(木) Poster	舘野 隆之輔	総合地球環境学研	○	P2-118c 27(金) Poster	辻野 昌広	千葉大院・自然科学	
O2-X06 27(金) 10:45	田戸 裕之	山口県林業指導センター		P1-159c 26(木) Poster	辻野 亮	京都大・生態学研究センター	
P2-169c 27(金) Poster	田中 厚志	茨城大・理	○		辻村 東國	山形大・理	○
O1-X30 26(木) 16:00	田中 健太	北海道大・FSC 苫小牧研究 林	○	S12-6 27(金) 09:30	津田 智	岐阜大・流域圏セ	○
P2-035c 27(金) Poster	田中 晋吾	京大・農	○	P1-034c 26(木) Poster	津田 元	北海道大・低温科学研	
P1-162c 26(木) Poster	田中 武志	京都大院・工学	○		土田 勝義	信州大・農	
O1-Z04 26(木) 10:15	田中 格	山梨県森林総研			土田 浩治	岐阜大・応用生物科	
P2-116c 27(金) Poster	田中 洋	名古屋大院・生命農学	○		土屋 泉	新潟	
S4-5 27(金) 09:30	田中 正人	様似町アポイ岳ビジターセ ンター		O2-Z05 27(金) 10:30	土屋 香織	東京都立大院・理学	○
O2-W03 27(金) 10:00	田中 嘉成	中央大・経済	○		土谷 岳令	千葉大・理	○
	田中 良典	東京大・農学生命科学		S7-2 28(土) 09:30	津村 義彦	森林総研	○
O1-V10 26(木) 11:45	田中 義幸	東京大・海洋研		P1-173 26(木) Poster	津森 正則	信州大院・農学	
P1-056c 26(木) Poster	谷 友和	北大・地球環境		P2-071c 27(金) Poster	鶴田 燃海	岐阜大院・連農	
	谷川 敦子	東京農工大・植生管理学	○	P2-047 27(金) Poster	出店 映子	千葉大院・自然科学	
P2-142 27(金) Poster	谷本 丈夫	宇都宮大・農	○		寺内 聡	北海道釧路市	
P1-028c 26(木) Poster	種子田 春彦	東京大院・日光植物園	○	P1-160c 26(木) Poster	寺川 眞理	奈良教育大・教育学	○
O1-V29 26(木) 15:45	田内 裕之	森林総研			寺澤 和彦	北海道立林業試験場	○
P1-033c 26(木) Poster	田畑 あずさ	北海道大・低温科学研		P3-040c 28(土) Poster	寺西 眞	京都大・生態学研究センター	○
O1-V27 26(木) 15:15	玉井 重信	鳥取大乾地研セ		P1-059c 26(木) Poster	土居 秀幸	東北大院・生命科学	○
	玉置 祐子	神戸大・自然科学	○	P1-085c 26(木) Poster	土井 裕介	京都大・農学	
P3-058 28(土) Poster	玉田 克巳	北海道環境科学研究セン ター	○	P3-023c 28(土) Poster	東樹 宏和	京都大・理	
O2-Z10 27(金) 11:45	玉手 剛	北大 FSC		P2-114c 27(金) Poster	東條 達哉	近畿大・農	○
S5-2 26(木) 09:30	陀安 一郎	京都大・生態学研究センター	○	P3-022 28(土) Poster	遠坂 康彦	京都大院・農学	○
P1-055c 26(木) Poster	檀浦 正子	神戸大院・自然科学		P2-083c 27(金) Poster	遠山 貴之	筑波大・院生命環境科学	○
	千葉 かおり	(財) 自然環境研究センター		P1-145c 26(木) Poster	遠山 弘法	九州大・理	○
O2-U02 27(金) 09:45	千葉 晋	東京農大・生物産業	○	P1-121 26(木) Poster	戸金 大	明治大院・農学	
O1-U32 26(木) 16:30	千葉 幸弘	森林総研	○	S3-1 26(木) 14:30	常田 邦彦	自然環境研究センター	○
O1-W35 26(木) 17:15	張 光玄	信州大・山地下水環境教育研 究センター	○	L2-2,P2-	時田 恵一郎	大阪大	○
				O86 27(金) 12:30			

講演・日時	名前	所属	懇親会
	徳永 恵美	佐賀大院・農学	
	徳永 幸彦	筑波大院・生命環境科学	○
P1-045 26(木) Poster	戸田 求	北海道大・低温科学研	
P1-101 26(木) Poster	戸田 裕子	近畿大・農	○
	土畑 重人	東京大・広域システム	○
	土畑 正和	横国大院・環境情報	
S1-1 28(土) 09:30	戸丸 信弘	名古屋大院・生命農学	○
	富沢 日出夫	浜中町役場	
O1-X21 26(木) 13:45	富田 啓介	名古屋大・環境	
P2-040 27(金) Poster	富田 瑞樹	横国大院・環境情報	
P1-038c 26(木) Poster	富松 元	茨城大・理	○
P1-086 26(木) Poster	富山 清升	鹿児島大・理	○
P3-145 28(土) Poster	豊田 貴樹	(社) 海外林業コンサルタン ツ協会	
P2-045 27(金) Poster	鳥丸 猛	名古屋大院・生命農	○
P3-083 28(土) Poster	内藤 和明	兵庫県立大・自然研	○
P1-136c 26(木) Poster	内藤 洋子	京大院・農	○
	仲 陽子	東京農工大・植生管理学	
	中 涼子	八王子市役所	
S7-6 28(土) 09:30	永井 美穂子	東大院・農学生命科学	
P2-135 27(金) Poster	長池 卓男	山梨県森林総研	
P1-172 26(木) Poster	仲岡 雅裕	千葉大院・自然科学	○
	中川 元	斜里町立知床博物館	
P2-096 27(金) Poster	中川 弥智子	総合地球環境学研	○
S9-2 26(木) 09:30	中越 信和	広島大院・国際協力	○
P3-032c 28(土) Poster	長坂 有	北海道立林業試験場	○
P2-073c 27(金) Poster	仲沢 剛史	京都大・生態学研究センター	○
P1-009 26(木) Poster	中路 達郎	国立環境研・地球環境研究 センター	
S2-1 26(木) 14:30	中静 透	総合地球環境学研	○
P2-139 27(金) Poster	長島 啓子	広島大院・国際協力	○
P1-165c 26(木) Poster	中島 弘起	京都大院・農学	
P1-013 26(木) Poster	長嶋 寿江	東京大・日光植物園	○
O1-W33 26(木) 16:45	中島 久男	立命館大・理工	○
S8-1 26(木) 09:30	中島 秀敏	国土地理院・地理調査部	
P3-108c 28(土) Poster	中島 真紀	東京大・保全生態学	
O1-Y07 26(木) 11:00	中嶋 美冬	東大・海洋研	○

講演・日時	名前	所属	懇親会
S8-3 26(木) 09:30	中瀬 浩太	(株) 五洋建設	○
	中田 兼介	東京経済大	○
	永田 俊	京都大・生態学研究センター	○
P3-097 28(土) Poster	永田 尚志	(独) 国立環境研・生物多様 性研究	○
	中塚 武	北海道大・低温科学研	○
	中坪 孝之	広島大院・生物圏	○
O1-V05 26(木) 10:30	中西 正	豊橋高校	○
O1-U26 26(木) 15:00	中西 理絵	京都大・農学	○
P3-063 28(土) Poster	中根 周歩	広島大・生物圏科学	○
O1-X05 26(木) 10:30	中根 伸昌	広島大院・生物圏科学	○
P3-007 28(土) Poster	中野 千賀	東京大・農学生命科学	
O1-Z29 26(木) 15:45	中野 真理子	金沢大・自然計測応用研究 センター	
	長野 康之	東京環境工科専門学校	
P2-097 27(金) Poster	永松 大	鳥取大・地域	○
O1-Y21 26(木) 13:45	中丸 麻由子	静岡大・工	○
P2-078c 27(金) Poster	中道 康文	筑波大院・生命環境科学	○
P1-087 26(木) Poster	永光 輝義	森林総研・北海道	○
P3-021 28(土) Poster	中村 彰宏	大阪府立大院・農学生命科学	○
P1-125 26(木) Poster	中村 智	筑波大・生命環境科学	○
	中村 隆俊	北海道教育大・釧路校	
P3-166c 28(土) Poster	中村 琢磨	京都府立大・農	○
P3-031c 28(土) Poster	中村 仁	山形大・農	
P2-101 27(金) Poster	中村 寛志	信州大・農	○
	中村 太士	北大・農学	
P1-082c 26(木) Poster	中村 雅子	(財) ホシザキグリーン財団・ 鳥取大院	○
	中村 誠宏	北海道大・低温科学研	
P2-052 27(金) Poster	中村 康弘	岐阜県立森林文化アカデ ミー	○
P2-079c 27(金) Poster	中村 有	東邦大・院理学	○
	中村 幸人	東京農業大・地域環境科	○
O1-Y30 26(木) 16:00	中村 亮二	東京都立大院・理学	○
O1-W10 26(木) 11:45	中本 雪絵	帯広畜産大院・緑地学	
P1-114 26(木) Poster	名倉 京子	京都大・生態学研究センター	○
P3-171c 28(土) Poster	那須 浩郎	国際日本文化研究センター	
S6-6 26(木) 14:30	夏原 由博	大阪府立大院・農学生命科学	○
P3-148 28(土) Poster	名取 俊樹	国立環境研・生物圏環境	

講演・日時	名前	所属	懇親会
O2-Y04 27(金) 10:15	名波 哲	大阪市立大院・理学	○
P1-062c 26(木) Poster	鍋嶋 絵里	北大・苫小牧研究林	○
O1-Z09 26(木) 11:30	奈良 一秀	東京大・アジア生物資源環境研究センター	
P3-154 28(土) Poster	成田 亮	京都大院・農学	○
P3-113c 28(土) Poster	成瀬 朝美	帯広畜産大・生態系保護学	○
P2-089 27(金) Poster	難波 利幸	大阪女子大・理	○
	新居 洋吾	筑波大・生物学類	○
	新妻 靖章	名城大・農	
O1-V28 26(木) 15:30	新山 馨	森林総研・森林植生	○
P2-004 27(金) Poster	西 信介	鳥取県林業試験場	
P2-153 27(金) Poster	西上 愛	科学技術振興機構	○
O1-X04 26(木) 10:15	西川 潮	国立環境研	○
S4-4 27(金) 09:30	西川 洋子	北海道環境科学研究センター	
	西口 有紀	東京大・保全生態学	
	西田 貴明	京都大・生態学研究センター	○
P1-133c 26(木) Poster	西田 健志	新潟大院・自然科学	○
P1-105 26(木) Poster	西谷 里美	日本医科大・生物学教室	
P2-111c 27(金) Poster	西野 晃子	東北大・生命科学	○
S8-2 26(木) 09:30	西野 麻知子	滋賀県琵琶湖研	
P2-144 27(金) Poster	西畑 敦子	鳥取大・院農学	
O1-X33 26(木) 16:45	西原 昇吾	東京大・農学生命科学	○
S12-1 27(金) 09:30	西廣 淳	東京大・農学生命科学	○
O2-Z03 27(金) 10:00	西村 欣也	北海道大院・水産科学	○
O1-U23 26(木) 14:15	西村 誠一	農業環境技術研	○
	西村 千穂	北海道大院・北方森林保全学	○
	西村 麻利子	東邦大・理	○
	丹羽 慈	横浜国立大院・環境情報	
P3-062 28(土) Poster	丹羽 真一	さっぽろ自然調査館	○
P2-149 27(金) Poster	丹羽 忠邦	筑波大・環境科学	○
P2-163c 27(金) Poster	根本 真理	東京農工大院・連農	○
P1-167c 26(木) Poster	野口 和貴	北越パッケージ(株)	○
P2-161c 27(金) Poster	野口 麻穂子	北海道大院・農学	○
	野寄 玲児	神戸女学院大・人間科学	
S6-1 26(木) 14:30	野田 隆史	北大・水産	○
O1-Z24 26(木) 14:30	野田 響	東京大院・農学生命科学	○

講演・日時	名前	所属	懇親会
O1-V20 26(木) 13:30	野田 浩	東京農工大院・連農	○
S8-4 26(木) 09:30	野原 精一	国立環境研・生物圏環境	○
S11-6 27(金) 09:30	野間 直彦	滋賀県立大・環境	○
P1-169 26(木) Poster	野宮 治人	森林総研	○
	野村 敏江	京都府立大・農学	
P3-086 28(土) Poster	野村 康弘	明治大院・農学	
	野谷 靖浩	(財)リバーフロント整備センター	
	野呂 美紗子	(社)北海道開発技術センター	
P2-119c 27(金) Poster	萩野 友聡	北海道大・水産学	○
P1-040 26(木) Poster	橋本 徹	森林総研・東北支所	
P3-168c 28(土) Poster	橋本 啓史	京都大院・農学	○
	橋本 靖	帯広畜産大・環境総合科学	○
P3-122c 28(土) Poster	橋本 佳延	兵庫県立人と自然の博物館	○
P2-164c 27(金) Poster	長谷川 成明	北大院・地球環境	○
P3-029c 28(土) Poster	長谷川 夏樹	北海道大院・理学	○
O1-W02 26(木) 09:45	長谷川 雅美	東邦大・理	○
P3-121c 28(土) Poster	畑 憲治	都立大院・理	○
	波田 善夫	岡山理科大・総合情報	○
	畠山 紘	福島大院・教育学	
P3-096 28(土) Poster	畠瀬 頼子	(財)自然環境研究センター	
P3-025c 28(土) Poster	畑田 彩	里山科学館・越後松之山「森の学校」キョロロ	○
P3-127c 28(土) Poster	波多野 圭亮	京都大院・工学	○
	波多野 玄	東京農工大	○
O2-V03 27(金) 10:00	服部 昭尚	滋賀大・教育	○
	花里 孝幸	信州大・山地水環境教育研究センター	○
S11-1 27(金) 09:30	馬場 繁幸	琉球大・農	
O2-X01 27(金) 09:30	馬場 芳之	九州大院・比較社会文化	○
P1-184c 26(木) Poster	浜崎 健児	農業環境技術研	○
P3-011 28(土) Poster	浜田 知宏	滋賀県立大院・環境科学	○
O2-W07 27(金) 11:00	林 珠乃	京都大・生態学研究センター	
	林 寿則	(財)国際生態学センター	
P2-059c 27(金) Poster	林 真子	琉球大・農	
O1-W31 26(木) 16:15	林 亮太	東大海洋研	○
P3-178c 28(土) Poster	林 竜馬	京都府大院・農	
P3-012 28(土) Poster	林田 光祐	山形大・農	

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
	原 登志彦	北海道大・低温科学研	○	P1-078c	福澤 加里部	北海道大院・農学	
P2-133 27(金) Poster	原 正利	千葉県立中央博物館	○	26(木) Poster			
	原田 幸子	東京都立大・動物生態学	○	P1-066c	福島 慶太郎	京都大院・農学	○
	伴 修平	滋賀県立大	○	26(木) Poster			
O1-Z02 26(木) 09:45	韓 慶民	森林総研・植物生態			福島 司	東京農工大・農	
P1-107 26(木) Poster	半田 孝俊	林木育種センター	○	S10-1	福島 雅紀	国土交通省・国土技術政策 総研	
	日浦 勉	北大・苫小牧研究林	○	26(木) 14:30			
P3-144 28(土) Poster	比嘉 基紀	高知大院・理	○	S2-4	福島 路生	(独) 国立環境研	○
O2-Z12 27(金) 12:15	樋口 亜紀	早稲田大・教育		26(木) 14:30			
P3-094 28(土) Poster	樋口 広大	明治大院・農学		O2-X11	福田 朱里	筑波大・生命環境科学	○
O1-Y04 26(木) 10:15	樋口 広芳	東京大院・農学生命科学	○	27(金) 12:00			
P1-069c 26(木) Poster	菱 拓雄	京都大院・農学	○		福山 研二	森林総研	○
P3-038c 28(土) Poster	日野 貴文	北海道大院・農	○	P1-132c	藤木 大介	京都大院・農学	
P3-067 28(土) Poster	日野 輝明	森林総研・関西支所	○	26(木) Poster			
O1-X34 26(木) 17:00	平井 利明	愛媛大・農			藤田 志歩	岐阜大・応用生物	○
	平井 康幸	国土交通省北海道開発局釧 路開発建設部		P3-039c	藤田 淳一	信州大・工学系	
	平尾 章	北大院・地球環境	○	28(土) Poster			
P2-128c 27(金) Poster	平尾 聡秀	北海道大・苫小牧研究林	○	O1-X09	藤田 昇	京都大・生態学研究センター	○
P2-068c 27(金) Poster	平尾 知士	秋田県大院		26(木) 11:30			
P3-142 28(土) Poster	平川 浩文	森林総研・北海道支所	○	O2-W08	藤田 正雄	(財) 自然農法国際研究開発 センター	○
	平田 剛士	フリーランス記者		27(金) 11:15			
O1-Z28 26(木) 15:30	平田 聡之	北大・FSC		O1-V07	藤野 毅	埼玉大	
P3-033c 28(土) Poster	平田 真規	北海道大・地球環境科学		26(木) 11:00			
P3-070 28(土) Poster	平塚 雄三	横浜国立大院・環境情報		P1-188c	藤原 直子	豊橋市自然史博物館	○
	平野 高司	北海道大院・農学		26(木) Poster			
P1-147c 26(木) Poster	平野 みお	京都大・農学		P1-176	藤原 道郎	兵庫県立大	○
O1-W05 26(木) 10:30	平林 結実	北海道大院・地球環境	○	26(木) Poster			
	平山 亜希子	福井県自然保護センター	○	P1-138c	藤巻 玲路	京大院・農	
P1-092 26(木) Poster	平山 貴美子	森林総研・関西	○	26(木) Poster			
O1-V02 26(木) 09:45	蛭間 啓	東京農工大・連農	○	P2-158c	藤村 善安	北大院・農	○
	深澤 圭太	筑波大・生物資源学類	○	27(金) Poster			
P3-049 28(土) Poster	福井 晶子	日本野鳥の会		P3-104	藤山 静雄	信州大・理	
P3-147 28(土) Poster	福井 眞	東大・広域システム	○	28(土) Poster			
P2-113c 27(金) Poster	福井 大	北大苫小牧研究林	○	O1-W24	藤山 直之	北海道教育大・教育	○
P3-117c 28(土) Poster	福江 陽子	筑波大・生命環境科学	○	26(木) 14:30			
				S1-7	藤原 一繪	横浜国立大院・環境情報	○
				28(土) 09:30			
					船越 翔	東京大・農学生命科学	
				P3-135c	船越 美穂	京都大・霊長類研	○
				28(土) Poster			
				O1-Y01	舟越 善隆	(株) 東海アクアノーツ	
				26(木) 09:30			
				O2-X02	布野 隆之	新潟大院・自然科学	○
				27(金) 09:45			
				P3-043	布和 敖斯尔	北海道環境科学研究セン ター	
				28(土) Poster			
					古川 昭雄	奈良女子大	○
				P3-002	古澤 仁美	森林総研・関西支所	
				28(土) Poster			
					戸来 吏絵	ミュージアムパーク茨城県 自然博物館	○
					北條 賢	京都工芸繊維大・工芸科学	○
					北條 良敬	筑波大院・生命環境科学	○
				S1-5	星野 義延	東京農工大・農	○
				28(土) 09:30			
					星野・今給黎	順星野フィールドサイエンス 子	○
					細 将貴	京大・AA 研	
					細井 栄嗣	山口大・農	
					細井 和也	岐阜大	

講演・日時	名前	所属	懇親会
P2-024c 27(金) Poster	細川 貴弘	産総研・生物機能工学	○
	細木 大輔	明治大・農	○
O1-U04 26(木) 10:15	保原 達	国立環境研・地球環境研究センター	
P1-118 26(木) Poster	保谷 彰彦	東京大院・広域システム	
	堀 正和	東京大院・農学生命科学	○
P1-004 26(木) Poster	堀 良通	茨城大・理	○
	堀口 恵利子	福島大院・教育学	
	堀越 和夫	NPO 小笠原自然文化研	○
	堀田 はるか	北海道大院・農学	○
S7-3 28(土) 09:30	本城 正憲	筑波大・生命環境	○
P1-113 26(木) Poster	本田 裕紀郎	東大院・農学生命科学	○
O2-U07 27(金) 11:00	本間 淳	京大院・農	○
O2-W12 27(金) 12:15	本間 多恵子	岩手大・院農学	○
O2-Y03 27(金) 10:00	前迫 ゆり	奈良佐保短期大・生態学	○
P1-120 26(木) Poster	前田 桂子	福島大・教育学	○
	前山 絵里	筑波大・生物資源学類	
O2-Y06 27(金) 10:45	蒔田 明史	秋田県立大・生物資源科	○
P3-149 28(土) Poster	牧野 亜友美	京都大院・農学	
P3-177c 28(土) Poster	牧野 真人	北海道立林産試験場	
S2-5 26(木) 14:30	正木 隆	農林水産技術会議事務局	
	正富 宏之	札幌市	
P1-156c 26(木) Poster	正富 欣之	北大・地球環境	
P3-041c 28(土) Poster	増井 直緒	神戸女学院大院・人間科学	
S4-3 27(金) 09:30	増沢 武弘	静岡大・理学	
P3-098 28(土) Poster	増澤 直	NPO 地域自然情報ネットワーク	○
P3-052 28(土) Poster	増田 理子	名工大・社会	
	松井 淳	奈良教育大	○
P1-029c 26(木) Poster	松井 智美	千葉大院・自然科学	○
P2-015c 27(金) Poster	松浦 健二	ハーバード大	○
P3-107c 28(土) Poster	松浦 聡子	筑波大・環境科学	○
	松尾 和人	農業環境技術研・生物環境安全部	
O2-Z07 27(金) 11:00	松尾 洋	東京都立大・理	○
O1-W20 26(木) 13:30	松木 吏弓	電力中央研・環境科学研究所	○
P2-081c 27(金) Poster	松島 野枝	東北大院・生命科学	○
P2-088 27(金) Poster	松田 裕之	横浜国大・環境情報	○

講演・日時	名前	所属	懇親会
	松田 深雪	筑波大・生物資源学類	○
P3-080 28(土) Poster	松田 義徳	秋田県立雄勝高等学校	○
O1-U02 26(木) 09:45	松原 圭	琉球大・理工学	
P3-114c 28(土) Poster	松村 千鶴	東京大・農学生命科学	
O2-W06 27(金) 10:45	松村 正哉	九州沖縄農業研究センター	○
	松村 学	岐阜大・応用生物科	
P1-146c 26(木) Poster	松山 周平	京都大院・農学	○
P2-131 27(金) Poster	真鍋 徹	北九州市立自然史・歴史博物館	○
P2-021c 27(金) Poster	真野 浩行	筑波大・生命環境科学	○
	鞠子 茂	筑波大院・生命環境	○
P3-068 28(土) Poster	丸岡 英生	自然環境研究センター	○
P1-005 26(木) Poster	丸田 恵美子	東邦大・理	
P2-006 27(金) Poster	丸橋 珠樹	武蔵大・人文	○
P2-048 27(金) Poster	丸山 妙子	千葉大院・自然科学	
	丸山 立一	(株) ドーコン	○
P2-112c 27(金) Poster	三浦 昌孝	北海道大院・農学	○
O1-W11 26(木) 12:00	三浦 優子	千葉大・自然科学	
	三上 修	九大・理	○
O1-U33 26(木) 16:45	右田 千春	東京大院・農学生命科学	○
O2-Y07 27(金) 11:00	三嶋 賢太郎	秋田県立大院・木材高度加工研	
O1-U22 26(木) 14:00	三島 慎一郎	農業環境技術研	○
P1-079c 26(木) Poster	三島 啓雄	Natural Resources Research	○
P2-084c 27(金) Poster	水上 留美子	東京農工大・連農	○
	水島 亮子	東京農工大・植生管理学	
P2-009 27(金) Poster	水田 拓	東邦大・理	○
P3-172c 28(土) Poster	水田 勇氣	北海道大院・水産科学	○
P3-119c 28(土) Poster	水谷 瑞希	福井県自然保護センター	○
P2-003 27(金) Poster	水野 敦	信州大・農	
P3-110c 28(土) Poster	水野 文子	宗谷海獣連絡会	○
	水野 敏明	WWF ジャパン	
P3-030c 28(土) Poster	水町 衣里	京都大院・農学	
P3-141 28(土) Poster	溝口 岳男	森林総研木曾	○
P1-098 26(木) Poster	三谷 拓矢	北大・地環研	○
P2-014 27(金) Poster	道前 洋史	北海道大院・理学	○
S6-7 26(木) 14:30	三橋 弘宗	兵庫県立人と自然の博物館	○

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
	南野 一博	道立林業試験場	○		森田 健太郎	水産総合研究センター	
P3-091 28(土) Poster	嶺田 拓也	(独) 農業工学研	○	P3-155 28(土) Poster	守田 益宗	岡山理科大	
	宮川 浩	(財) 自然環境研究センター		P1-099 26(木) Poster	森長 真一	東北大院・生命科学	○
S3-2 26(木) 14:30	宮木 雅美	北海道環境科学研究センター			森廣 信子	(財) 科学教育研究会	
P2-041 27(金) Poster	三宅 彩子	広島大院・生物圏	○	O2-V04 27(金) 10:15	矢ヶ崎 朋樹	(財) 国際生態学センター	
	三宅 洋	愛媛大・工	○	P3-015 28(土) Poster	八木橋 勉	森林総研	
	宮崎 祐子	北大・苫小牧研究林	○	P3-055 28(土) Poster	八坂 通泰	北海道立林業試験場	
P2-053 27(金) Poster	宮崎 由佳	岐阜県立森林文化アカデミー	○	P1-007 26(木) Poster	矢崎 健一	森林総研	
	宮下 直	東大・農	○	O1-V08 26(木) 11:15	矢崎 友嗣	北海道大院・農学	
P3-159 28(土) Poster	宮下 衛	国立環境研		P1-074c 26(木) Poster	八代 裕一郎	岐阜大・流域圏科学研究センター	○
	宮島 悠	信州大	○	P3-048 28(土) Poster	安岡 宏和	京都大・アジア	
O2-X09 27(金) 11:30	宮田 浩	愛媛大院・理	○	P3-050 28(土) Poster	安田 雅俊	森林総研・鳥獣生態	
O1-X06 26(木) 10:45	宮武 晃司	国土交通省・河川局		P1-065c 26(木) Poster	安村 有子	東北大・生命	
P2-062c 27(金) Poster	宮本 和樹	森林総研関西	○	P3-180c 28(土) Poster	安元 暁子	九州大院・理	○
P2-159c 27(金) Poster	宮本 尚子	北海道育種場		S5-1 26(木) 09:30	谷内 茂雄	総合地球環境学研	○
O1-W32 26(木) 16:30	宮本 康	京大・生態研センター	○	P1-051 26(木) Poster	柳井 清治	北海道工業大・環境デザイン	○
P2-026c 27(金) Poster	三好 和貴	北海道大・地球環境科学		P1-158c 26(木) Poster	柳 真一	岡山大・農	○
	向井 宏	北海道大・FSC 厚岸臨海	○	P2-058c 27(金) Poster	矢野 慶介	林木育種センター	○
P1-023c 26(木) Poster	村岡 裕由	岐阜大・流域圏科学研究センター	○	S10-3 26(木) 14:30	矢原 徹一	九州大院・理学	○
	村上 興正	同志社大・工学	○	O1-X26 26(木) 15:00	矢部 徹	(独) 国立環境研・生物圏環境	○
P2-107 27(金) Poster	村上 正志	北海道大・苫小牧研究林	○	O2-U03 27(金) 10:00	山内 淳	京大・生態学研究センター	○
O1-V01 26(木) 09:30	村上 雄秀	(財) 国際生態学センター		O1-Y31 26(木) 16:15	山内 綾香	筑波大・生命環境科学	
P1-187c 26(木) Poster	村田 野人	岩手大・院			山岸 哲	(財) 山階鳥類研	○
P3-046 28(土) Poster	村中 孝司	東大・農		P1-144c 26(木) Poster	山岸 洋貴	北海道大院・地球環境科学	○
O2-U01 27(金) 09:30	室山 泰之	京都大・霊長研	○	P1-182c 26(木) Poster	山北 剛久	千葉大・理	○
P2-060c 27(金) Poster	目黒 伸一	(財) 国際生態学センター			山口 幸	奈良女子大・理	
P3-152 28(土) Poster	舞木 昭彦	北海道大院・水産科学	○		山口 達也	神戸大院・自然科学	
	最上 祥成	信州大院・森林科学専攻		P3-008 28(土) Poster	山口 恭弘	中央農業総合研究センター	○
O1-Z32 26(木) 16:30	森 早苗	大阪市立大		P1-097 26(木) Poster	山崎 梓	京都大院・農学	○
	森 茂太	森林総研・東北支所	○	P3-126c 28(土) Poster	山崎 健介	日本大・生産工	
O1-W29 26(木) 15:45	森 照貴	北海道大院・農学	○		山崎 尚人	(独) 農薬検査所	
O1-Z33 26(木) 16:45	森 洋佑	北大・地球環境	○	O1-W21 26(木) 13:45	山崎 理正	京都大・農学	
O2-U08 27(金) 11:15	森阪 匡通	京都大院・理学	○	P1-027c 26(木) Poster	山路 恵子	森林総研・東北支所	○
O1-V21 26(木) 13:45	森定 伸	(株) ウエスコ・環境計画部	○	P2-115c 27(金) Poster	山下 聡	名古屋大院・生命農学	○
P2-064c 27(金) Poster	森下 和路	京大院・農	○		P1-170 26(木) Poster	山下 慎吾	○

講演・日時	名前	所属	懇親会	講演・日時	名前	所属	懇親会
P2-151 27(金) Poster	山下 寿之	富山県中央植物園	○		吉川 正人	東京農工大・共生科学技術 研究部	
P3-102 28(土) Poster	山下 直子	森林総研・北海道支所		O1-Y10 26(木) 11:45	吉田 勝彦	国立環境研・生物多様性	
P3-100 28(土) Poster	山田 彩	京都大・霊長研	○	P2-137 27(金) Poster	吉田 俊也	北海道大・雨龍研究林	○
P2-117c 27(金) Poster	山田 勝雅	千葉大院・自然科学		P2-050 27(金) Poster	吉田 智弘	名大院・生命農	○
O1-Y08 26(木) 11:15	山田 聡美	奈良女子大院・人間文化			吉田 保志子	中央農業総合研究センター	
O1-Y28 26(木) 15:30	山田 俊弘	熊本県立大・環境共生	○		吉田 洋	山梨県環境研・動物生態	
O1-X23 26(木) 14:15	山田 雅仁	北海道農業研究センター	○	P1-060c 26(木) Poster	吉竹 晋平	広島大院・生物圏	○
P3-165c 28(土) Poster	山中 香	名大院・生命農	○	P1-163c 26(木) Poster	吉場 理恵	宇都宮大院・農学	
P2-051 27(金) Poster	山中 武彦	農業環境技術研		P3-170c 28(土) Poster	吉村 謙一	神戸大・自然科学	
P3-132c 28(土) Poster	山中 裕樹	京都大・生態学研究センター	○	P3-004 28(土) Poster	吉本 治一郎	京大院・農	○
O2-X05 27(金) 10:30	山中 正実	(財) 知床財団	○	O2-X10 27(金) 11:45	米倉 竜次	岐阜県淡水魚研	
P1-135c 26(木) Poster	山平 寿智	新潟大・理	○	P1-151c 26(木) Poster	米田 一平	帯広畜産大院・畜産環境科学 専攻	○
O1-Y26 26(木) 15:00	山村 光司	農業環境技術研		P2-150 27(金) Poster	米林 伸	立正大・地球環境科	○
O2-W01 27(金) 09:30	山村 則男	京都大・生態学研究センター	○	P3-099 28(土) Poster	米村 惣太郎	清水建設・(株) 技術研	
O1-Z08 26(木) 11:15	山村 靖夫	茨城大・理	○	O1-U31 26(木) 16:15	梁 乃申	国立環境研	○
O1-V09 26(木) 11:30	山本 昭範	筑波大・環境科学		P1-039 26(木) Poster	劉 建軍	筑波大・生物	
P1-174 26(木) Poster	山本 恵利佳	信州大・農			和 愛軍	東京大院・農学生命科学	○
P1-073c 26(木) Poster	山本 佳奈	京都大・工学		P3-075 28(土) Poster	若菜 勇	阿寒湖畔 EMC	○
O1-V22 26(木) 14:00	山本 圭太	岡山理科大	○	P2-080c 27(金) Poster	若林 恭史	東邦大・理	○
	山本 聡子	(財) 上越環境科学センター	○	P2-143 27(金) Poster	若松 伸彦	横浜国大院・環境情報	○
	山本 隆史	岐阜大		S7-1 28(土) 09:30	鷺谷 いづみ	東大院・農学生命科学	○
	山本 哲朗	横浜国立大院・環境情報			和田 英太郎	総合地球環境学研	○
P2-103 27(金) Poster	山本 智子	鹿児島大・水産	○	P1-011 26(木) Poster	和田 直也	富山大・極東地域研究セン ター	
P1-022 26(木) Poster	山本 福壽	鳥取大・農		P3-078 28(土) Poster	渡辺 温	(株) 地域環境計画	
P3-054 28(土) Poster	山本 正晃	信州大・農		P3-059 28(土) Poster	渡辺 修	さっぽろ自然調査館	○
	八代田 千鶴	岐阜大院・連合獣医		S4-1 27(金) 09:30	渡邊 定元	森林環境研	○
P1-175 26(木) Poster	湯本 裕之	明治大院・農学	○	P3-089 28(土) Poster	渡邊 園子	東京情報大・環境情報	○
P3-174c 28(土) Poster	尹 朝熙	広島大院・生物圏科学	○		渡邊 綱男	環境省東北北海道地区自然保 護事務所	
P2-016c 27(金) Poster	横井 智之	京大院・農	○	P2-065c 27(金) Poster	渡辺 名月	鹿児島大院・理工学	○
	横沢 正幸	農業環境技術研・地球環境部		P3-060 28(土) Poster	渡辺 展之	さっぽろ自然調査館	○
P3-130c 28(土) Poster	横畑 泰志	富山大・教育	○	P2-146 27(金) Poster	渡辺 雅子	北海道大・厚岸臨海	○
O1-X03 26(木) 10:00	横溝 裕行	九州大・理	○		渡辺 守	筑波大・生物科学系	○
	横山 潤	東北大院・生命科学	○	P2-155 27(金) Poster	渡辺 陽子	北海道大院・農学	○
	横山 純	酪農学園大・環境システム	○	P2-100 27(金) Poster	綿貫 豊	北海道大院・水産科学	○
P3-125c 28(土) Poster	横山 真弓	兵庫県立人と自然の博物館	○		綿野 泰行	千葉大・理	○

講演・日時	名前 所属	懇親会
O1-W26 26(木) 15:00	Baxter, Colden Colorado State University	○
P3-081 28(土) Poster	Buot, Jr., Inocencio University of the Philippines Los Banos	
	de Guia, Anna Pauline Hokkaido University	
O2-X03 27(金) 10:00	Echenique-Diaz, Lazaro M. 東北大・生命科学	○
P3-026c 28(土) Poster	Hembry, David 京都市大・生態学研究センター	○
S9-3 26(木) 09:30	Hong, Sun-Kee Forest Science Institute, Kookmin Univ., Seoul	○
P2-057 27(金) Poster	Ihm, Byung-Sun Department of Biology, College of Natural Science, Mokpo National Univ.	○
P3-179c 28(土) Poster	Jiang, Zhaowen 山梨環境科学研	
O1-V31 26(木) 16:15	Khan, Nabiul Islam 琉球大・理	
S1-6 28(土) 09:30	Krestov, Pavel Institute of Biology and Soil Science	
O1-U20 26(木) 13:30	Mabuhay, Jhonamie Hiroshima University	
O1-U05 26(木) 10:30	Majuakim, Luiza Kyoto University	

講演・日時	名前 所属	懇親会
S9-1 26(木) 09:30	Plachter, Harald Philipps University	
S1-8 28(土) 09:30	Pott, Richard Hannover University	
O1-Y11 26(木) 12:00	Rossberg, Axel 横国大・環境情報	○
O2-V02 27(金) 09:45	Schlicht, Robert Department of Biology, Kyushu Univ.	
S1-2 28(土) 09:30	Speier, Martin Hannover University	
O1-Z11 26(木) 12:00	Tay, Ai Chen 奈良女子大院・人間文化	○
O1-Y12 26(木) 12:15	Telschow, Arndt Center for Ecology Research, Kyoto Univ.	○

てくにかのーと

釧路大会のデータ処理はすべてプログラミング言語 Perl によってなされています。またこの印刷版プログラム・要旨集の組版は(日程表生成・図への文字入れなどなども含めて) \LaTeX で行いました。Perl も \LaTeX もインターネット上で誰でも自由に入手できます。これを実現するために、世界各国の多くの人々が開発に貢献して発展しつつあるソフトウェアです。

2004年6月

データ処理・組版: 久保拓弥
地図作成: 赤坂宗光
会場図作成: 平林結実
校正協力: 北大の院生たち

● 第52回日本生態学会大会 (2005年3月 大阪) のご案内

日本生態学会第52回大会は2005年の春(3月)に大阪で開催する予定です。近畿地区の担当年ということで、大阪府立大学、大阪女子大学を中心に大阪地区の会員でお世話することになりました。釧路大会からあまり間がありませんので、準備が大変だとは思いますが、全国どこからでも来ていただきやすい大阪での開催ですので、多数ご参加ください。北海道のような大自然には恵まれていませんが、大会開催時期には甲子園での選抜高校野球大会観戦の楽しみもあります。「食い倒れの街」大阪、「こてこての街」大阪を大いにお楽しみください。

会場は、大阪の中心地、中之島に2000年4月にオープンした大阪国際会議場(グランキューブ大阪)です。主要なホテルや繁華街にも近く、最寄り駅の阪神電鉄福島駅から甲子園までは14分、JR大阪環状線福島駅からユニバーサルスタジオジャパンまでは10分と大変便利な場所にあります。

快適な会場で多数の方に講演していただきたいと考えていますが、会場の有効利用のため、一般講演につきましては、口頭発表とポスター発表の配分を調整させていただきます。どうぞ、ご協力をよろしくお願いします。

それでは、大会実行委員一同、皆様のご来阪をお待ちしています。

日程: 2005年3月27日(日)から30日(水)

会場: 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51

TEL: 06-4803-5555(代表) / FAX: 06-4803-5620

<http://www.gco.co.jp/japanese.html>

問い合わせ連絡先: 難波 利幸

大阪女子大学理学部環境理学科

〒590-0035 堺市大仙町2-1

TEL: 072-222-4811(代表) / FAX: 072-222-4791

EMAIL: jes52@center.osaka-wu.ac.jp

大会公式ホームページ: <http://jes52.cool.ne.jp/>